

ハワイ・北米における日本人移民および 日系人に関する資料について(3)

神 繁司

はじめに

I. 外交史料(外務省資料)

- [1] 外務省記録
- [2] 日本外交文書
- [3] 領事報告
- [4] その他

II. 府県庁等地方公文書・県史等地方史誌

- [1] 地方公文書
- [2] 地方史誌

III. 統計・名簿・名鑑・年表

- [1] 統計
- [2] 名簿・名鑑
- [3] 年表

(資料番号: 1—153, 以上第47号)

IV. 文献・史資料目録

- [1] 各機関所蔵目録
 - (1) 国内諸機関所蔵目録
 - (2) ハワイ・アメリカ諸機関所蔵目録
 - (3) カナダ諸機関所蔵目録
- [2] 邦語文献目録
- [3] 欧文文献目録

V. レファレンス・ワーク

- [1] 辞典・事典
- [2] 参考図書

(資料番号: 154—264, 以上第48号)

VI. 概説書

- [1] 研究史
- [2] 通史・概説書
 - (1) 移民政策・移植民論
 - (2) 通史・概説
 - (3) 資料集・叢書

(資料番号: 265—447, 以上本号)

[資料の配列について]

資料への配列は、概ね、各項目において一般的・総論的なものから個別主題的なものへ、また各資料の刊行順を原則とし、同一編著者によるものは、各資料の刊行順に纏めて収録した。また邦語・欧文と区別していない項目においては、邦語資料・欧文資料の順で収録し、それぞれ翻訳のあるものについては、原書に続けて翻訳書を収録し、解説を付した。なお、既出資料については、初掲の資料番号のままでも再録し、適宜参照を入れた。既出箇所の解説も併せて参照されたい。注¹⁹⁾参照。

VI. 概説書

「VI. 概説書」では、まず[1]研究史で、様々な問題意識の基に多様なアプローチを採る「移民研究」の史的整理を行なう文献を概観し、次に[2]通史・概説書では、「移民政策・移植民論」を含め、いわゆる主な「通史・概説・研究」書の類、近年その傾向が顕著な、重要史料を底本とする復刻「資料集」及び一般向けのアンソロジーを収録する。

[1] 研究史

この分野に属する論稿は、移民の概念・背景・問題意識・研究法・論点等において顕著かつ重要な数多の関係資料・文献を、一定の引照基準に従って整理しており、資料検索のガイドとして何れもまず眼を通すべきものである。全般的なものほかに、個別主題及び英文資料に関する研究史、並びに「研究動向」と題するものも若干収録した。

なお、「日本移民学会」第7回大会(1997年12月、於：関西学院大学)シンポジウムは「移民研究の現状と課題」をテーマとし、その報告及びコメントが『移民研究年報』第5号に掲載されているので、最近の移民研究の動向を概観するものとして併せて参照されたい(「移民研究の現状と課題 I <特集>」『移民研究年報』5:1998.12, pp.53-97 <Z3-B399>)。

【全般】

199. 移民研究会編『日本の移民研究 動向と目録』日外アソシエーツ, 1994

<DC812-E190>

「第1部 研究史整理」(pp.9-166)は、現時点での日本における移民研究史の集大成として、問題ごとの資料把握に際し、第一に頼られるべきレファレンス・ワークである。「I 出移民-1 基本的理解-A 研究史整理および目録」(pp.11-12)

において、いわゆる「研究史整理」を纏めており、前掲215『人口大事典』平凡社、1957 <334.036-H418z> (『参考書誌研究』No. 48, p. 48参照) を「当時の研究水準が手際よくまとめられ」た「戦後の移民研究の出発点」として掲げている。

265. 木村健二「明治期日本人の海外進出と移民・居留民政策 (1, 2・完)」『**商経論集**』35 : 1978. 9 pp. 73-90, 36 : 1979. 1 pp. 95-118 <Z3-101>

(1) において、明治初頭より日清戦争後に至る日本人の海外進出と移民・居留民政策を、ハワイ・アメリカへの「奴隸的」移民と植民圏への「侵略的」進出を対比させ論じ、(2・完) において、「補論 明治期移民問題の研究史整理」として、「用語」「統計数量」「移民の総過程」「時期区分」について整理、問題提起を行なう。年表「移民保護法における『移民』規定の変遷」「『帝国統計年鑑』「海外行事由別人数」における項目の変遷」等有用な表も多い。

196. 木村健二「戦前期日本移民学の軌跡」『**移住研究**』26 : 1989. 3, pp. 10-28

<Z3-854>

各種文献目録から移民関係文献を抽出¹⁾。戦前段階での移民研究の到達点を、「人権」に関する位置づけの変遷という問題意識で、「人口論」「社会政策」「地理学」「移民政策」「移民会社・団体」「移住先に関する提言」「排日とその対応策」「在米日系二世問題」「国際会議」「移民の経済的価値」「各国への出移民」の項目で整理する。しかし、移民送出と「同時代的に発表された論稿を『研究史』の枠内に入れて評しうるかという問題がある」という指摘 (自評) がある²⁾。本文と対応した「戦前期移民関係邦語文献目録」(pp. 19-28) を付す (『参考書誌研究』No. 48, p. 29参照)。

266. 木村健二「近代日本の移植民研究における諸論点」『**歴史評論**』513 : 1993. 1, pp. 2-15 <Z8-284>

上掲265「明治期……」、196「戦前期……」の続編となるもの。「移植民研究の問題意識について」「移植民の用語について」「統計数値の掌握と相互比較の必要」の項目で、いわゆる「移民ブーム」期の資料を中心に近年の研究動向における問題意識を整理する。

267. 正田健一郎「日本資本主義と移民」社会経済史学会編『**社会経済史学の課題と展望**』有斐閣、1984 (社会経済史学会創立50周年記念), pp. 309-318 <DC2-28>

移民問題を、日本が世界資本主義体制に参入していく過程で直面しなければならなかった最先鋭な問題として捉えることで、「対米移民と満州移民との関連性」を問題意識とし、研究史を整理する。

268. 石川友紀「日本移民研究のための基礎理論」『**汎**』1 : 1986. 6, pp. 36-53 (講座「移民学、確立への方向性を探る」) <Z23-548>

「移民本質論／(一)「移民」の定義 (二) 移民の理念 (三) 移民の動機・要因」「移民研究の意義および研究法」「移民史研究の重要性」「現地調査による移民の事例研究」「比較移民論」の構成で、移民研究のアウトラインを提示する。その分析・整理に基づき、「移民研究総論の充実」「現地調査による移民の事例研究、比

較移民論等各論の充実」「学際的〈移民学〉構築への努力」「科学的実証的研究推進のための共同研究体制の必要性」「〈移民学〉会の組織化」を提案する。

269. 佐々木敏二「日本人移民史研究にいま何が必要か『石川友紀論文』の問題提起を補完して」『汎』3：1986. 12, pp. 200-209（講座『移民学』確立への方向性を問う）
〈Z23-548〉
「移民という概念の内包と外延」「移民の動機・要因」「移民研究の意義と研究法」「移民史研究の重要性」「現地調査による移民事例研究」「比較移民論」「移民受入国の移民史の課題」「『移民の理念』批判」という枠組みで、上掲石川論文(268)のアプローチに対する、もう一つの方法論を提示する。
197. 糸井輝子「日本におけるアメリカ研究の発達と現状—Ⅰ. 日本における日本人移民・日系アメリカ人研究（1）1920年代以前」『東京大学アメリカ研究資料センター年報』13（1990年）：1991. 3, pp. 18-24（文献目録：pp. 31-42）〈Z41-1712-B〉
「出移民」「ハワイ」「アメリカ合衆国（1920年代まで）」の区分で、アメリカ研究における「日本人移民・日系アメリカ人研究」の位置づけを問題意識とし、1990年までの到達水準を整理する。
198. 飯野正子「日本におけるアメリカ研究の発達と現状—Ⅰ. 日本における日本人移民・日系アメリカ人研究（2）1930年代以降」『東京大学アメリカ研究資料センター年報』13（1990年）：1991. 3, pp. 25-30（文献目録：pp. 31-42）〈Z41-1712-B〉
上掲197. 糸井との共同報告。1930年代以降のアメリカ及びカナダにおける「日本人移民・日系アメリカ（カナダ）人」に関する研究を、「強制立退きと収容」「市民権」「同化・アイデンティティ」「カナダの日系人」のテーマで整理する。
200. 廣部 泉「日本におけるアメリカ研究の発達と現状—Ⅱ. 日本におけるアメリカのエスニシティ研究（2）アジア系移民に関する歴史研究を中心に」『東京大学アメリカ研究資料センター年報』17（1995年）：1996. 3, pp. 79-94（文献目録：pp. 86-94）
〈Z41-1712-B〉
上掲、糸井（197）・飯野（198）両報告の補遺となるもので、爾後5年間の研究動向を整理する³⁾。「出移民」「ハワイ」「カナダ」「第二次世界大戦、強制立退き・収容、再定住、補償運動」「アメリカ合衆国及びその他」と旧来の区分けが踏襲されているが、日系アメリカ人からアジア系アメリカ人の研究へ、また各マイノリティ相互関係の研究等、この分野での新たな趨勢を反映して、「日系以外のアジア系移民研究」が調査範囲に加えられたのが特徴的である。
- 【日系カナダ人】⁴⁾
270. 飯野正子「文献解題」『日系カナダ人の歴史』東京大学出版会、1997、巻末pp. 7-20
〈DC812-G56〉
日系カナダ人に関する、数少ない、文献解題及び研究史。多文化主義やアメリカとの比較にもふれ、英語文献も収録する。
- 【出移民の社会地理学的研究】⁵⁾
271. 石川友紀「研究史及び本研究の意義」『日本移民の地理学的研究—沖繩・広島・

山口一』榕樹書林, 1997, pp. 18-41

<DC812-G53>

地理学的観点から, 出移民の研究史を第二次世界大戦前と大戦後に大別して考察。移民論・植民論, 移民の適応・順応, 同化・変容についても整理する。

【日系社会・移民農業】

272. 矢ヶ崎典隆「日本におけるアメリカ研究の発達と現状—Ⅰ. 日本におけるアメリカ地理研究(1) アメリカ人文地理研究」『東京大学アメリカ研究資料センター年報』15 (1992年): 1993. 3, pp. 26-38 (文献一覧: pp. 34-38) <Z41-1712-B>
同センター主催のアメリカ研究研究会「日本におけるアメリカ地理研究」(1992年(平成4)11月28日)における報告。日本における「アメリカ人文地理学」の研究課題を, 「地誌的な研究」「農業・農業地域の研究」「民族・社会・文化の研究」「その他の研究」に大別して検討。「民族・社会・文化の研究」において, 日系社会・日系移民農業の研究史を概観する。北米における移民農業に関する研究は, 日系移民史の他の分野に比べ, 比較的蓄積の少ない領域であるので, この纏めは有用である。『移民農業 カリフォルニアの日本人移民社会』古今書院, 1993<DM81-E14>(後掲)は, カリフォルニアの日系移民農業に関する, これまでの矢ヶ崎の論稿を纏めたもの。「序章 カリフォルニア農業と日本人移民」(pp. 1-16)で, 移民農業に関する地理学研究を展望している。

【日系宗教】

273. 吉田 亮「研究史」『アメリカ日本人移民とキリスト教社会—カリフォルニア日本人移民の排斥・同化とE・A・ストーリー』日本図書センター, 1995, pp. 11-14 <HP77-G1>
アメリカ宗教史及びアメリカ日系宗教研究史を概観する。

【日系文学】

274. 小林富久子「日本におけるアメリカ研究の発達と現状—Ⅱ. 日本におけるアメリカのエスニシティ研究(1) アジア系アメリカ文学に関する研究」『東京大学アメリカ研究資料センター年報』17 (1995年): 1996. 3, pp. 66-78 (日本におけるアジア系アメリカ文学研究文献リスト: pp. 73-78) <Z41-1712-B>
同センター主催のアメリカ研究研究会「日本におけるアメリカのエスニシティ研究」(1995年(平成7)12月23日)における報告。日本における「日系文学に関する研究—文学史/一世の日系文学/強制収容所内の日系文学/二, 三世の日系文学」「日系以外のアジア系文学研究」について概観する。

【日系新聞】⁹⁾

275. 太田 勇「アメリカの民族新聞研究の動向と課題」『地理学評論』Ser. A, 65(9): 1992. 9, pp. 689-715 (文献: pp. 711-713) <Z8-571>
アメリカの社会状況に焦点を当て, 「民族の同化・吸収, 疎外」論における民族新聞の役割に関する研究動向を, 主要民族グループ別に紹介。「Ⅲ 個別民族集団の民族紙研究 2. アジア系紙 1) 日本系紙」(pp. 698-700)において, 邦語・英語各4の文献, 新聞記事及び聞き取り調査を基に, 日系新聞の消長を辿る。「地理学

が民族紙の存立基盤をいかに捉えるべきか」という観点から、日系新聞に関するいわゆる「研究史」とはなっていないが、日系新聞の今後の帰趨に関し示唆的である。

【強制収容・戦時交換・戦後送還】

231. アラン・T. モリヤマ著、金子幸子訳「アメリカ日系人強制収容に関する文献 研究動向と課題」『汎』12：1989. 4, pp. 206-222 (共同研究 日系人強制収容の全体像を追う②) <Z23-548>

強制収容関係英語文献の整理 (前掲『参考書誌研究』No. 48, p. 36参照)。

276. Sugimoto, Howard H. 'A Bibliographical Essay on the Wartime Evacuation of Japanese from the West Coast Areas', Conroy, Hilary and Miyakawa, T. Scott, eds. **East Across the Pacific: Historical and Sociological Studies of Japanese Immigration and Assimilation**. Santa Barbara and Oxford: American Bibliographical Center-Clio Pr., 1972, pp. 140-150. (with Rhoads Esther B. "My Experience with the Wartime Relocation of Japanese.", pp. 127-140)

<DC812-8> <岸-138>

日系移民全般も含め強制収容に関する研究・著作の整理。WRAほか政府刊行物についても纏める。

277. 村川庸子・糸井輝子「従来の研究概略と文献」『日米戦時交換船・戦後送還船「帰国」者に関する基礎的研究—日系アメリカ人の歴史の視点から—』トヨタ財団, 1992 (トヨタ財団助成研究報告書 025), pp. 10-16 <DC812-E139>

日系アメリカ人の戦争体験, 強制立ち退きから戦時交換船・戦後送還船に至る日・米史資料の纏め。

【移民研究と資料】

278. 阪田安雄「移民研究の歴史的考察とその課題」『日系移民資料集 北米編18 解説・資料編』日本図書センター, 1994 <DC812-E118>

「はじめに」において、移民研究における原資料の問題性を指摘し、移民研究の充実発展には、研究者が研究に専心できる環境の整備が必要であり、解説付文献目録の作成・資料の覆刻・資料集成の編纂が、その重要な第一歩であるとする。その認識の基に「I 移民研究における二つの空間—アメリカの日系人研究資料コレクションの評価—」では、サンフランシスコ大火や強制収容による消失資料を軸に、カリフォルニア大学ロサンゼルス校 (UCLA) 「日系人研究プロジェクト (JARP) *Japanese American Research Project*」コレクション (後述, 以後本号, 'UCLA・JARPコレクション' と略記。) の概観・評価を行なう。「II 『日系移民資料集』北米編・解説」では、『日系移民資料集 北米編』所収資料と所収されなかった重要資料の解説がなされる。本文・注釈を併せ、邦語・英語の重要文献が網羅され、単なる資料集の解説にとどまらず、監修者阪田の持論が如何なく發揮された「移民資料概論」となっており、移民研究において熟読玩味すべき必携の一巻となっている。(以後、『日系移民資料集 北米編18 解説・資料編』を引用す

るときは、基本的に、阪田278『資料集 解説・資料編』と略記、〈巻末資料〉「北米移民」関係文書・文献資料目録（明治・大正期）部分の引用に際しては、阪田278『資料集 解説・資料編』〈巻末資料〉と略記する。）

279. 阪田安雄「戦後50年と日系アメリカ人史研究—語られない1930年代—」『移民研究年報』1：1995. 3, pp. 3-42 <Z3-B399>

「I. 『在米日本人史』研究の基礎となる文献資料に内在する『偏向』」「II. 戦後の日系人研究資料蒐集—その理想と現実」「III. 戦後に沈黙を守る一世」「IV. 事件発生時の記録と『回顧談』—微妙な食い違い」「おわりに—強制収容に対する補償問題と1930年代の歴史」以上の構成で、いわゆる「両大戦間期」における「日系人史研究の空白」の原因とその影響を、浩瀚な資料の裏付けの基に考究する。

280. 阪田安雄『『渡り鳥 (birds-of-passage)』とその社会—秘められた過去』同志社大学人文科学研究所編『在米日本人社会の黎明期「福音会沿革資料」を手がかりに』現代史料出版, 1997 (同志社大学人文科学研究所研究叢書 27), pp. 3-78

<HP77-G4>

いわゆる研究史ではないが、史実と資料（研究）という観点から黎明期の在米日本人史（ハワイを除く）研究の問題点を考察する。阪田安雄・吉田亮による「序」（pp. I-X）も参照のこと。

【エスニシティ】

281. 綾部恒雄「日本民族学におけるエスニシティ研究」『現代世界とエスニシティ』弘文堂, 1993, pp. 273-297 <EC131-E10>

エスニシティ概念を「民族集団やその成員の表出する性格やアイデンティティの総体」として明確に認識した、1990年までの日本の民族学研究史を概括する。「アメリカ合衆国及びブラジルのエスニシティ」「カナダのエスニシティ」において民族集団一般及び日系社会に関するエスニシティ論を整理する。

【英語文献】⁷⁾

282. 小川全夫, Charles Choy Wong「アメリカ在住日本人及び日系人研究の動向」『山口大学文学会誌』40：1989. 12, pp. 47-63 <Z22-433>

個々の研究史整理ではなく、日系アメリカ人社会の動向とその研究テーマを、「書誌分析」を基に概観する。

183. 'A Survey of the Historical Literature', Ichioka, Yuji, et al., comp. **A Buried Past: An Annotated Bibliography of the Japanese American Research Project Collection**. Berkeley and Los Angeles: Univ. of California Pr., 1974, pp. 4-11. <D1-107> <岸-702>

英語文献による研究史を概観し、日本語史資料に基づく研究の必要性を説く⁸⁾。前掲184. Sakata, **Fading Footsteps of Issei**, pp. 1-17 <移(四)-Y2> も参照のこと。

218. Kim, Hyung-chan, ed. **Asian American Studies: An Annotated Bibliography and Research Guide**. Bibliographies and Indexes in American History,

No. 11, New York, Westport, London: Greenwood Pr., 1989. <E1-A104>

英語文献に関する研究史整理では最も精緻なものだと思われる(前掲『参考書誌研究』No. 48, p. 50参照)。

283. 'Bibliographic Essay', O'Brien David J., Fugita, Stephen S. **The Japanese American Experience. Minorities in Modern America**, Bloomington: Indiana Univ. Pr., 1991, pp. 147-154. <DC812-A44> <移(四)-Y21>

日本人一般の特質から初期の移民, 強制収容及び第二次大戦後の日系社会, 日系アメリカ人の将来まで, 本文の構成にあわせて英語文献を整理。

284. 'Bibliographic Essay: The State of Japanese American History', Spickard, Paul R. **Japanese Americans: The Formation and Transformations of an Ethnic Group**. Twayne's Immigrant Heritage of America Series, New York: Twayne Publishers; London: Prentice Hall International, 1996, pp. 177-185.

<未所蔵>

年代順及びそのアプローチの方法等により研究史を整理。比較的最新の文献まで含まれるので有用。カナダや中南米における日系移民及び他民族集団との比較研究を提示する⁹⁾。

[2] 通史・概説書

ここでは、いわゆる通史・概説書の類を取り上げるが、「(1) 移民政策・移植民論」「(2) 通史・概説」「(3) 資料集・叢書」という分け方は、あくまでも便宜的分類であり、特に移民政策・移植民論と通史等、一刀両断に判然としかねる資料も多い。「渡米論」は「(1) 移民政策・移植民論」に含め、個々のテーマに特化しない「研究書」の類は「(2) 通史・概説」に含めた。復刻・再録資料については、原本における複製版の注記、及び復刻資料における原本の注記を省略したものもあるので、(1)(2)(3)を相互に参照されたい。また、「移民関係資料についての緩やかな概観を与える」という本稿の目的からして、基本的かつ重要だと思われる資料を選択収録せざるをえず、個々の収録資料についても単に目次掲出にとどまっている点等、ご理解を願えれば幸いである。

(1) 移民政策・移植民論¹⁰⁾

285. 武藤山治『米国移住論』丸善, 明20 <YDM41359>

「緒言」「気候」「農業」「工業」「商業」「支那移住民事情」「カルホルニヤ洲近隣諸洲ノ状況」「移住会社設立ノ必要ヲ論ス」からなる。1885年(明18)第一回官約移民船に乗船, 渡米。滞米三年, カリフォルニアの中国人労働者の成功に刺激を受け, 移民会社設立の必要性を説き, 下層労働者の米国移住を奨励する。(武藤山治全集刊行会編『武藤山治全集』第1巻, 新樹社, 1963 <081.8-M995m>に再録。)

286. 長澤別天(説)『ヤンキー』敬業社, 明26 <YDM26978>
 長澤別天は、志賀重昂・三宅雪嶺らを中心とした国粹主義雑誌『日本人』『亞細亞』の編集に携わった、いわゆる「政教社」同人。『ヤンキー』は、スタンフォード大学留学中の北米通信や諸文を纏めたアメリカ論・日米関係論。アメリカ建国から説き、その歴史・社会・経済・文学等全般に及ぶなか「合衆国に於ける四千の同胞」「布哇の現勢、日本人の参政権」等移民問題を論じ、人口過剰対策としての日本の殖民政策を批判する。(伊藤整他編『日本現代文学全集 13 明治思想家集』講談社, 1968 <918.6-N6842-I>に抄録。松本三之介編『明治文学全集 37 政教社文学集』筑摩書房, 1980 <918.6-M4482>に、「日本人問題」等ともに再録。)¹¹⁾
287. 奥宮健之『北米移民論 附・人口問題』明義舎出版部, 明36 <YDM41360>
 「第一章 北米の地理及び其の発達」「第二章 各国移民の状況」「第三章 日本移民の現状」「第四章 日本人排斥の真相」「第五章 渡航者の制限を全廃し移住殖民を国是と為す事」「附録／一 人口論／二 北米通信併に最近シーヤトル新聞記事／三 北米合衆国制定移民に関する諸條例各規則」からなる。マルサス『人口論』に影響を受け、貧困の原因を人口過剰にあるとして、渡航制限全廃と移民国是策を提唱、北米移民による解決を図る。(阿部恒久編『奥宮健之全集』上巻, 弘隆社, 1988 <A22-E6>に、「渡米航海日記」「米国見聞記」「シヤトル通信」等とともに再録。)¹²⁾
288. 大河平隆光『日本移民論』文武堂, 明38 (新渡戸稲造聞) <YDM41343>
 *緒論／「第一章 人類移動の歴史」「第二章 植民と移民」「第三章 近時宇内の大勢と日本の地位」*本論／「第四章 本邦移民往住の原因」「第五章 本邦移民往住の方法」「第六章 本邦移民の往住地」「第七章 本邦移民の労働」「第八章 本邦移民の海外に於ける状態」「第九章 本邦移民排斥の運動」「第十章 本邦移民の我国に及ぼす影響」*結論／「第十一章 移民に関する論争」「第十二章 政策及経営」「第十三章 本邦移民の将来」からなり、「獨逸移民保護法及附属諸法規」を付す。¹³⁾
289. 東郷 実『日本植民論』文武堂, 明39 (新渡戸稲造校聞) <YDM41346>
 植民・移民の概要とともに、特に朝鮮・満州・台湾における農業植民の急務を説く。日露戦争の後だけに、日本の軍事的優位性にとって植民が必要であることを論ずる。¹³⁾
290. 穴田秀男「我が移民及移民政策の過去と其の将来に対する考察」『名古屋高等商業学校創立第拾周年記念論文集』名古屋高等商業学校創立第十周年記念論文集編輯委員, 昭6, pp. 373-414 <特201-22> <552-330>
 「一、移民及移民政策の意義」「二、過去に於ける我が移民政策」「三、我が現行移民政策」「四、我が海外移民の現況」「五、我が移民政策の将来に対する考察」よりなる。
291. 浜野秀雄『日本移民概史』海外興業, 昭12 <653-370>
 「序説 一 明治以前に於ける邦人の海外発展／二 近代日本移民史総説」「第一章 布哇移民時代」「第二章 北米移民時代」「第三章 南米移民時代」「第四章 移

民政政策の変遷」からなる。

292. 日本海外協会連合会編『海外移住の効果 その経済的観点よりの考察』日本海外協会連合会, 1957 <334.4-N685k2>
「海外移住の効果」について, 経済的・統計的事実に基づいて調査。「第一節 母国訪問に際して消費する金額」「第二節 運輸会社に支払った金額」「第三節 本国への物品贈与」「第四節 本国への送金額」「第五節 日本の在外銀行に対する経済的寄与」「第六節 本邦会社と在外日系人との共同企業」「第七節 移住者が海外に在住することによる輸出増加額」「第八節 結語」からなり, 付録として, 「I 和歌山県における移住の経済的効果についての調査」「II 移住に関する予算の変遷」「III 海外移住と国内開拓との比較」を付す。充分ではないが, 貴重な統計資料が含まれる。
293. 長尾武雄「昭和初期の海外移住移民事業」『移住研究』6:1970. 3, pp. 19-24 <Z3-854>
移民事務主務官庁と実務機関, 啓発活動, 国の助成等の変遷を通じ, 海外移住事業推進の必要性を説く。(ブラジル)
294. 若槻泰雄・鈴木讓二『海外移住政策史論』福村出版, 1975 <DC812-48>
戦後移住再開(1952年)後20年を経過し, 「国策としての移民政策」は完了したと考えるべき時点での, 移民政策全般についての綿密な研究。「第一章 海外の移住状況」「第二章 日本の海外移住再開の道程と姿勢」「第三章 移住の形態」「第四章 移民の階層と移住の動機及び目的」「第五章 入植の経緯と移住地の選定」「第六章 移住地の条件」「第七章 移民の状況」「第八章 移民に対する援護助成」「第九章 移住機構」「第十章 当面の問題と今後の見通し」からなる。

(2) 通史・概説¹⁴⁾

【全般・ハワイ・北米】

295. 横山源之助(有機逸郎)『海外活動之日本人』松華堂, 明39(島田三郎序) <YDM41424>
『日本之下層社会』の著者横山源之助が, 実地踏査者の見聞に材料を得, 統計上の数字を外務省及び領事の報告に拠って, 「生活問題解決の一策として」の移住移民問題を論じ, 海外で活躍する人物(赤羽忠右衛門・我孫子久太郎・相川之賀ほか)を紹介する。「第一 北米合衆国」「第二 英領加奈陀」「第三 アラスカ」「第四 南米大陸」「第五 墨西哥共和国」「第六 布哇諸島」「第七 東洋諸国」「第八 南洋諸島」で構成。¹⁵⁾
296. 大日本文明協会編『日本人の海外発展』大日本文明協会事務所, 大5(新渡戸稲造序) <334.41-D17n>
「開国進取」の国民的精神を鼓舞, 併せて同胞の海外発展の実況を紹介し, 今後の進歩に資するという, 第一次大戦下の時勢の急務に応じ刊行。「第一章 緒論/一 過去に於ける海外発展/二 海外発展の現況と今後の大勢」「第二章 支那本

部」「第三章 滿蒙及西比利亞」「第四章 印度及東南亞細亞」「第五章 比律賓及南洋諸島」「第六章 濠洲及布哇」「第七章 北米の日本人／一 加奈陀の日本人／二 日米關係と移民問題／三 米國日本移民の沿革／四 合衆國太平洋沿岸の日本人／五 合衆國他地方の日本人／六 墨西哥及中米」「第八章 南米の日本人」「第九章 歐洲諸國及南阿」からなる。「海外發展は必至の國是」という觀點が貫かれる。

297. 入江寅次『邦人海外發展史』上, 海外邦人史料会, 昭11 <716-73><移(一)-56>
 298. 入江寅次『邦人海外發展史』上, 國際日本協會, 昭11 <716-73イ>
 299. 入江寅次『邦人海外發展史』上・下, 移民問題研究会, 昭13 <716-73ロ><移(三)-139・移(一)-57>

300. 入江寅次『邦人海外發展史』井田書店, 昭17 <716-73ハ><山本-243>

109. 入江寅次『邦人海外發展史』上・下合本, 井田書店, 昭17 <334.41-I496h>

入江寅次『邦人海外發展史』上・下, 原書房, 1981(明治百年史叢書)(井田書店, 昭和17年刊の複製)(邦人海外發展史年表:下巻卷末pp. 1-8) <DC812-145>

上掲各版の刊行事情については, 109. 原書房(明治百年史叢書)版下巻卷末に, 矢野暢による解説がある。『邦人海外發展史』は, 一貫した「膨張主義的海外發展論」に裏付けられてはいるが, 外交文書等に依拠した千頁余に及ぶ大作は, その後多くの研究者の引用するところとなり, 日本移民史研究における「古典」となっている¹⁶⁾。以下に章立てを省略し, 章題のみを記す。

「史頭の概観」「『海外へ』の刺戟時代」「布哇官約移民開始と移民渡航後の騷動」「布哇政府の暴状と官約十年の收穫」「移民運動の勃興と移民周旋人」「各地創始移民事情」「布哇私約移民時代」「布哇移民上陸禁止事件」「南洋邦人黎明期」「樞本子墨國植民地計画とその失敗」「渡米者の増加とその活躍」「米國排日運動の勃興とカナダ及びアラスカの同胞」「秘露移民開始」「秘露第一回移民就働後の紛擾」「濠洲同胞の活躍と白濠主義」「米國の比島經營と日本移民」「布哇移民自由渡航時代」「日露戦争前後の在米同胞」「米國排日の炎上と転航禁止」「カナダ、メキシコの同胞と北米転入状況」「日伯移民交渉由来」「ブラジル移民渡航前景」「ブラジル移民渡航開始と渡航後の動揺」「第一回ブラジル移民離散の真因と移民会社の困難」「忍苦十年、ペルーの同胞」「布哇同胞の抗争とその敗北」「護謨企業の勃興と南方移民」「加州排日土地法施行前後」「聖州政府の宣告と朝野の対伯関心」「歐洲大戦と南洋の同胞」「敗残の夢の跡、南洋群島開拓者」「危難殺到の北米同胞」「秘露契約移民廃止と転向商業者の發展」「ブラジル同胞の躍進と植民地創設者の苦心」「邦人北米渡航の終焉」「亜國その他の南米同胞」「秘露同胞の現勢と移民制限令」「対伯企業陣の整備と移民制限」「南洋企業の壯觀と同胞の展望」「初期の在滿邦人」「日露戦争後の在滿邦人」「滿州事変後の滿州發展」「南進論、北進論の一瞥」「我國に於ける移民施設の変遷」

301. 入江寅次『移民九十年』外務省移住局第一課, 1958 <未所藏>

(<國際協力事業団図書館所藏> 前掲154. 押本「移住關係文獻解題目録」参照)

302. 入江寅次『海外移住100年の歩み』外務省領事移住部, 1968 <未所藏>

- (〈国際協力事業団図書館所蔵〉前掲154. 押本「移住関係文献解題目録」参照)
303. 大蔵省管理局 [編]『日本人の海外活動に関する歴史的調査』12冊, ソウル, 高麗書林, 1985 (複製) <AZ-641-31>
- 1946年(昭21), 大蔵省に「対連合国関係の賠償問題その他在外資産処理問題に関する内部執務資料の調査・収集・整備を担当する」機関として「在外財産調査会」が設置された。同調査会は、日本及び日本人の在外財産, 特にその歴史的生成過程に関する調査を行い, 1947年12月, 各地域ごとの報告書11篇を脱稿した。その後1950年7月までに, 「取扱注意」内部資料として200部が印刷され, 大蔵省管理局名義で刊行された。本書は, その複製版(海賊版)である¹⁷⁾。国立国会図書館では, 原本第25冊「関東州篇 満州篇第4分冊」〈DC812-G18〉のみ所蔵。北米移民関係は, 以下の巻・章・節に収録されている。
- # 通巻第一冊 (総論の二)「第三章 日本及其の植民地域に於ける人口の発達」—「第二節 日本の海外移民 (一) / 一、海外移民に関する統計 / 二、海外移民の渡航方向 / 三、海外移民政策の変遷」 「第三節 日本の海外移民 (二) / 一、ハワイ移民 / 二、濠洲移民 / 三、米国移民 / 四、カナダ移民」 (pp. 168-194)
- # 通巻第三十五冊 (欧米其の他諸地域篇)「第二章 北米」—「緒論」 「第一節 対米貿易 / 一、維新前の貿易 / 二、明治以降の貿易 / 三、世界第一次大戦以降の対米貿易 / 四、貿易上より観たる日米の関係 / 五、船会社、保険会社、金融機関」 「第二節 米国移民 / 一、米国移民の沿革 / 二、移民問題 / 三、移民法修正問題 / 四、我が移民の現況並に其の資産」 「第三節 加奈陀貿易」 「第四節 加奈陀移民 / 一、加奈陀移民の沿革及現況 / 二、移民問題 / 三、加奈陀移民の投資及資産」 (pp. 30-67)
130. 永井松三編『日米文化交渉史 5 移住編』洋々社, 1955 (日米移住史年表: pp. 611-629) <210.6-Ka186n> <山本-230>
- 永井松三編『日米文化交渉史 5 移住』原書房, 1981 (東洋文庫蔵の複製) (日米移住史年表: pp. 611-629) <GB385-15>
- 「アメリカ本土の部」と「ハワイの部」に分け, それぞれ漂流期から概ね1930年(昭5)までの通史と社会・文化・宗教・教育・産業等別歴史を詳細に綴る。本土部分は, 『在米日本人史』(本号364)等に基づき, 入江寅次・藤賢一・鈴木孝志・川村政平が史稿を提供。ハワイ部分は, 森田『布哇日本人発展史』(本号312), 山下『日本布哇交流史』(本号318)等に基づき, 山下草園が史稿を提供している。
- 『日米文化交渉史』全6巻中, 他の巻(1: 総説・外交, 2: 通商産業, 3: 宗教・教育, 4: 学芸風俗, 6: 本文総索引)も, 移民関係資料として有用なレファレンスとなっている。
304. 『わが国民の海外発展 移住百年の歩み (本編)』外務省大臣官房領事移住部, 1971 <DC812-18>
- 1968年(昭43), 移住百周年を迎え, その歩みを顧みるとともに新情勢に対応すべく, 海外移住諸資料を集大成したもの。次掲50『同 (資料編)』と併せ, 唯一の

オフィシャルな移民史として依拠すべきものであろう。構成は以下のとおり、()内は主な内容。

「第1章 海外移住の意義および施策」(外務省の基本的海外移住観と現行諸施策)「第2章 海外移住の歩み」(明治以前の邦人海外進出を含め、移住百年の概要、ハワイ・米本土・ブラジルへの移住の概略及び移住政策の変遷)「第3章 移住者の送出および受入れ」(送出については時系列、受入については受入国ごとの、戦前及び戦後の状況)「第4章 移住形態および移住先国の多様化」(技術移住・企業移住など移住形態の変化、米国・カナダ移住の進展とオーストラリア移住の展望)「第5章 移住関係政府機構の変遷」(移住主務官庁・関係官庁、海外移住審議会、海外移住事業団、海外協会、日本海外移住振興株式会社)「第6章 世界の移住の流れ」(欧州・米州諸国の移住、移住に関する国際協力及び国際機関)

50. 『わが国民の海外発展 移住百年の歩み (資料編)』外務省大臣官房領事移住部、[1971] (移住関係参考文献：pp. 573-612, 海外移住年表：pp. 613-636)

〈DC812-18〉

戦前の統計及び年表につき前掲 (『参考書誌研究』No. 47, pp. 29-30, p. 43)¹⁸⁾。全体の構成は以下のとおり。

1. 移住統計及び移住地概況／(1) 戦後の海外移住統計 (2) 渡航費政府貸付・支給分についての戦後の海外移住統計 (3) 戦前の海外移住統計 (4) 海外諸国在留同胞調査 (5) 移住地概況
2. 移住関係法令／(1) 国内関係法令 (2) 日本と中南米諸国との移住協定 (3) ブラジルの法令 (4) パラグアイの法令 (5) ポリヴィアの法令 (6) アルゼンティンの移住促進に関する政令 (7) 米国移民・国籍法改正法 (8) カナダ移民法施行規則 (9) オーストラリアの法令
3. 財政関係資料／(細目省略)
4. 移住関係団体、邦字紙、移住関係文献／(1) 主要移住関係団体リスト (2) 主要邦字紙一覧表 (3) 移住関係参考文献
5. 海外移住年表及地図

131. 今野敏彦・藤崎康夫編著『移民史 III アメリカ・カナダ編』新泉社、1986 (アメリカ・カナダ移民年譜：pp. 405-415) 〈DC812-200〉

第一部「アメリカ編」(ハワイを含む)、第二部「カナダ編」とし、入江『邦人海外発展史』(299)及び加藤『米国日系人百年史』(80)、その他主にアメリカ・ハワイ・カナダで発行された資料に基づき、移民前史の漂流奇談から太平洋戦後の動向までの、「差別」の足跡を辿る。前掲200。廣部「文献目録」は『移民史 III アメリカ・カナダ編』増補版、1994を収載しているが、国立国会図書館〈未所蔵〉、確認できなかった。『移民史 I 南米編』(1984年刊)『移民史 II アジア・オセアニア編』(1985年刊)は、既にそれぞれ増補版が刊行されている(1994年、1996年)。

305. 児玉正昭『日本移民史研究序説』溪水社、1992

〈DC812-E138〉

著者のこれまでの論文を再構成し、新たな論稿を書き加え、「第一編 ハワイの官約移民」「第二編 移民会社と移民」「第三編 明治後期の日本人移民の諸相」とし、明治期出移民の送出要因・送出過程、移住地での受入れ状況、移民の影響等について解明した本格的な研究書。外交史料や地方公文書等基本資料に基づいた基礎的・実証的研究は、日本出移民研究にとっての大きな財産として高く評価されている（『日本の移民研究 動向と目録』p. 24）¹⁹⁾。

306. 鈴木讓二『日本人出稼ぎ移民』平凡社、1992（平凡社選書 145）（参考文献：pp. 288-291）
〈DC812-E146〉
「初期の出稼ぎ移民」「オーストラリアへの出稼ぎ移民」「ハワイへの出稼ぎ移民」「アメリカへの出稼ぎ移民」「ペルーへの出稼ぎ移民」「ブラジルへの出稼ぎ移民」「そのほかの地域への出稼ぎ移民」「他国への転住」「密航者」「母国送金」「第二次大戦後の出稼ぎ移民」の章立てで、『日本外交文書』を主な典拠として纏めた国別移民史²⁰⁾。
42. 広島県編『広島県移住史 通史編』広島県、1993（広島県移住史年表：巻末pp. 1-17、付表 海外渡航者統計：巻末pp. 19-57）
〈DC812-E111〉
前述のように（『参考書誌研究』No. 47, p. 22）、包括的な記述は、同『資料編』（前掲43）とともに日本人移民史としても有用²¹⁾。
271. 石川友紀『日本移民の地理学的研究—沖縄・広島・山口—』榕樹書林、1997
〈DC812-G53〉
「出移民地域・移民母村における移民送出の過程」「移民受入国における移民の実態」「帰国移民の母村への影響」について、現地調査・地方公文書・家蔵文書・面接聴取調査等に基づき、地理学的アプローチで実証的・科学的に究明する。1982年提出の博士論文（広島大学、文学博士）を基に加筆修正し、新たな研究成果を加えたものであるが、上掲305。児玉『日本移民史研究序説』とともに、日本出移民研究史における一つの到達点を示す研究書である。
307. Kawakami, Karl Kiyoshi. **Asia at the Door: A Study of the Japanese Question in Continental United States, Hawaii and Canada.** New York: F. H. Revell, 1914.
〈Ba-547〉〈特7-01107〉
日本人移民の「同化可能説」論者としての立場を旗幟鮮明にした書。野口英世・高峰譲吉・牛島謹爾（ポテト王, George Shima）等アメリカにおける日本人（移民）の偉業を讃え、アメリカへの強い帰属意識を訴える。ハワイ・カナダの状況についても多くの頁を割く。²²⁾
308. Buell, Raymond Leslie. **Japanese Immigration.** World Peace Foundation, Pamphlets, v. 7, no. 5-6, pp. 281-380, Boston: World Peace Foundation, 1924.
〈325.252-B928j〉
1910年代から20年代にかけての、アメリカにおける日本人移民問題を中心に、カナダ・オーストラリア・ニュージーランド等におけるに日本人移民の受容について客観的に略述する。「紳士協約」（1907-08年）「排日移民法」（1924年）等この

間の排日の動向を、日・米の外交史料等により検証。小冊子ながら、日・米の外交書簡、米最高裁判決等 'Appendix' (pp. 342-380) が充実している。

309. Ichihashi, Yamato. **Japanese in the United States: A Critical Study of the Problems of the Japanese Immigrants and Their Children.** Stanford: Stanford Univ. Pr., 1932. (Select Bibliography: pp. 409-417)

〈325.252-II6j〉 〈325.252-I89j〉

Ichihashi, Yamato. **Japanese in the United States: A Critical Study of the Problems of the Japanese Immigrants and Their Children.** The American Immigration Collection, New York: Arno Pr. and The New York Times, 1969. (reprint of the 1932 ed.)

〈岸-291〉

日本人移民の到着から、排日運動、二世問題に至る1800年代後半から1930年代にかけてのハワイ及びアメリカ本土の日本人移民問題を考察する。排日運動の最中、日本人移民を保護し、アメリカ国民を啓蒙するために著された本書は、日本人による、日系移民に関するスタンダードなテキストとして、今日なお比類なく重要である。²³⁾

310. Smith, Bradford. **Americans from Japan.** The Peoples of America Series, ed. by Louis Adamic, Philadelphia: J. B. Lippincott, 1948. (Notes on Sources: pp. 390-392)

〈325.73-S643a〉 〈岸-569〉

ハワイへの日本人移民到着から第二次世界大戦の終結まで、第一部ではハワイ、第二部では強制収容を軸に、米本土における日本人移民・日系人の歴史を描写する。日系移民史における「二世」の重要性が基調となっている。

276. Conroy, Hilary and Miyakawa, T. Scott, eds. **East Across the Pacific: Historical and Sociological Studies of Japanese Immigration and Assimilation.** Santa Barbara and Oxford: American Bibliographical Center-Clio Pr., 1972.

〈DC812-8〉 〈岸-138〉

「元年者」(1868年)から強制収容まで、ハワイ・太平洋諸島圏及び北米における、日系移民に関する歴史学的考察と、文化受容・同化等に関する社会学的考察の部分から成る。Masaji Marumoto. "First Year' Immigrants to Hawaii & Eugene Van Reed." (pp. 5-39), Yukiko Irwin, Hilary Conroy. "Robert Walker Irwin & Systematic Immigration to Hawaii." (pp. 40-55) 等しばしば引用される論文が収録されている。

283. O'Brien David J., Fugita, Stephen S. **The Japanese American Experience.** Minorities in Modern America, Bloomington: Indiana Univ. Pr., 1991. (Bibliographic Essay: pp. 147-154, Refereces: pp. 155-168)

〈DC812-A44〉

(paperback ed. 〈移(四)-Y21〉)

移民初期から強制収容及び日系アメリカ人の将来まで、ハワイ及び米本土西海岸の日系コミュニティの歴史のなかに、日本人及び日系アメリカ人の文化・特質を探る。

284. Spickard, Paul R. **Japanese Americans: The Formation and Transformations of an Ethnic Group**. Twayne's Immigrant Heritage of America Series, New York: Twayne Publishers; London: Prentice Hall International, 1996. (Bibliographic Essay; The State of Japanese American History: pp. 177-185)

〈未所蔵〉

(1996, paperback ed. 〈未所蔵〉)

一世・二世・三世,そして戦後の新移民まで,広範な史資料により,日系アメリカ人のエスニック・アイデンティティの形成とその変容過程を検証する。'Bibliographic Essay'は英語文献・研究史の纏めとして有用(本号, p. 24参照)。

【ハワイ】²⁴⁾

311. 藤井秀五郎(玄溟)『新布哇』太平館, 明33(附録:日英布会誌, 在布日本人出身録) 〈YDM26910〉

藤井秀五郎(玄溟)『新布哇』改訂増補, 文献社, 明35(附録:在布哇日本人出身録) 〈YDM26911〉〈山本-223〉

ハワイへの移民希望者を対象とし,「章を立つること二十二、節目を分かつこと二百、布哇に於ける諸般の状態は、悉く之を網羅せんことを期」したハワイ及びハワイ日本人移民の歴史と現状。日本人によるこの種の著作の嚆矢となったもの。改訂増補版は,初版紙上で予約を募ったうえで,事実の遺漏・誤謬,出身録の調査漏れ等を訂正し,刊行された(巻末「再版予告」)。

312. 森田 栄『布哇日本人発展史』ワイパフ, 真栄館, 1915

〈DC812-34〉〈山本-222〉

在布日本人による初めてのハワイ日本人移民史。漂流時代から1915年(大4)8月までの「総ゆる方面に於ける同胞社会に関する事蹟沿革を網羅編纂」したものの。新聞・公文書・著者自身のフィールド・ワーク等に基づき,統計類も多数収録し,次掲313が刊行されるまで,ハワイ日本人移民史に関する最も基本的な文献であった。「第一章 日布間の歴史的関係」には,「明治以前布哇に於ける日本人」「隠れたる日本布哇史」等,志賀重昂のホノルル金曜会講演「要領」(大正元-3年)を収録する(本号注³⁰⁾参照)。

313. 森田 栄『布哇五十年史』ワイパフ, 森田栄, 1919 〈山本-221〉

上掲312を,天皇皇后兩陛下並びに皇太子殿下に献納,展覽台覧の光榮に浴したのを記念し,併せて,日本人のハワイ渡航満五十年を期に改訂増補,改題したものの。多くの研究者が引用する最重要な基本書の一つである。

314. 渡辺七郎『布哇歴史』大谷教材研究所, 昭5 〈578-318〉

ハワイの通史-「第一編 古代史」「第二編 近代史」(キャプテン・クックのハワイ発見から米布併合まで)「第三編 現代史」(米布併合以降)及び,日本人社会の発展史-「第四編 日布関係史」からなる。「簡明にして要を得た叙述」で基本書の一つとなっている。「帝國軍艦ホノルル寄港年表」「布哇同胞職業別人員表(1928年12月調査)」「人種別砂糖耕地労働者」等の統計を第四編-第五章「日布関

係の諸統計」(pp. 391-410)に収録する。

89. 渡辺七郎『布哇歴史』改訂版, 興学会教育部, 昭10 <山本-219> <移(四)-8>
上掲314に、「附録(一)日本語學校沿革」(2+10+118p)及び「附録(二)日本人人名録」(8+219p)を付して改訂したもの。これらの付録は資料的に有用。
315. 木原隆吉編著『布哇日本人史』文成社, 昭10 <334.476-Ki138h> <山本-224>
前掲311, 312, 313等ハワイの日本人に関する通史的資料が絶版となっている状況に鑑み、その後発見された新史実も加味し「官約移民布哇渡航滿五十周年記念史」として編纂, 出版されたもの。「布哇事情概論」「日本人社会変遷史」「日本史実物語」からなり、ハワイ政府文書及び日本の外交史料・新聞・刊行書等から多くの統計も引用されており、「資料としての信憑性と価値とが高く評価され」た基本書の一つとして、278. 阪田監修『日系移民資料集 北米編』第13巻 <DC812-E118>にも収録されている。
316. 藤井秀五郎『大日本海外移住民史 第一編 布哇』海外調査会, 昭13 <430-107>
上巻は、「第一章 布哇の歴史」「第二章 日本人の移住/第一節 概説(各種統計)/第二節 移住の回顧/第三節 明治初年の交渉」からなり、漂流時代から「渡航五十年祝典」までの日本人移民史を概観する。中巻は「同胞事業の発達」として、各種団体・実業界・産業……娯楽趣味に至るまで、日系社会における組織的・個人的活動状況を記録する。下巻「人物大観」(97p)は、約450名の在布日本人の略歴。藤井は、「平和の戦士としての移住者の功勞」を讃え、表彰すべきことを議会に請願, 採択されている(昭和10年3月18日, 第67帝国議會衆議院請願委員會「海外移住功勞者表彰ニ関スル件」)。
317. 山下草園『日本人のハワイ』世界堂書店, 昭17 <334.45-Y44ウ> <移(四)-37>
ハワイを太平洋制覇の礎石として認識し、ハワイ同胞の再出発の前提たることを意図して、ハワイの興亡史・日布関係史・日本人移民史を「流麗輕妙なる筆致」で描く。
318. 山下草園『日本布哇交流史』大東出版社, 昭18(東亜文化叢書 第8)
<777-41-(8)> <GJ123-11> <山本-167>
「元年者」(1868年)以前の漂着, 1868年から第一次世界大戦までの日本人移民問題, 及びハワイ日本人移民史を踏まえた日布王朝間のエピソードからなる。山下は元『日布時事』記者で、ハワイ及び日布関係について多くの著作がある。『布哇諸島』東京講演会出版部, 昭17 <276-Y44ウ>は、ハワイ史に関するより一般的な概説書。
319. 鬼頭イツ子『布哇史ものがたり』東都書籍, 昭18 <276-Ki13ウ> <山本-108>
キャプテン・クックのハワイ「発見」(1778年)から太平洋戦争時までの一般向け通史。
320. 相賀溪芳(安太郎)『五十年間のハワイ回顧』ホノルル, 「五十年間のハワイ回顧」刊行会, 1953(ハワイ日本人年表: 卷末pp. 1-6)
<334.476-S624g> <山本-201> <移-13>

『日布時事』編集長でハワイ日系社会の指導的立場にあった著者の、ハワイ渡航(1896年)から太平洋戦争終結後まで、約50年間の日系社会に関するエッセイ。付録に「ハワイ日本人年表」「帝國軍艦ホノルル寄港年表」「ホノルル駐在歴代日本領事官」を付す。

321. 川添樫風(善市)『移植樹の花開く ハワイ日本人史実落ち葉箋』ホノルル、「移植樹の花開く」刊行会, 1960 <DC812-E56> <山本-236> <移(四)-41>
『布哇タイムス』『商業時報』に掲載したものを、内容に従って年代順に並べたもの。傍題「……ハワイ日本人史実落ち葉箋」としたのは、奥村多喜衛『樂園落ち葉』の題を借用したもの。
322. 川添樫風(善市)『移民百年の年輪 椰風蕉雨』ホノルル, 移民百年の年輪刊行会, 1968 (「移植樹の花開く」姉妹編) <DC812-60> <山本-237> <移(四)-42>
上掲『移植樹の花開く』刊行後に『布哇タイムス』に掲載したトピックを、「元年者」以降年代順に纏めたもの。
94. ハワイ日本人移民史刊行委員会編『ハワイ日本人移民史』ホノルル, 布哇日系人連合協会, 1964 (ハワイ官約移住七十五年祭記念) <334.476-H351> <移-10>
「ハワイ官約移住七十五年祭」(1960年)記念事業の一つとして刊行。「ハワイの日本人史は、日本民族史の特異な一環であり、また世界人類の変遷史にもつながる」ものであるという観点から、その漂流期から現代まで、百年にわたる歴史を形成する事件・問題、及び生活変遷の実態等を考証する。巻頭「写真編」(pp. 1-133, 注: <移-10> 本は、大幅落丁あり。)に、漂流時代から戦後時代まで、五百数十点の写真を時代別・事件順に配列する。以下に「本史」の内容を掲出する。
「第一章 総説」「第二章 初期の接触から先駆移民の渡航に至るまで」「第三章 日布国交の進展と移民の渡航再開」「第四章 日本人移民の定時渡航と紛争事件」「第五章 永住土着への移行から帰化革新期へ」「第六章 日本人移住者の労働と創業」「第七章 日本人移住民の宗教と教育」「第八章 日本人移住者の社会と文化」「第九章 日本人移住民の生活とアメリカへの同化」。この他に、「記念諸行事写真編」(ハワイ官約移住七十五年祭, 日米修好百年祭)「附録史/第一編 世紀の祝典・記念諸行事/第二編 ハワイ日系人の過去と現勢」及び「ハワイ日系人団体名簿録」(pp. 523-579)等を取録し、ハワイ日系移民史研究に必須の資料集ともなっている。
323. ハワイ日本人移民史刊行委員会編『ハワイ日本人移民史』増補2版, ホノルル, ハワイ日系人連合協会, 1977 (ハワイ官約移住七十五年祭記念日本人移民一〇〇年祭, 天皇・皇后両陛下御来訪, アメリカ建国二〇〇年祭祝賀記念) <DC812-185> <山本-288>
上掲94に、付録として「ハワイ日系人連合協会の歩み」「日本人移民百年祭写真集」「天皇・皇后両陛下奉迎写真」「アメリカ建国二百年祭記念写真」「日系人連合協会参加各団体名」等を付し、増補再版したもの。「本史」部分は、1964年刊と同内容。

324. 村山 有『ハワイ二世 屈辱から栄光へ』時事通信社, 1966 (時事新書)
 <334.476-M982h> <岸-1490> <山本-43>
 ハワイ二世を, 日本民族海外進出の苦闘と栄光の象徴とし, アメリカ史に新たな足跡を記すニュー・アメリカンを描くことで, 日本民族の真価を伝える。
325. 牛島秀彦『ハワイの日系人—真珠湾体験からの出発』三省堂, 1969 (三省堂新書)
 <DC812-3>
 真珠湾体験を出発点として, 「ハワイの日系人」「日本」「アメリカ」を考える。ハワイの日本人・日系人史のコンパクトな纏め。
326. 牛島秀彦『行こかメリケン、帰ろかジャパン ハワイ移民の100年』サイマル出版会, 1978 (参考文献およびハワイ移民関係資料: pp. 249-253) <未所蔵>
 牛島秀彦『行こかメリケン、戻ろかジャパン ハワイ移民の100年』講談社, 1989 (講談社文庫) (参考文献およびハワイ移民関係資料: pp. 297-303) <DC812-E66>
 「明治型日本人」から「ジャパニーズ・アメリカン」へ, ハワイの多数派「日系米人」変貌百年の歴史を辿る。表題「行こかメリケン、帰ろかジャパン」は, 砂糖キビ耕地労働者の流行歌「ホレホレ節」の唄い出し (下掲330『ホレホレソング』参照)。文庫版は, サイマル出版会 (1978年刊) 版より写真 (グラビア頁) を多く収録。
91. ヒロタイムス[大久保清]編『ハワイ島日本人移民史』ヒロ, ヒロタイムス, 1971 (移民百年記念)
 <山本-299> <移(四)-9>
 『ヒロタイムス』『コナ反響』等の記事を中心に纏めたもの。断片的ではあるが, ジャパン・ボーン (日本生れ) 最後のジャーナリスト大久保の独特の語り口が, 当時の日系社会を活写する。「ハワイ移民五十周年記念祭」から「明治村『ハワイ移民記念館』」までを記録する「第一部 ハワイ島の百年」は, 「第六部 名簿」(『参考書誌研究』No. 47, p. 40参照) とともに資料的に有用。
124. 足立幸宏『ハワイ日系人史—日本とアメリカの間に在りて—』葦の葉出版会, 1977 (ハワイ日本人移民史年表: pp. 223-229, 参考文献: pp. 231-232)
 <DC812-57> <山本-200>
 「第一章 移民時代から太平洋戦争まで」「第二章 太平洋戦争と日系人」「第三章 戦後の日系人」からなる。一般的通史の体裁を取っているが, 「文化社会学的、又は、社会心理学的な見地に立って」書かれた「ハワイ日系人の生活文化史と呼ぶべき」ものである。
125. 島岡 宏『ハワイ移民の歴史—新天地を求めた苦難の道—』国書刊行会, 1978 (日本・ハワイ関係年表: pp. 264-269, 参考文献: pp. 270-275) <DC812-75>
 「元年者」(1868年)を日本民族海外発展の出発点・ハワイ日系人活躍の礎とし, 日本近代史に正当に位置づけ, 評価するという意図で, その経緯・足跡を中心に, 「米布併合 (ハワイ併合)」(1898年)までを描く。「ハワイ漂流奇談」「咸臨丸ハワイ寄港」等, 日布関係前史についても多くの頁を割く。
327. 土井弥太郎『山口県大島郡ハワイ移民史』マツノ書店, 1980 (参考文献: pp. 198

「山口県大島郡におけるハワイ移民史（大島郡学術調査報告 12）」『山口大学農学部学術報告』8：1957, pp. 775-849 〈Z18-589〉を補足改訂したもの。土井論文は、出移民の実態を実証的に分析したものとして、その後のハワイ移民研究に多く引用されることとなったが、327『山口県大島郡ハワイ移民史』は、「資料解釈が主となり、世界史的観点からハワイ移民の位置付けが行われていない」という評がある（前掲271。石川『日本移民の地理学的研究』p. 25）。大島町誌編纂委員会編『周防大島町誌』大島町、1959〈GC227-65〉のハワイ移民の部分（「第十編 海外発展と大島町」—「第二章 布哇移民」）も、土井の上掲論文に拠るところが大きい。²⁵⁾

328. 王堂フランクリン、篠遠和子『図説ハワイ日本人史 1885-1924』ホノルル、バニーズ・パウアヒ・ビショップ博物館出版局、人類学部、ハワイ移民資料保存館、1985（日本人官約移民ハワイ到着100年記念出版物）（文献目録：pp. 224-227）

〈移-17〉

329. Odo, Franklin and Kazuko Sinoto. **A Pictorial History of the Japanese in Hawai'i 1885-1924.** Honolulu: Hawaii Immigrant Heritage Preservation Center, Dept. of Anthropology, Bernice Pauahi Bishop Museum, 1985.

〈未所蔵〉

「ハワイ移民資料保存館（HIHPC）*Hawaii Immigrant Heritage Preservation Center*」が、日本人官約移民ハワイ到着百周年を記念して刊行²⁶⁾。ビショップ博物館所蔵及びHIHPC収集の写真・文書類を中心に、ハワイ史における日本人の立場とその貢献に焦点をあてる。なにより約250点の貴重な写真が、ハワイ日本人移民史を物語る。製糖会社との間の労働契約書の複製（原色）を付す。

330. ジャック・Y. タサカ『ホレホレ・ソング 哀歌でたどるハワイ移民の歴史』日本地域社会研究所、1985（コミュニティ・ブックス）（参考文献：pp. 197-198）

〈DC812-233〉

ホレホレ・ソング（節）は、砂糖耕地で働く日本人移民労働者の間で歌い継がれた哀歌。往時には百をこえたというホレホレ節の歌詞に、ハワイ日本人移民社会の歴史を辿り、日本の移民送出地域の作業歌にそのルーツを探る。「ホレホレ」とは砂糖キビの茎から枯葉を剥ぐ作業。

331. 山崎俊一『ハワイ出稼人名簿始末記 日系移民の百年』日本放送出版協会、1985

〈DC812-256〉

NHK特集「ザ・ハワイアン～海を渡った一世紀」（1985年2月4日放送）の取材記。移民それぞれのライフ・ヒストリー（聞き書き）を軸に、往時と現在のハワイの状況を交錯させ、ハワイ日本人移民百年の歴史を綴る。Barbara F. Kawakami・大久保清・児玉正昭・嘉屋文子等、移民研究に関係のある人々も多く登場する²⁷⁾。

332. 渡辺礼三『ハワイの日本人・日系人の歴史』上巻、ホノルル、ハワイ報知社、1986（日

本人ハワイ官約移民百年祭記念)

<DC812-E22>

「前史時代の日布関係(漂着)」から「元年者」(1868年)、「官約移民」(1885-1894年)の発足時までを、邦語・英語の基本文献及び外交史料を比較検討し、再構築する。下巻は上巻の二倍から三倍の分量になる予定だったが、未刊のままなのが惜しまれる。

333. Wakukawa, Ernest K. **A History of the Japanese People in Hawaii.** Honolulu: Toyo Shoin, 1938. <325.35209969-W149h>

「難破船のハワイ漂着」から「官約移民50周年記念祭」(1935年)までのハワイの日本人・日系人の通史。アジア系住民の参政権を事実上剥奪したいいわゆる「ベイオネット憲法 *Bayonet Constitution*」(1887年)、「ハワイ革命」(1893年)によるハワイ王朝の終焉、アメリカによる「ハワイ併合」(1898年)及び「ハワイ立州運動」等、米布関係史における日本側の対応についても詳しい²⁸⁾。

334. Ladenson, Alex. **The Japanese in Hawaii.** Chicago: Univ. of Chicago, 1938. (Bibliography: pp. 195-205) <DC812-A48>

シカゴ大学での学位論文 (Ph. D., 1938)。ハワイの政府文書や新聞等の基本史資料を使用しておらず、十分な考察がなされていない面もあるが('Preface'), ハワイにおける日本人に関する初期の英語文献として掲げておく。「官約移民」(1885-1894年)前の日布関係から「排日移民法」成立(1924年)までの通史のほか、在布日本人の経済発展及び同化について考察する。

335. Conroy, Hilary. **The Japanese Frontier in Hawaii, 1868-1898.** Univ. of California Publications in History, v. 46, Berkeley and Los Angeles: Univ. of California Pr., 1953. (Bibliography: pp. 161-170) <325.252-C754j> <岸-137>

Conroy, Hilary. **The Japanese Frontier in Hawaii, 1868-1898.** The Asian Experience in North America: Chinese and Japanese, New York: Arno Pr., 1978. (reprint of the 1953 ed.) (Bibliography: pp. 161-170) <DC812-26>

日布公式外交の濫觴である「遣米使節団のハワイ寄港」(1860年, 万延元)に筆を起こし、「元年者」(1868年)、「官約移民」(1885-1894年)の時代を経て「ハワイ併合(米布併合)」(1898年)に至る日布関係及びハワイ日本人移民史を考察する。学位論文 "The Japanese Expansion into Hawaii, 1868-1898." (Univ. of California at Berkeley, Ph. D., 1949) に基づき発展させたもの。

日・布・米の外交史料, 公文書及び刊行・非刊行の二次資料にも多く依拠し, その後多くの研究に引用される基本書となっている。これらの文献資料を整理した 'Bibliography' は, 特に「ハワイ(州立)公文書館」所蔵の関係史料(ファイル)を知るうえで有用である。

336. Okahata, James H., ed. **A History of Japanese in Hawaii.** Honolulu: United Japanese Society of Hawaii, 1971. <DC812-6> <岸-1429> <移(四)-Y32>

「漂流民」, 「元年者」(1868年)から「日本人移民百年祭」(1968年)まで, 百年にわたるハワイの日本人・日系人の広範な歴史を解説する。Vol. I: Drifters and

Gannen-mono/Pt. 1: Age of Drifters (Chap.1-4)/Pt. 2: Contacts Enter Official Stage (Chap. 5-6)/Pt. 3: Gannen-mono Tribulations (Chap. 7-9, Bibliography), Vol. II: Immigrants and Their Contributions to Hawaii からのなる。Vol. II各章 (Chap. 1-32) のタイトルは次の通り。

Sugar Prosperity and Labor/King Kalakaua and Emperor Meiji/Japan Accedes to Hawaii's Request for Immigrants/Resumption of Immigration/Government Contract Immigrants/Immigration Convention/Immigration Statistics/Immigration Prefectures in Japan/Plantation Life/The Hawaiian Revolution and Annexation/Hawaii Turns to China for Laborers/Exploitation of Immigrants/The Early Japanese Community/The Tentative Settling Down Period/Struggle for Equality/The Planter's Dilemma/1920 Plantation Strike/The Japanese Menace/The Growth of the Japanese Community/The Japanese and Local Industries/Finances/Language Schools/Religion/Press/Organizations/Naturalization/Immigrant's Children/Statehood Campaign/War Clouds/Enemy Aliens/Japanese Americans in Action/A New Pacific Race. 補遺として「日本人移民百年祭 Centennial Celebration (1868-1968)」「ハワイ官約移住七十五年祭 75th Anniversary Celebration of Contact Immigration (1885-1960)」「日米修好百年祭 Centennial Celebration of Opening of U. S. - Japan Relations」の概要等を付す。同じく「ハワイ日系人連合協会 *The United Japanese Society of Hawaii*」による前掲94, 323の英語版というべきもので、ハワイ日系移民史研究に必須の資料である。

337. Ogawa, Dennis M., with the assistance of Glen Grant; foreword by Lawrence H. Fuchs. **Kodomo no tame ni, For the Sake of the Children: The Japanese American Experience in Hawaii.** Honolulu: Univ. of Hawaii Pr., 1978. (Bibliography: pp. 601-606) <DC812-20> <岸-484>

(1980, paperback ed. <未所蔵>)

契約労働者から政治的・経済的一大勢力となるまでに至った、ハワイにおける日本人・日系人の苦難の歴史とアイデンティティを綴るアンソロジー。論文・新聞記事・演説等々、多種多様な資料を「ハワイにおける日系アメリカ人の体験」という連綿たる叙事詩として纏め上げた編者の問題意識に対する評価は高い²⁹⁾。各章冒頭の編者によるエッセイが、収録資料を踏まえ、各テーマの背景を概観する。

338. Takaki, Ronald. **Pau Hana: Plantation Life and Labor in Hawaii, 1835-1920.** Honolulu: Univ. of Hawaii Pr., 1983. (Bibliography: pp. 203-208)

<DM236-A2>

(1984, paperback ed. <未所蔵>)

339. ロナルド・タカキ著、富田虎男・白井洋子訳『パウ・ハナ ハワイ移民の社会史』刀水書房, 1986 (刀水歴史全書 24) (338. Pau Hana: Plantation Life and Labor

in Hawaii. 1983 ed. の翻訳) (参考文献: pp. 270-278, 日系ハワイ移民史関係邦語文献目録: pp. 279-287) <DC812-237>

プランテーション (砂糖耕地) の形成からオアフ島耕地第二次大ストライキ (1920年) に至る, ハワイ移民労働者の社会史。プランテーションの経営戦略と移民労働者の歴史的経験の相関関係のなかで, ハワイ多民族社会の形成過程を辿る。「パウ・ハナ」とはハワイ語で「仕事を終えて」の意。ハワイのプランテーションに関する史資料を概観する「参考文献」は有用である。日本語版には, 訳者による「日系ハワイ移民史関係邦語文献目録」を別に付す。³⁰⁾

340. Moriyama, Alan Takeo. **Imingaisha : Japanese Emigration Companies and Hawaii, 1894-1908.** Ann Arbor : University Microfilms International, 1983.

<DC812-A7>

Moriyama, Alan Takeo. **Imingaisha : Japanese Emigration Companies and Hawaii, 1894-1908.** Honolulu : Univ. of Hawaii Pr., 1985. (Sources Cited : pp. 233-253) <DC812-A21>

341. アラン・T. モリヤマ著, アラン・T. モリヤマ, 金子幸子共訳『日米移民史学—日本・ハワイ・アメリカ』PMC出版, 1988(340. **Imingaisha : Japanese Emigration Companies and Hawaii, 1894-1908.** 1985 ed. の翻訳) (引用文献: pp. 293-310) <DC812-E39>

森山のUCLAでの学位論文 (Ph. D., 1982 : 1983年公刊)。日本語版 (原本: ハワイ大学出版, 1985年刊) は, 原本の誤りを訂正し, 日本人読者向けに省略乃至加筆して刊行された。日・米の史資料を基に, 1894年 (明27, 「官約移民」廃止) から1908年 (明41, 「紳士協約」) に至る, いわゆる「私約移民」時代における, 「移民会社 (移民取扱人)」による日本人移民の送出・受入過程に関する実証的研究として評価が高い。外務省外交史料館所蔵史料を含む「引用文献」及び原本 'Appendix' (日本語版では割愛) も有用 (『参考書誌研究』No. 47, p. 13, 注³⁾参照)。

森山の「移民研究」方法論について, 森山アラン武雄 [述] 『アメリカ日系史学についての一考察 森山アラン武雄氏講演原稿』国際協力事業団, 1981 (業務資料 no. 608) <DC812-127> がある。

342. Kotani, Roland. **The Japanese in Hawaii : A Century of Struggle.** Honolulu : Hawaii Hochi, 1985 (The Official Program Booklet of the Oahu Kanyaku Imin Centennial Committee) (Bibliography : pp. 165-169)

<DC812-A30> <移-Y2>

「(オアフ島) 官約移民百年記念祭」の公式出版物。「官約移民」(1885-1894年) から「三世」の時代まで, ハワイの日本人・日系人百年の苦闘の歴史を, トピック・事件を中心に, 豊富な写真を添え綴る。

343. Hazama, Dorothy Ochiai and Komeiji, Jane Okamoto. **Okage Sama De : The Japanese in Hawai'i, 1885-1985.** Honolulu : Bess Pr., 1986. (Selected Bibliography : pp. 281-288) <DC812-A26> <移(四)-Y37>

「官約移民」(1885-1894年)以前の日布関係も含め、「官約移民百年記念祭」(1985年)時までのハワイの日本人・日系人百年の歴史を、アメリカン・ドリーム具現化の過程として、次世代のジャパニーズ・アメリカンに伝える。

344. Kimura, Yukiko. **Issei : Japanese Immigrants in Hawaii**. Honolulu : Univ. of Hawaii Pr., 1988. (Bibliography : pp. 277-279) 〈DC812-A29〉

(1992, paperback ed. 〈未所蔵〉)

邦語・英語の基本文献及び著者の50年にわたるフィールド・ワークに基づく、「官約移民」(1885-1894年)から1970年代までの、ハワイにおける一世及び日系社会に関する社会歴史学的考察。移民の時代的背景、出身県の相違による対立、一世が従事した多様な職業、日系社会安定要因としての家族・宗教・組織等の影響、両大戦時における一世の立場等々が簡明かつ鮮明に描写される。著者は、ハワイ大学 'Romanzo Adams Social Research Laboratory' (後述) に在職中、ハワイにおける日本人に関する多くの研究を発表している (前掲178. Matsuda, *The Japanese in Hawaii*. pp. 77-79参照)。

345. Okiihiro, Gary Y. **Cane Fires : The Anti-Japanese Movement in Hawaii, 1865-1945**. Asian American History and Culture Series, Philadelphia : Temple Univ. Pr., 1991. 〈未所蔵〉

砂糖耕地の沿革を端緒に、日本人移民の導入から第二次大戦終結までの、「民族の楽園」ハワイにおける日本人排斥運動を、米本土におけるマイノリティの歴史との関連を意識し描く³¹⁾。

346. Tamura, Eileen H. ; foreword by Roger Daniels. **Americanization, Acculturation, and Ethnic Identity : The Nisei Generation in Hawaii**. The Asian American Experience, Urbana : Univ. of Illinois Pr., 1994. (Work Cited : pp. 293-318) 〈EC136-A84〉

(1994, paperback ed. 〈移(四)-Y39〉)

日本人移民が「出稼」者 (sojourners) から「永住」者 (settlers) へとその性格を変えていくなか、日・米両文化の狭間で、そのエスニック・アイデンティティはどのように確立されていったのか。著者は、第一次世界大戦を機に米本土・ハワイで吹き荒れた「アメリカ化」(Americanization)「同化」(assimilation)政策と、エスニック・アイデンティティの確立を伴った「文化受容」(acculturation)の過程とを峻別し (本書, p. 52), 多民族文化の共存するハワイにおける日系「二世」の教育問題—「ピジン」(pidgin) 英語」(Hawaii Creole English), 「公立学校」(English Standard school) 対「日本語学校」(Japanese language school) 等に焦点をあて、日系人学生のライフ・ヒストリー ('William Carlson Smith Papers.') を効果的に織り込みながら、分析する³²⁾。

【ハワイ史】³³⁾

347. 瀬谷正二『布哇』, 忠愛社, 明25

〈YDM26936〉

日本語で書かれた、ハワイに関する最初の概説書。瀬谷は元「日本移住民監督

官」。当時既に二万人（ハワイの人口の二割強）を数えた在布日本人移民のための教養書とでもいうべきもの。ハワイの地勢・慣習・文化・政治・歴史等を纏め、「人口減損の原因」「支那人排斥の始末」を付す。

348. 外山義文編『日本と布哇 一名・革命前後之布哇』博文館，明27（社会文庫 第二編） 〈YDM28291〉

外山は、サンフランシスコに本拠を置く民権派団体「愛国同盟 *Patriots' Union*」員。「愛国同盟」は、ハワイ問題を「国権の消長と国利の伸縮に至大の関係有するもの」とし、ハワイ革命（1893年）の際に、菅原伝ら4名を急派し、在布日本人の参政権回復運動を行っている³⁴。本書は、「愛国同盟倶楽部」（帰朝愛国同盟員の組織）における菅原らの帰朝報告会に呼応して刊行されたもの。「布哇論」「布哇革命の顛末」を中心に、「布哇の風土・沿革」も記す。

349. 武居熱血編『布哇王朝史』ホノルル，日布時事社，1917 〈未所蔵〉

布哇王朝に関する項目約270を収録する小百科。志賀重昂のホノルルに於ける講演も収録する（本号注³⁶参照）。

350. 吉森実行『ハワイを繞る日米関係史』文芸春秋社，昭18 〈276-Y91ウ〉

「布哇併合」（1898年）をアメリカのモンロー主義から帝国主義への転換の一環として捉え、ハワイの世界史的地位の重要性を強調する。本書は、著者が外務省在職時に作成した調書「アメリカのハワイ併合と日本の抗議」を基に、米布関係を中心にしたハワイ史、及び併合以後のハワイをめぐる日米関係を加筆したもの。³⁵

351. 近盛晴嘉 他『知られざる日布交流史—カラカウア王来日百周年—』ヒロ，ハワイ・カラカウア王顕彰委員会，1981 〈GJ123-13〉〈移-16〉〈移(四)-38〉

ハワイ王朝最後の王「カラカウア」の来日（1881年，明14）百周年を記念した小冊子³⁶。次掲352. Armstrong書，宮内省臨時帝室編修局編修『明治天皇紀』その他の資料を基に，関係写真を添え，その間の事情を簡単に纏めたもの。大久保清「ハワイ日本人移民小史」（上掲91『ハワイ島日本人移民史』pp. 1-12の再録）他一篇を収録。

126. 中嶋弓子『ハワイ・さまよえる樂園—民族と国家の衝突』東京書籍，1993（主要参考文献・ハワイ略年表：pp. 451-463） 〈GJ123-E10〉

ハワイ「発見」（1778年）から「主権回復運動」「王朝転覆100周年」行事（1993年1月）の顛末に至るハワイの近現代史を，日米関係の確執を基調に描いた，日本語による初めてのハワイ通史。「ハワイという『辺境』の歴史が、『中央』に直結し」（本書，p. 439），ハワイ史の命運において果たした日本及び日本人移民問題の重要性を指摘する。³⁷

352. Armstrong, William N. *Around the World with a King*. New York: Frederick A. Stokes, 1903. 〈未所蔵〉

（国立国会図書館では，London: W. Heinemann版 [発行年記載なし] を所蔵。〈岸-11〉）

Armstrong, William N., with an introduction to the new edition by Terence Barrow. **Around the World with a King**. Rutland and Tokyo: Charles E. Tuttle, 1977. <未所蔵>

Armstrong, William N. **Around the World with a King**. Honolulu: Mutual Publishing, 1995. (pap. ed.) <未所蔵>

カラカウア王世界周航 (1881.1.20-10.29) に、「移民政策担当官」として随行した、司法長官アームストロングの『周航随行記』。カラカウア王崩御 (1891年) の後、アームストロングの死 (1905年) の直前に刊行された³⁸⁾。

127. ウィリアム・N. アームストロング著、荒俣宏・樋口あやこ共訳『**カラカウア王のニッポン仰天旅行記**』小学館, 1995 (352). *Around the World with a King*. Stokes版, 1904 ed. の抄訳 (関係略年表: pp. 326-329) <GB648-E27>

原書のうち、出発から最初の訪問国アメリカ (サンフランシスコ) 及び日本ほか東洋部分の翻訳とその他の部分の要約に、訳者による脚注・関係写真・図版を付したものの。巻末資料として、外務省記録・ビショップ博物館所蔵資料・当時の新聞記事を取録する (pp. 280-325)。

353. Kuykendall, Ralph S. **The Hawaiian Kingdom**. 3v, Honolulu: Univ. of Hawaii Pr., 1938-67. <未所蔵>

クックのハワイ「発見」(1778年) から「ハワイ革命」による暫定政府成立 (1893年) までの浩瀚たるハワイ史三部作。各巻は, v. 1: 1778-1854, *Foundation and Transformation*, v. 2: 1854-1874, *Twenty Critical Years*, v. 3: **1874-1893, The Kalakaua Dynasty**. という時代区分で、カラカウア王即位 (1874年) から「ハワイ共和国」憲法発布 (1894年) までを描く第3巻『カラカウア王朝史』が、「元年者」(1868年) から「官約移民」廃止 (1894年) までの日本人移民について記す。「ハワイ州立公文書館」所蔵史料はじめ米・英の公文書・外交文書、及び多数の刊行資料に基づいた綿密な考証は、ハワイ史に関する古典中の古典となっている³⁹⁾。Kuykendall, *The Earliest Japanese Labor Immigration to Hawaii*. Univ. of Hawaii Occasional Papers, No. 25, Honolulu: Univ. of Hawaii, 1935. は「元年者」に関する評価の高い研究。

354. Fuchs, Lawrence H. **Hawaii Pono: A Social History**. New York: Harcourt, Brace & World, [1961]. (includes Bibliography) <未所蔵>

Fuchs, Lawrence H. **Hawaii Pono: A Social History**. San Diego: Harcourt Brace Jovanovich, [1983], c1961. (Bibliography: pp. 450-484) <岸-212>

Fuchs, Lawrence H. **Hawaii Pono = Hawaii the Excellent: An Ethnic and Political History**. Honolulu: Bess Pr., [1992?]. (Sources and Acknowledgments: pp. 450-484) <未所蔵>

「米布併合 (ハワイ併合)」(1898年), ハワイ領土政府成立 (1900年) から「立州」(1959年) を経て、本書刊行前1960年までのハワイ近・現代史。1983年paperback版 'Preface' において、1960年以降の経済・政治・民族状況について概観 (sketch)

する。'Part One: Ways of Life, 1900-1941'-Chap. 4 Pride and Place (pp. 106-137)が、日本人の特質から真珠湾攻撃前夜までの日系社会を描く。上掲353. Kuykendall書以降のハワイ史に関する文献として、次掲355. Daws書とともに重要である。

355. Daws, Gavan. **Shoal of Time: A History of the Hawaiian Islands**. New York: Macmillan, 1968. (Bibliography: pp. 399-417) <岸-164>
Daws, Gavan. **Shoal of Time: A History of the Hawaiian Islands**. Honolulu: Univ. of Hawaii Pr., 1974. (reprint of the 1968 ed.) (Bibliography: pp. 399-417) <未所蔵>

クックのハワイ「発見」(1778年)からハワイ「立州」(1959年)までの通史。「元年者」(1868年)から太平洋戦争時まで、日本人(移民)問題についても多くの考察がなされている。上掲353, 354と並びハワイ史のスタンダードな概説書である。

【アメリカ】⁴⁰⁾

356. 加藤十四郎『在米同胞発展史 附・名士列伝』博文館, 明41 <YDM41444>
北米地勢・日本人移民史・排日運動等を概観し、ニューヨーク・シカゴを始め、英領カナダ・アラスカを含め、特に西北部各州の初期日本人社会の社会的・経済的・政治的發展を記す。併せて、各地有為・知名の人士百数十名の経歴を述す。筆者はサンフランシスコ『新世界新聞』の記者を経て、当時シアトル『旭新聞』の主筆。
357. 桜府日報社編『櫻面都平原日本人大勢一覽』第2号, サクラメント, 桜府日報社, 明42 <YDM41445>
サクラメント平原(カリフォルニア州)の地理・農業・営業・教育の概説・人口統計及び民法・刑法等各法律手続からなり、「櫻面都平原事業家列傳」(pp. 116-209)「櫻面都平原日本人住所姓名録」(pp. 210-227)を付す。「櫻府日報社」から年刊で出されていたもの。
358. 植村 寅『北米の日本人 一名・在米同胞発展事情』内外出版協会, 明45 (付: 日米通商航海条約ほか) <YDM41362>
北米合衆国国勢一斑・北米日本人移民の背景を概観し、カリフォルニア・ワシントン・オレゴン・英領コロンビア各州・太平洋沿岸以外の諸州及びハワイ・アラスカにおける發展状況を記す。「移民の本国に付加する富」「日米貿易との関係」「排日運動」「日本の移民政策」等についても記す、初期の北米日本人に関する包括的な考察。
359. 寅井順一『北米日本人総覽』中央堂書房, 大3 <347-17>
在米日本人社会の發展を日本に紹介し、後世史家の資料とすることを目的に編纂。ワシントン・オレゴン・カリフォルニア各州日本人發展地の一般状況に加え、同胞奮闘の経路と各地の特色を知らせるために、指導的人物の略歴を加える。「北米に於ける日本人排斥の沿革」「日本人土地所有権禁止法案の成立」を付す。

360. 紐育日本人会 [水谷涉三] 編『**紐育日本人發展史**』紐育, 紐育日本人会, 大10
(398-3)

日米貿易の展開と密接な関係を有する紐育^{ニューヨーク}在留邦人の初期發展史。日本人發展の基因たる幕府開港に筆を起し、日米貿易の趨勢を時代区分により概観し、貿易品目別の「観察」と貿易機関としての金融・海運・各会社等の沿革を述べる。社会的・経済的・宗教的諸団体の沿革も含め、日本人社会の發展状況は、「第參編在留邦人發展の徑路及び現状」において詳述される。他に各種「遣米使節團」「米人の日本觀」及び、代表的な人物(新井領一郎・高峰讓吉等)の略伝・逸話等を収録し、最後に「日米貿易の大宗たる本邦生糸の輸入旺盛なるに對照して頗る興味ある」「米國蠶業失敗史」を略記する⁴¹⁾。(後掲444『日本人海外發展史叢書』に復刻・収録。〈DC812-213〉)

361. 北加日本人会出版部編『**北加日本人發展史**』[Chico], 北加日本人会出版部, 大11
(397-315)

合衆国国勢・カリフォルニア州の歴史及びチーコを中心とした北加地方邦人の發展を概観し、「チーコ日本人会」の活動内容を記録する。

362. 竹内幸次郎『**米國西北部日本移民史**』シアトル, 大北日報社, 昭4 (591-143)
竹内幸次郎『**米國西北部日本移民史**』2冊, 雄松堂出版, 1994 (大北日報社, 昭和4年刊〈591-143〉の複製), 監修・解説: 奥泉栄三郎, (付: 大北日報1918年1月1日号) (DC812-E185)

ワシントン州及びオレゴン州における日本人についての初期の包括的な歴史。特にシアトルに重きがおがれている。各地在留日本人の状況のほか、「日本人會發達史」「排日史」「歸化問題と二重國籍」「同胞社會の經濟」「實業」「在留同胞の農業」「日本移民の労働状態」「移民地の教育事業」「移民地の宗教」「移民地社會史」「移民地の新聞雜誌」「移民地の文壇」等を詳述し、「附録 邦人に關する諸統計」(pp. 789-831)「米國西北部在留邦人名鑑(日本人發展史)」(pp. 832-1204)を付す(復刻版では下巻に分冊収録, 頁に乱れ有り)。1,300頁に及ぶ本書は、その後の「在米日本人史」シアトル部分の下敷きとなっており、米國西北部初期日本人移民史の『『正史』的な位置を占め』ている。著者、竹内幸次郎(青巒)はシアトル『大北日報』社長兼主筆。奥泉栄三郎『『米國西北部日本移民史』解説』(雄松堂出版, 1994(複製), 下巻所収)が、竹内及び本書の移民關係史料上の位置づけについて詳述する。

363. 谷津利一郎『**在米宮城県人史**』ロスアンゼルス, 南加宮城県人会, 昭8
(640-206)

「宮城県海外協會」創立(昭和5年)を機に、在米宮城県人の足跡・奮闘の史実を郷土に伝え、県人の海外雄飛を奨励鼓舞し、更に「邦國人在米發展史」として殖民政策の資料となすことを目的に編纂。高橋是清・菅原伝らが序文を寄す。排日問題・カリフォルニア在留同胞の發展過程を説き、在米宮城県人各地の發展、「南加宮城県人会」及び「北加東北人会」の活動を記す。在米県人約200名の略伝

を紹介し (pp. 161-285), 「在米宮城縣人住所録」 (pp. 331-351) を付す。⁴²⁾

364. 在米日本人会事蹟保存部編『在米日本人史』San Francisco, 在米日本人会, 1940
〈334.45-Z11z〉

本書は、当初「在米日本人事蹟保存会」において刊行が計画されたが、1940年、「在米日本人会」と合流し、「在米日本人会」内に特設された「事蹟保存部」において、紀元二千六百年奉祝記念事業として編纂刊行されたもの (本書, pp. 1291-1293「『在米日本人史』出版経過」)。1,300頁にも及ぶ本書の刊行までわずか半年という短期間であったため、「不備の多かるべきは免れ得ざる所」と言われているが (本書, 「措詞一竹内俊一」)、在米日本人に関する最初の総合史として、また、その後の「在米日本人史」の基礎となったものとして、様々な意味において重要である⁴³⁾。(後掲444『日本人海外発展史叢書』に復刻・収録。〈未所蔵〉)内容は以下のとおり (篇中、章立ては省略)。

「第一篇 在米日本人史總篇／在米日本人黎明時代／在米日本人開拓時代／在米日本人發展時代／在米日本人全盛時代と排日／在米日本人定着時代と第二世」
「第二篇 在米日本人史各篇／在米日本人の農業／商業／漁業／労働／宗教／教育／邦人社會に於ける刊行物／運動競技／人口及び職業／公館及び團體／社會事業／戰役、事變、災害と在米邦人／儀禮行事／藝術、趣味、娛樂」
「第三篇 在米邦人地區別概観／中、北、加州／南加州／山中部及び山東部／西北部及加奈陀／中部及東部」
「第四篇 米國の排日史／米國の移民問題と東洋人／移民入國制限問題の發生／米國排日史／立法的排日の沿革／排日暴動と其記録／土地法に對する試訴／華州土地法試訴／日米條約と加州華州及合衆國憲法上の試訴」
「第五篇 日系市民 (二世) 概観／二世問題／日系市民協會／歸米日系市民／日系諸團體／二世と産業」
「第六篇 日米國交史 (省略)」
「(附録) 北米關係參考法規／北米合衆國憲法／北米合衆國移民法」

365. 藤岡紫朗編『米國中央日本人会史』ロスアンゼルス, 米國中央日本人会, 1940
〈DC812-141〉

1915年 (大正4) 8月, ロサンゼルス帝國領事館の設置を機に, 南加各地日本人会 (19団体) の中央機関として「南加中央日本人会 *Central Japanese Association of Southern California*」が創立された (1915年9月1日から事務開始)。皇紀二千六百年 (1940年), 日米両國間に「相剋摩擦の度が加重し, 將さに驟雨臻らんとして風樓に満つる」情勢下, 同会の創立25周年を記念し, 同会記録の保存と先駆者貢獻の足跡を遺す目的で編纂。「南加中央日本人会」会長・書記長を歴任した藤岡紫朗が, 同会記録を基に「何らの潤色を施さず、文彩を加へ」ずに、「キープ、カリフォルニア、ホワイト」の排日スローガンに抗するに「キープカリフォルニア、グリーン」の標語でもってしたカリフォルニア同胞二十五星霜の事件・事項を編纂した正史⁴⁴⁾。(後掲278『日系移民資料集 北米編』第2巻に覆刻・収録。〈DC812-E118〉)

366. 藤岡紫朗『歩みの跡 北米大陸日本人開拓物語』Los Angeles, 歩みの跡刊行後援

会, 1957 (日米関係米国並にハワイ同胞史一斑 (年表) : pp. 656-661)

<334.453-H952a>

北米における日本人80有余年の歴史のなかで、「各時代各地方に起った諸々の重要問題の真相を詳かにし、またこれに携わった人物の風貌とその活躍舞台の光景を描いた日本人発展の外史(本書、「序文—笹森順造」p. 5)。『羅府新報』に1954-56年まで3年間にわたり連載されたものに、添削を施し纏めたもの。個人を主に団体を従とし、一世の難戦苦闘の足跡を精確に記述することを目的としており、人物録としても有用である(「本書収録人名索引」pp. 665-696)。著者は在米60年、実業家・社会事業家として、また新聞人として在留邦人の啓発指導に尽力し、高い評価と尊敬を得ている⁴⁹⁾。内容は以下のとおり。

「歩みの跡あちらこちら」「米国の歴史に残る人々」「輝く四四二戦闘部隊」「メキシコ開拓の先驅者」「南部諸州に活躍した人々」「中部諸州に於ける事跡」「米國官憲、邦人を疑う」「開戦と戦時収容所」「戦後同胞の移動状況」「故国で活躍する米國関係者」「逸材シアトル市に集まる」「半世紀に亘る栄枯盛衰」「古い歴史を持つオレゴン州」「カナダとアラスカ」「加州の開拓年表と排斥年表」「フレソノ地方の事跡と米作事業」「北部カリフォルニアの全貌」「北加に巨跡を残した先覚者」「在留邦人の中心地ロスアンゼルス市」「邦人の手で開拓した帝国平原」「南部カリフォルニアの全貌」「カリフォルニア州排日土地法とその抹殺」「デンバー市の傑出人物展望」「歩みの跡、を求めて(追加篇)」「附録 混合法案の立法化と日本人の受ける恩恵/日米関係米国並にハワイ同胞史一斑/在アメリカ合衆国日本国外交官」

367. 海老名一雄『カリフォルニアと日本人』六興出版部, 1943 (太平洋図書館 太平洋協会編)

<334.45393-E17k>

カリフォルニア州の歴史、及び漂流民から排日・強制収容までの、カリフォルニアにおける日本人の発展略史。特にカリフォルニア農業における日本人の貢献について記す。太平洋戦争時、太平洋地域の世界文化上の重要性と日本民族の地歩前進を根底認識とし、当該地域の知識普及のために刊行された叢書「太平洋図書館」の一冊。「太平洋会議」日本代表として対日国際世論の悪化防止に努めた鶴見祐輔が、本叢書編纂「太平洋協会」の専務理事。

368. 南加日系人商業会議所編『南加州日本人史』ロスアンゼルス, 南加日系人商業会議所, 1956

<未所蔵>

邦字紙を基に、1885-1918年までの、南カリフォルニア在住日本人に関する事件・事項を編纂した編年史。下掲369『南加州日本人史 後篇』とともに、戦後刊行された「南加州日本人」に関する基本的文献となっているが、未見。内容詳細は不明である。

369. 南加日系人商業会議所 [越智道順] 編『南加州日本人史 後篇』ロスアンゼルス, 南加日系人商業会議所, 1957 (南加日本人年表 : pp. 740-744)

<334.453-O883n> <山本-278>

前掲368『南加州日本人史』(1918年まで記述)の後篇。「第一期 戦前篇(排日史)」「第二期 戦時篇(苦難史)」「第三期 戦後篇(帰化権獲得史)」に分け、南カリフォルニア同胞の歴史を年代順に記述する。内容は以下のとおり(篇中、章立ては省略)。

「第一 戦前篇(1919-41年)／加州排日史／排日の原因を探る／排日の諸相／外土地法対策／在留日本人社会／日系人と文化活動／一九一九年より開戦までの南加に於ける主な出来事」「第二 戦時篇(1941-45年)／日系人の強制立退／戦時転住所(WRA)設置／転住所(リロケーション・センター)／戦時抑留所／戦時交換船／二世兵士の武勲」「第三 戦後篇(1945-55年)／帰還と一般社会／経済復興／公共団体の復興／戦後に於ける県人会再建／同胞の文化生活／移民帰化法の成立／二世の進出」, 附録として「日系人関係重要法規(加州土地法／移民・帰化及び国籍法／立退賠償法／難民救済法／ソーシャル・セキュリティー法と修正法の概要／加州養老年金法)」等を付す。

133. 南加州日本人七十年史刊行委員会編『南加州日本人七十年史』ロスアンゼルス, 南加日系人商業会議所, 1960(南加州日本人七十年史年表: pp. 747-752)

〈DC812-104〉〈山本-277〉

当初, 上掲368『南加州日本人史』(1918年まで記述)の続篇として刊行が計画され, 編纂が進められた。しかし, 出版が「日米修好百年祭」と重なることから, これを「南加日系人商業会議所」の百年祭記念事業とし, 南加州における日本人社会の形成(1890年)から1959年までの通史及び各分野別発展史に地方史を加え, 百年祭記念行事の概要を特集として収録し, 全史『南加州日本人七十年史』としたもの。内容は以下のとおり(篇中, 章立ては省略)。

「第一編 南加州日本人七十年史 総篇／移民前史／移民先駆時代／初期開拓時代／大陸移民全盛時代／発展、排日時代／定着、隆盛時代／戦時、戦後の日本人／南加州の驚異的發展と産業」「第二編 南加州日本人七十年史各篇／南加州日本人の農業／花卉、植木、苗物業／南加州の日本人と商業／南加州日本人貿易、金融界／南加州の日本人漁業／庭園業の大発展／南加州の日本人と労働／南加州日本人宗教界／新聞、放送、刊行物／南加州の日本人教育界／日本人文化生活史／日本人スポーツ界／南加州日本人主要公共団体／社会事業」「第三編 日本人の排斥苦闘史／排日問題の諸相」「第四編 戦時下の受難時代／開戦、忽ち敵性人の数年／開戦前後と立退まで／戦時転住所(WRA)設置／転住、抑留所の実態／二世兵士の武勲／立退賠償と市民権回復」「第五編 南加州の日系市民／日系市民の成長／日系市民の社会進出／日系市民の成長と活動／帰米日系市民の活動／戦後の二世活躍／全米市民協会の功績／歴史的移民帰化法の成立」「第六編 南加州日本人地方史／ロスアンゼルス市／ロスアンゼルス郡／オレンジ郡／サンデーゴ郡／インペリアル郡／リバサイド郡／サンパナデノ郡／ベンチュラ郡／サンタバーバラ郡／サンルイスオビスポ郡」

80. 加藤新一編『米国日系人百年史 並に在米日系人発展人士録』Los Angeles, 新日

米新聞社, 1961 (日米修好百年祭記念)

<334.453-Si474b> <移(四)-1>

移民前史に始まり, 1860年(「万延元年遣米使節」)から1960年(「日米修好通商百年祭」)に至る, 米国日系人の歴史を記述する「米国日系人百年史」と各地方人士の在米奮闘記録である「在米日系人発展人士録」を併せて収録したもの。約1,500頁にも及ぶ大冊であるが, 3分の2程が人士録である⁴⁶⁾。内容は以下のとおり(篇中, 章立ては省略)。

「第一篇 米国日系人百年史 総篇/米大陸移民史/米国日系人の農業—花卉、植木、養鶏、養豚業/米国日系人の商業/米国日系人水産業の盛衰/米国日系人と労働/米国日系人の教育/米国日系人と文化/米国日系人の刊行物/米国日系人の宗教/米国日系人のスポーツ界/排日と日系人苦闘史/日系市民の成長と発展/日米戦争下の在米日系人/半世紀の宿望・帰化権獲得/日米国交と在米日系人」
「第二篇 各州日系人発展史 地方篇 併録=在米日系人発展人士録/北部加州/南部加州/中部加州/オレゴン州/アイダホ州/ワシントン州/……南部沿岸諸州」

370. 加藤新一『アメリカ移民百年史』3冊, 時事通信社, 1962 (時事新書)

<334.453-Ka662a> <岸-1488> <山本-90~92>

上掲80『米国日系人百年史』普及のため, 「第一篇 米国日系人百年史総篇」と「第二篇 各州日系人発展史 地方篇」の歴史記述部分を要約し, 3分冊で刊行したもの。

371. 村山 有『アメリカ二世 その苦難の歴史』時事通信社, 1964 (時事新書)

<334.453-M982a> <岸-1489>

「アメリカに忠誠を誓った二世」と「日本の軍役に服した二世」, 二世の苦難の歴史を辿ることで, 複雑な二世問題の背景を探る。最終章において, 二世問題の典型として「東京ローズ事件」を考察する。

135. 藤井寮一編著『シカゴ日系人史』シカゴ, シカゴ日系人会, 1968 (転住日記(年表): pp. 365-385) <DC812-136>

「シカゴ日系人会」が明治百年記念事業の一環として刊行した, 「ハートランド・オブ・アメリカ」シカゴ初の「日系人史」。日系人の中心的団体である「定住者会」「シカゴ共済会」「日系人会」の発展を軸に, 宗教・文化等諸団体の活動でこれを補足し, 戦後「転住(再定住) relocation」により急激に膨張した, シカゴ日系人社会の発展過程を再現する。冒頭, イリノイ州及びシカゴの歴史を概観する。⁴⁷⁾

372. 伊藤一男『北米百年桜』シアトル, 北米百年桜実行委員会, 1969 (北米百年桜・年表: pp. 1027-1085, 『北米百年桜』編集参考書: pp. 1097-1102) <DC812-8>

373. 伊藤一男『続・北米百年桜』シアトル, 北米百年桜実行委員会, 1972 (「続・北米百年桜」年表: pp. 426-430, 「続・北米百年桜」参考文献: pp. 431-434)

<未所蔵>

374. 伊藤一男『北米百年桜』正・続2冊, 日貿出版社, 1973 <DC812-195>

375. 伊藤一男『北米百年桜』『続・北米百年桜』4冊, PMC出版, 1984 (付(16p):

対談「北米百年桜と遙かなニッポンの間」(日本人海外発展史叢書) (374, 日貿出版社, 1973年刊の複製) <DC812-241>

376. Ito, Kazuo, translated by Shinichiro Nakamura and Jean S. Gerard. **Issei: A History of Japanese Immigrants in North America**. Seattle: Executive Committee for Publication of Issei, c/o Japanese Community Service, 1973. (translation of 372. (Hokubei) Hyakunen Sakura.) (Chronological Table: pp. 895-959, Bibliography: pp. 968-972) <DC812-10>
「デクショナリー」としての移民史ではなく、埋もれた古老達のライフ・ヒストリーに基づいた、ワシントン・オレゴン・アイダホ等アメリカ西北部各州及びカナダ(ブリティッシュ・コロンビア州)における「一世苦闘史の集大成」。往時の貴重な写真を多数収録し、「読む移民史であると共に、見る移民史」ともなっている。正・続併せ1,600頁にも及ぶ浩瀚な「生活記録」は、前掲366『歩みの跡』同様、当該地域の人物録としても有用であり、検索には「人名索引」(正: pp. 1117-1140, 続: pp. 435-452)が役立つ。また各編「年表」(1868年・明治元-1972年・昭47)も詳細である。北米日系移民史における基本書の一つとなっている。372, 373は非売品。374は限定版として刊行されたもの。375(『日本人海外発展史叢書』)は374(正・続)の復刻版。376(英語版)は「二世以下、日本語を解さない子孫に伝え」るために、基金を募り、372『北米百年桜』を完訳したもの。
377. 伊藤一男『シカゴ日系百年史』Chicago, シカゴ日系人会, 1986 <DC812-240>
前掲135. 藤井『シカゴ日系人史』の空白部分(戦前及び1968年以降)を埋めるため、「シカゴ日系人会」創立二十周年記念事業として刊行されたもの。移民のライフ・ヒストリー(聞き取り)を軸に、「外交文書」・北米各邦字紙・藤井『シカゴ日系人史』その他の先行書等に基づき、移民史におけるミクロ部分を意識し、著者が「これまで手がけた移民史のなかで全く新しい視点に基づく国際交流史」としたもの。「日米交流史序章(1872-99年)」「日本人漂着最盛期(1900-20年代)」「太平洋上嵐の前夜(1930年代)」「日米戦争苦悩の三年九ヵ月(1940年代)」「戦後日誌一(1945-75年)」「戦後日誌二(1976-1985年)」の構成で、資料として「日系人関係団体」(pp. 463-474)を付す。本書取材過程での「聞き取り」調査を基に、『市俄古に燃ゆる一明治自由人の足跡』PMC出版, 1985 <DC812-242>が刊行されている。
378. 若槻泰雄『排日の歴史 アメリカにおける日本人移民』中央公論社, 1972(中公新書)(参考文献: pp. 202-205) <A68-U-13>
排日に先行する中国人排斥から、カリフォルニア州での排日の勃興、「排日移民法」(1924年)まで、「黄禍論」も踏まえ、排日運動の経過を詳細に辿り、戦後もなお人種的偏見が続いていることを指摘する。
379. 鶴谷 寿『アメリカ西部開拓と日本人』日本放送出版協会, 1977(NHKブックス 302)(参考文献: pp. 211-215) <DC821-5>
380. Tsurutani, Hisashi, translated by Betsey Scheiner, with the assistance of

Mariko Yamamura. *America-Bound: The Japanese and the Opening of the American West*. Tokyo: Japan Times, 1989. (translation of 379. Amerika Seibu Kaitaku to Nihonjin.) <DC812-A27>

中国人排斥運動により、アメリカ西部開拓の労働力として中国人に取って代わった日本人「出稼」移民。移民送出の背景から、労働運動への参加とその日本の社会運動への影響まで、鉱山労働・鉄道労働を中心に、アメリカ西部開拓における日本人「一世」労働者の実態を検証する⁴⁸⁾。

381. 黒川省三『**アメリカの日系人**』教育社, 1979 (入門新書 時事問題解説) (参考文献: p. 174) <DC812-96>

多民族国家アメリカにおいて「モデル・マイノリティ」としての地位を確立した、ハワイを含む日系アメリカ人(一世・二世・三世・帰米二世)の多様な軌跡を辿り、その意識の変遷と実態を紹介し、問題点を提示する。

382. 岡元彩子『**アメリカを生き抜いた日本人 屈辱と栄光の百年**』日本経済新聞社, 1980 (日経新書) (参考文献: pp. 216-217) <DC812-105>

「在米日本人」から「日系アメリカ人」へ、カリフォルニアに生きた日本人の百年にわたる苦闘の歴史をコンパクトに纏める。

383. 北米沖繩人史編集委員会編『**北米沖繩人史**』[Los Angeles] 北米沖繩クラブ, 1981 <DC812-163>

384. The Okinawa Club of America, comp., translated by Ben Kobashigawa. **History of the Okinawans in North America**. [Los Angeles]: Resource Development and Publications, Asian American Studies Center, UCLA and the Okinawan Club of America. 1988. (translation of 383. Hokubei Okinawajin shi) <移(四)-Y23>

1927年、「北米沖繩クラブ」の前身である「沖繩海外協会南加支部」が「在米沖繩県人史」の編纂を企画、資料収集に努めたが、結局未刊に終わった。本書は、その当時執筆された資料等に基づき、「いざ行かん、我等の家は五大洲」(当山久三)に呼応して海外雄飛の名のもと新天地を目指した、北米沖繩県人の苦闘と発展の一世を記録する。「沖繩救援聯盟」による戦災救援運動についての詳細な記述は貴重であり、ペルー日系人についても若干の記述がある。内容は以下のとおり(章立ては省略)。

「移民前史」「在米沖繩県人概史」「在米沖繩県人会」「沖繩戦災救援復興運動」「北米沖繩クラブ」「職業」「文化運動」「北米沖繩系人のプロフィール」「回想録」

385. 戸上宗賢編著『**ジャパニーズ・アメリカン 移住から自立への歩み**』ミネ ルヴァ書房, 1986 (龍谷大学社会科学叢書 VII) (参考文献: pp. 462-479)

<DC812-E4>

龍谷大学社会科学研究所の共同研究『意識と行動様式の変化に関する国際比較研究—とくに日系アメリカ人とその集団についての学際的究明—』(1979.4-1983.3)の成果を纏めたもの。一世から二世・三世へと、日本人移民・日系人がアメリ

カ社会に定着する過程での「歴史的、社会的かつ経済的背景」及び「意識や社会的態度」の変遷を解明する。「移民送出の歴史的事情」「アメリカ社会への適応過程」更に、戦後の「集団」対米移動である「日本企業のアメリカ進出」をアプローチの視座として各論稿を構成する。内容は以下のとおり（章立ては省略）。

「第Ⅰ部 移住から定住への過程／出移民の社会経済的メカニズムに関する分析視点／滋賀県における北米移民の空間分布／出移民集落の社会経済的性格—滋賀県犬上郡における計量分析／「アメリカ村」と呼び寄せ移民／移民母村の社会経済史的考察—広島県佐伯郡宮内村を素材として」「第Ⅱ部 アメリカ社会への適応と自立の過程／アメリカ史における日本人移民とその農業コミュニティ—カリフォルニア州と大和コロニーを中心として／日系米人コミュニティにおける文化活性化運動の意味について／北米における日系仏教徒の活動／1910年代の排日と「写真結婚」／アイデンティティの葛藤をめぐる問題／／コロンブス以前のアジア系アメリカ人—合衆国における文明、文化変容、少数民族の理解のために／在米日本人の取容過程—第2次世界大戦前から戦中にかけての実態」「第Ⅲ部 現代アメリカ社会における日本人の経済活動／対米進出日本企業の現状と課題—製造企業の対米進出を中心として／対米進出日本企業の企業経営上の諸問題—その現状と経営国際化の方向」

386. 村山裕三『アメリカに生きた日本人移民 日系一世の光と影』東洋経済新報社、1989 (DC821-E10)
米国西北部、特にワシントン州の初期日本人移民に焦点をあて、計量経済史の観点から、その生活の底流にあったアメリカ経済との関連を解明する。**The Economic History of Japanese Immigration to the Pacific Northwest, 1890-1920.** Ann Arbor: University Microfilms International, 1983 (DC812-A6) は、本書の基になった博士論文 (Washington Univ., Ph. D., 1982: 1983年公刊)。
139. 高橋 経『還らない日本人 偏見と差別に耐えた北米日本人移民100年史 黄禍篇』同時代社、1991 (参考文献: p. 299, 黄禍の年譜: pp. 301-309) (DC812-E117)
カリフォルニア州の排日運動から第二次世界大戦の終結まで、日本人移民の生活を軸に、黄禍・「偏見の実態」を物語体で綴る。「第九章 遺された足跡」はアメリカと関わった種々な人物の略伝。
387. 糸井輝子『外国人をめぐる社会史 近代アメリカと日本人移民』雄山閣出版、1995 (参考文献: pp. 226-231) (DC812-E222)
日米関係というマクロ的視点と移民の生活史というミクロ的視点の相互関係のなかで、多民族国家アメリカにおける「国境を越えた」日本人移民の社会史を展開する。明治期の「移植民論」から日米開戦に至るまでを扱う。日・米の史資料を駆使し、「出移民史と日系アメリカ移民史を関連づけた本書の意義は大きい」と評価されている⁴⁹⁾。
388. 佐渡拓平『カリフォルニア移民物語 気骨のジャーナリスト尺魔が刻した』垂紀書房、1998 (年表「驚津尺魔」「アメリカにおける日本人排斥等」関連): pp. 283

-285, 主な参考文献等: 巻末pp. 1-3)

<DC812-G107>

在米日本人社会のジャーナリストとして評価が高かった「鷺津尺魔(鷺頭文三)」の生涯を通してみたカリフォルニア移民史。19世紀末の日本人社会・「大和殖民地」・日系移民社会の指導者「安孫子久太郎」との交遊等が語られる。尺魔は、『**在米日本人史観**』ロスアンゼルス、羅府新報社、1930 <DC812-188> (後掲)の著者として知られ、彼の新聞連載記事(「歴史煙滅の嘆」「吾輩の米国生活」、『日米新聞』掲載)も、当時の日本人社会をよく伝えるものとして、しばしば引用されているが、尺魔自身の詳細については、これまで余り知られていなかった⁵⁰⁾。鷺津尺魔は著者の母方の祖父にあたる。本書は一種の「ルーツ探し」の記録であるが、これにより尺魔に関する空白が埋められることになった。

389. Hale, Robert Moffett. **The United States and Japanese Immigration**. Chicago: Univ. of Chicago, 1945. (Bibliography: pp. 179-188) <DC812-A47>
シカゴ大学での学位論文 (ph. D., 1945)。アメリカにおける日本人移民問題を、「紳士協約」(1908年)「カリフォルニア外国人土地法(排日土地法)」(1913年)「排日移民法」(1924年)等の成立過程における議会文書や世論等により分析し、結果として、日本人に対する早急な移民割当 (quota) を提示する⁵¹⁾。
390. Kitano, Harry H. L. **Japanese Americans: The Evolution of a Subculture**. Ethnic Groups in American Life Series, Englewood Cliffs: Prentice-Hall, 1969. (Bibliography: pp. 149-153) <EC136-5> <岸-347>
Kitano, Harry H. L. **Japanese Americans: The Evolution of a Subculture**. 2nd ed. Prentice-Hall Ethnic Groups in American Life Series, Englewood Cliffs: Prentice-Hall, 1976. (Bibliography: pp. 215-223) <未所蔵>
391. ハリー・H. L. キタノ著、内崎以佐味訳『**アメリカのなかの日本人 一世から三世までの生活と文化**』東洋経済新報社、1974 (390. Japanese Americans: The Evolution of a Subculture. 1969 ed. の翻訳) (参考文献: pp. 283-290)

<EC136-1>

日系アメリカ人の文化変容の過程を、本叢書 'Ethnic Groups in American Life Series' の監修者であるゴードン博士 (Dr. Milton M. Gordon) の「文化変容と同化」分析モデルを援用し、ロスアンゼルス地区の調査を基に社会学的に分析。同化における文化と組織の重要性を検証する。ハリー・キタノは社会福祉学専攻で、前掲216, 217「文献目録」も編纂(『参考書誌研究』No. 48, p. 33)。本書は、社会学者による日系アメリカ人社会に関する初めての包括的・専門的分析として、アメリカの多くの大学でテキストとして使われ、日系アメリカ人研究においてしばしば引用される資料となっている。第三版の刊行も予定されている。

392. Chuman, Frank F. **The Bamboo People: The Law and Japanese-Americans**. Del Mar: Publisher's Inc., 1976. <岸-121>
393. フランク・F. チューマン著、小川洋訳『**バンブー・ピープル 日系アメリカ人続練の100年**』上・下、サイマル出版会、1978 (392. The Bamboo People: The Law

and Japanese-Americans. の翻訳)

<AU-631-2>

アメリカ本土への最初の移民(「若松移民」1869年)から排日・強制収容の試練を経て、「ケネディ・ジョンソン法」(1965年修正移民法)、1972年の対敵通商法修正に至る日系アメリカ人の苦節の歴史を、法律的問題を中心に描く。表題は、日系人を嵐に耐えるしなやかな「竹(バンブー)」になぞらえたもの。

394. Wilson, Robert A., Hosokawa, Bill. **East to America: A History of the Japanese in the United States**. New York: Morrow, 1980. <DC812-42>

Wilson, Robert A., Hosokawa, Bill. **East to America: A History of the Japanese in the United States**. New York: Quill, 1982. <未所蔵>

395. ロバート・ウィルソン, ビル・ホソカワ著, 猿谷要監訳『ジャパニーズ・アメリカン 日系米人・苦難の歴史』有斐閣, 1982 (有斐閣選書 R6) (394. East to America: A History of the Japanese in the United States. 1980 ed. の翻訳)

<DC812-182>

他の移民集団と異なり一時的な「滞在者」(sojourners)としてアメリカに渡った日本人, しかし時代時代の複雑な状況, とりわけ真珠湾(奇襲)攻撃とそれに続く強制収容が, 在米日本人・日系アメリカ人の運命を大きく変えることになった。1960年, 「全米日系市民協会(JACL) *Japanese American Citizens League*」は, アメリカの歴史のなかで埋もれ忘れ去られようとしている, 日系アメリカ人の歴史を調査・編纂する計画を決定した。この「日系人研究プロジェクト(JARP) *Japanese American Research Project*」(本書邦訳では「日系アメリカ人調査計画」)の目的の一つが「日系アメリカ人の歴史について, 決定版となるような学問的書物を出版する」ことであり, その成果が本書である⁵²⁾。本書は「合衆国へ入ってきた日本移民の全体験についての最善で完璧な記録」(エドウィン・O. ライシャワー)であり, 「移民の労務者や貧困な農夫から始まり, 今では完全なアメリカ市民となって……めざましい貢献をしているところまでを描いている。」(マイク・マンスフィールド)⁵³⁾。

396. Walls, Thomas K. **The Japanese Texans**. San Antonio: Univ. of Texas, Institute of Texan Cultures at San Antonio, 1987. (Sources: pp. 235-245)

<移(四)-Y26>

397. トーマス・K. ウォールズ著, 間宮國夫訳『テキサスの日系人』芙蓉書房出版, 1997 (396. *The Japanese Texans*. の翻訳) (資料・文献: pp. 247-257)

<DC812-G50>

西海岸諸州とは幾分異なった状況にあった, テキサス日系人についての最初の研究書。テキサス日系人は1890年3人, 現在でも州総人口の0.1%を占めるにすぎないが, 他のマイノリティに比べ, その貢献度は絶大であった。西原清東・片山潜等による米作経営やその他の農業経営の歴史を中心に, 太平洋戦争と日系人社会, 強制収容所での生活(ペルー日系人の収容を含む), 戦後のテキサス日系人の状況等について, インタビューや地元紙記事も多用し描く。

398. Ichioka, Yuji. **The Issei: The World of the First Generation Japanese Immigrants, 1885-1924**. New York: Free Pr., London: Collier Macmillan Publishers, 1988. (Bibliography: pp. 293-309) <DC812-A22>
(Free Pr., 1990, paperback ed. <未所蔵>)
399. ユウジ・イチオカ著, 富田虎男 [ほか] 訳『一世 黎明期アメリカ移民の物語』刀水書房, 1992 (刀水歴史全書 32) (398. *The Issei: The World of the First Generation Japanese Immigrants, 1885-1924*. 1988 ed. の翻訳) <DC812-E145>
「苦学生」「売春婦」「出稼労働者」に始まる, アメリカにおける「帰化不能外国人」としての初期日本人の移民史。1885年(ハワイ「官約移民」到着)から1924年(「排日移民法」成立)までを記述する。「出稼」から「定住」への過程で排日運動と闘い続けた日系「一世」に関する, 最初の包括的研究書であり, 日米両国において高い評価を得ている(‘The Outstanding Book Prize of the National Association for Asian American Studies’受賞)。「日本人移民の歴史は労働史でもある」という観点から「人夫請負制」「労働組織」等についても多くの頁が割かれている。本書は, 主に‘UCLA・JARPコレクション’所収資料に基づいて書かれているが, 邦訳書では, 原書の「注記」及び「文献目録」が割愛されており, 更に「索引」が付されていないこともあり, 研究書としての資料価値が一等減ぜられているのが惜しまれる。

【カナダ】⁵⁴⁾

400. トロント日系市民協会一世部編『三十五年史 1949-1981』Toronto, トロント日系市民協会一世部, 1983 (付: カナダ日系人略史) (一世部年譜: pp. 170-183) <DC812-223>
戦後の「再定住」により人口が急増, カナダ最大の日系人集中地となったトロント(オンタリオ州)の「日系市民協会一世部」の歴史。「全加日系市民協会(NJCCA) *National Japanese Canadian Citizens Association*」結成から「日系カナダ人百年祭」の概要等を記述する⁵⁵⁾。「カナダに於ける日系人—カナダ日系人史—」(pp.1-18)が日系人史を概観する。
401. 新保 満『石をもて追わるごとく 日系カナダ人社会史』Toronto, 大陸時報社, 1975 <DC812-E60>
402. 新保 満『石をもて追わるごとく 日系カナダ人社会史』新版, 御茶の水書房, 1996 <DC812-G23>
一世移民草創の期から排日, 太平洋戦争における総移動, 戦後の現状までの日系カナダ人「社会史」。多くの研究者の引用する日系カナダ人史の「原典」となっている。新版は, プリティッシュ・コロンビア大学図書館「日系カナダ人史料コレクション *Japanese Canadian Research Collection*」(後述)蒐集の経緯を記す「日系資料の蒐集と本書成立の背景について」を補遺として加筆したもの。
136. 新保 満『日本の移民—日系カナダ人に見られた排斥と適応—』評論社, 1977(日本人の行動と思想 64) (参考文献: pp. 211-215, 関係略年表: pp. 217-227)

<DC812-67>

「新しい産業社会」カナダにおけるマイノリティ（日系人）の排斥と適応の過程を「移動均衡理論 *Moving Equilibrium Theory*」に基づき分析する。カナダ法制上の日系人の地位変動により、「日系人社会の形成（1877-1907）」「日系人社会の展開（1908-1940）」「日系人の戦時社会（1941-1949）」「日系人の戦後社会（1950-）」の四時期に分け、日系人社会の存続と変動を、優位集団（白人）・劣位集団（日系人）間のインプット・アウトプットの交換サイクルとしてとらえ、百年にわたる日系カナダ人史の諸事例を検証する。「はじめに」において、諸概念を規定し、アプローチの方法を検討し、援用モデルと時代区分を提示する。

403. 新保 満『カナダ移民排斥史 日本の漁業移民』未来社, 1985(引照文献: pp. 229-235) <DC812-224>

新保 満『カナダ移民排斥史 日本の漁業移民』新装版, 未来社, 1996(引照文献: pp. 229-235) <DC812-G34>

日系カナダ人のなかでも、とりわけ排斥が顕著だった日系漁業者について、カナダ日系コミュニティの一大中心地だったスティヴストンに焦点を据えて記述する。⁵⁶⁾

404. 新保 満『カナダ日本人移民物語』築地書館, 1986(文献: pp. 307-325) <DC812-254>

序章において、カナダにおける日本人移民・日系人史理解の背景として、カナダ及びブリティッシュ・コロンビア州発展のパターンを「経済史」の立場から概観し、第一章以下、移民第一号（永野万蔵）から戦後史まで、時代を追って日系カナダ人の足跡を辿る⁵⁷⁾。終章において、「四世」の時代には、日系社会が、生物学的にも文化的にも、白人社会に吸収されるであろうと予測している。

405. 辻 信一『日系カナダ人』晶文社, 1990(参考文献: pp. 304-305) <DC812-E98>

11人の一世及び二世のインタビューや手記を編集・再構成した「ものがたり」としての日系カナダ人の歴史と文化。著者は、「少数民族」「人種差別」「補償要求 redress 運動」を現代の日本人自身の問題として投げかけている。

138. 吉田忠雄『カナダ日系移民の軌跡』人間の科学社, 1993(カナダ日系移民関係年表: pp. 320-325) <DC812-E160>

カナダ移民前史を含め、初期の日本人移民から「補償要求 redress 運動」の成功まで、多民族国家カナダにおける日系人とその家族の歴史を、日・加の諸政策との関わりでとらえる。

270. 飯野正子『日系カナダ人の歴史』東京大学出版会, 1997(文献解題: 巻末pp. 7-20) <DC812-G56>

「第一章 移民の始まり」「第二章 ヴァンクーヴァ暴動とルミュー協約」「第三章 複雑さを増す日本人移民問題」「第四章 太平洋戦争と日系人」「第五章 再定住」「第六章 日系人コミュニティと補償要求運動」と一世紀以上にわたる日系カ

ナグ人の歴史を、国際関係における日系移民問題及び日系アメリカ人との比較を視座に考察する⁵⁸⁾。

406. 佐々木敏二『日本人カナダ移民史』不二出版, 1999 〈未所蔵〉
著者のこれまでの論稿(共同研究を含む)に加筆訂正・補筆し纏めた, 太平洋戦争直前までの日系カナダ人移民史。「序章 私と日本人カナダ移民史」「第1章 カナダ・ユニオン炭坑契約移民と神戸移民会社」「第2章 滋賀県人・和歌山県人の定住への過程—1912(明治45)年を起点として」(下村雄紀との共同研究)「第3章 初期日本人移民社会の諸組織」「第4章 ハワイよりカナダへの転航移民と晩香坡暴動」「第5章 戦前のヴァンクーヴァー日本人街の発展過程」(下村雄紀との共同研究)「第6章 排日の嵐に抗して」「第7章 太平洋戦争直前の日本人社会の状況と日本人街」からなる。歴史的調査と基本資料に基づいた実証的研究は、上掲270. 飯野『日系カナダ人の歴史』と並び、日系カナダ人史に関する一つの到達点を示すものである。
407. Young, Charles H., Reid, Helen R. Y. **The Japanese Canadians.** with a second part on Oriental Standards of Living by W. A. Carrothers; edited by H. A. Innis. Toronto: Univ. of Toronto Pr., 1938. (Selected Bibliography: pp. 194-198) 〈DC812-A23〉
Young, Charles H., Reid, Helen R. Y. **The Japanese Canadians.** with a second part on Oriental Standards of Living by W. A. Carrothers; edited by H. A. Innis. The Asian Experience in North America: Chinese and Japanese, New York: Arno Pr., 1978. (reprint of the 1938 ed.) (Bibliography: pp. 194-198) 〈DC812-30〉
ブリティッシュ・コロンビア州における人種問題, 即ち「日本人問題」の改善に資するという目的で, 日本人移民の到来・定着から発展へと, カナダ日系社会の歴史と現況を客観的に記述・分析する。'Editor's Preface' 'Introduction to Part I' が中国人との比較において本研究の意義を解説する。日系カナダ人について, 英語で書かれた初めての包括的研究として, 基本文献となっている。Pt.II "Oriental Standards of Living." は, 「カナダ国際問題研究所 *Canadian Institute of International Affairs*」と「太平洋問題調査会 (IPR) *Institute of Pacific Relations*」共催のプロジェクト報告の一部。「東洋人の生活水準」を科学的に調査し, 政治的・経済的に平等な機会を与えることで, 東洋人も白人同様の生活水準を維持できる, としている⁵⁹⁾。
408. Adachi, Ken. **A History of the Japanese Canadians in British Columbia, 1877-1958.** Tronto: National Japanese Canadian Citizen's Association, 1958. (Bibliography: p. 44) 〈未所蔵〉
(下掲411. Daniels, Two Monographs on Japanese Canadians. Arno Pr., 1978. に復刻・収録)
409. Iwaasa, David. **Canadian Japanese in Southern Alberta, 1905-1945.** Univ. of

Lethbridge Research Paper, Lethbridge : Univ. of Lethbridge, 1972. (includes Bibliography) <未所蔵>

(下掲411. Daniels, Two Monographs on Japanese Canadians. Arno Pr., 1978. に復刻・収録)

410. Adachi, Ken. **The Enemy That Never Was: A History of the Japanese Canadians.** Toronto: McClelland and Stewart, 1976. (Bibliography: pp. 435-448) (国立国会図書館では、1977年刊(再版)を所蔵) <DC812-17>

Adachi, Ken. **The Enemy That Never Was: A History of the Japanese Canadians.** Generations: A History of Canada's Peoples, Toronto: McClelland and Stewart, 1976. (pap.ed.) (Bibliography: pp. 435-448) (国立国会図書館では、1979年刊(再版)を所蔵) <DC812-A1>

Adachi, Ken.; afterword by Roger Daniels. **The Enemy That Never Was: A History of the Japanese Canadians.** Generations: A History of Canada's Peoples, Toronto: McClelland and Stewart, 1991. (Bibliography: pp. 453-466) <EC136-A74>

日本と西洋との接触到筆を起し、カナダ日系人社会の草創期から1975年までの、ブリティッシュ・コロンビア州を中心とした日系人社会の発展と排日運動の過程を考察した「通史」。日本語資料を「全く使用しておらず、戦前期に関する記述にはしばしば誤りがある」という指摘があるが(佐々木敏二『『カナダ移民史資料』解題・解説』『カナダ移民史資料』(後掲443)第1巻, p.17), 本号401. 新保満『石をもて追われるごとく』とともに、数少ない日系カナダ人通史として利用されてきた⁶⁰⁾。

1976年刊紙装版は、カナダの多文化主義の理解に資することを目的とした、多様な民族集団史のシリーズ 'Generations: A History of Canada's Peoples' の一冊として刊行されたもの。1991年刊版は、同じく 'Generations' シリーズの一冊として、Roger Danielsによる、1988年のカナダ政府の謝罪と補償に至る爾後15年間の補遺を「あとがき」として付したもの。

411. Daniels, Roger, ed. **Two Monographs on Japanese Canadians.** The Asian Experience in North America: Chinese and Japanese, New York: Arno Pr., 1978. (reprint of the 1958 ed. of K. Adachi's A History of the Japanese Canadians in British Columbia, 1877-1958. and of the 1972 ed. of D. Iwaasa's Canadian Japanese in Southern Alberta, 1905-1945.)

<DC812-31> <DC812-A66>

上掲408, 409を併せ、Arno Pr., 'The Asian Experience in North America: Chinese and Japanese' シリーズの一冊として復刻したもの。

408. Adachi. は、将来包括的な日系人の歴史を刊行するための予稿として書かれた、ブリティッシュ・コロンビア州日系人の簡略史。Adachiはその後、上掲410. The Enemy That Never Was. を上梓している。

409. Iwaasa. は、ブリティッシュ・コロンビア州に次いで日系人が多かったアルバータ州の日系人について書かれた序説的なもの。各団体記録等の一次資料や多くの日本語資料に基づいており、両州の状況を比較するうえでも重要であろうか。

412. Japanese Canadian Centennial Project Committee, ed. **A Dream of Riches : The Japanese Canadians, 1877-1977.** [Vancouver : Japanese Canadian Centennial Project, 1978]. (Text in English, Japanese, and French in parallel columns.) (Bibliography : pp. 189-190) <DC812-49>

日系百年祭プロジェクト委員会 [編]『**千金の夢 日系カナダ人百年史1877-1977**』トロント、ドレッドノート出版、1977 (英語書名 : A Dream of Riches, 仏語書名 : Un Reve de Richesses, 英文・仏文併記) (参考文献 : pp. 189-190)

<DC812-184>

「日系カナダ人百年祭」(1977年)プロジェクトの一環として開催された巡回写真展の記録集。世代間の溝が深まっている「日系社会」において、「千金の夢を追って古の国より渡って来た」日系カナダ人の、百年にわたる体験が生み出した「千金にもまさる夢」を分かち合う事の必要性、が強く意識されている。写真とともに、史実を記述し、「聞き取り」や新聞・著書からの引用を挿入し、日系カナダ人百年の悲哀の歴史を綴っている。⁶¹⁾

413. Ward, W. Peter. **The Japanese in Canada.** Canada's Ethnic Groups ; Booklet no. 3, Ottawa : Canadian Historical Association, 1982. (Suggestions for Further Reading : p. 21) <DC812-A56>

「カナダ歴史協会 *Canadian Historical Association*」がカナダ政府の '*Multiculturalism Program*' の一環として刊行している小冊子 '*Canada's Ethnic Groups*' シリーズの一冊。「日系カナダ移民の背景」「一世・二世・三世の特質」「中国人移民との比較」を概観する。

414. Takata, Toyo. **Nikkei Legacy : The Story of Japanese Canadians from Settlement to Today.** Toronto : NC Pr., 1983. (Bibliography : pp. 172-173)

<DC812-A57>

「日系カナダ人百年祭」(1977年)を記念して刊行された「図説」日系カナダ人史。日系移民第一号「永野万蔵」の密航(1877年)に始まる初期日系社会の歴史、カナダ各地における定住の歴史と一世パイオニア達の活躍、「強制立ち退き」(evacuation)・「再定住」(resettlement)、そして戦後の日系人の状況まで、貴重な写真を中心に物語る⁶²⁾。

415. Nakayama, Gordon G. ; preface by Joy Kogawa. **Issei, Stories of Japanese Canadian Pioneers.** 2nd rev. ed., Toronto : NC Pr., 1984. <DC812-A51>

416. ゴードン・中山吾一著, G. G. 中山, ホール孝子共訳『**一世 日系カナダ人開拓者物語**』[Vancouver], 聖愛刊行委員会, 1987 (415. Issei, Stories of Japanese Canadian Pioneers. の翻訳) <DC812-E58>

- 明石書店, 1995 <EC131-G1>
427. 明石紀雄・飯野正子編『**エスニック・アメリカ 多民族国家における統合の現実**』
新版, 有斐閣, 1997 (有斐閣選書) (参考文献: pp. 339-344) <EC131-G8>
428. ナンシー・グリーン著, 村上伸子訳『**多民族の国アメリカ 移民たちの歴史**』創
元社, 1997 (L'Odyssee des Emigrants et Ils Peuplerent l'Amerique. の翻訳)
(「知の発見」双書 66) (アメリカ移民史年表: p. 149, 参考文献: p. 157)
<GH82-G8>
429. 「アジア系アメリカ人 <特集>」『**地理**』36 (5): 1991. 5 <Z8-372>
430. 「多文化主義とマイノリティ集団 <特集>」『**アメリカ史研究**』19: 1996
<Z8-1600>
431. 村上由見子『**アジア系アメリカ人 アメリカの新しい顔**』中央公論社, 1997 (中
公新書) (参考文献/インターネット・サイト: pp. 261-268) <EC131-G10>
432. 飯野正子「アジア系アメリカ人—『汎アジア系』のアイデンティティ?」有賀貞
編『**現代アメリカ 4 エスニック状況の現在**』日本国際問題研究所, 1995, pp. 131
-175 <EC131-E14>
433. 有賀貞編『**日米関係におけるエスニシティの要素**』総合研究開発機構,
1995 (NIRA研究報告書 No.940052) <DC821-E30>
/由井大三郎「第二次世界大戦とアジア系移民差別法の廃止過程」(pp. 51-
65)/ゲイル・M. ノムラ「アジア系アメリカ人の日本観」(pp. 67-83)/飯野正子
「『日本たたき』と日系及びアジア系アメリカ人」(pp. 85-97) ほか収録。
434. 竹沢泰子「アメリカ合衆国におけるアジアとヨーロッパ—アジア移民とヨーロッ
パ系アメリカ人の遭遇と葛藤—」樺山紘一他編『**岩波講座 世界歴史 23 アジアと
ヨーロッパ 1900年代—20年代**』岩波書店, 1999, pp. 111-134 <GA32-G15>
435. ダグラス・フランシス, 木村和雄編著『**カナダの地域と民族 歴史的アプローチ**』
同文館出版, 1993 (文献案内: pp. 296-303) <GH291-E28>
436. 吉田健正『**カナダ20世紀の歩み**』彩流社, 1999 (カナダ史略年表: pp. 367-380,
参考文献: pp. 381-386) <GH291-G21>
437. Daniels, Roger. **Asian America : Chinese and Japanese in the United States
since 1850**. Seattle: Univ. of Washington Pr., 1988. (Bibliography: pp. 345-
372) <移(六)-Y6>
439. Takaki, Ronald. **Strangers from a Different Shore: A History of Asian
Americans**. Boston: Little Brown, 1989. <DC821-A99>
Takaki, Ronald. **Strangers from a Different Shore: A History of Asian
Americans**. New York: Penguin Books, 1990. <未所蔵>
439. ロナルド・タカキ著, 阿部紀子・石松久幸訳『**もう一つのアメリカン・ドリーム
アジア系アメリカ人の挑戦**』岩波書店, 1996 (438. Strangers from a Different
Shore. 1989 ed. の翻訳) <GH82-G7>
440. Takaki, Ronald. **A Different Mirror : A History of Multicultural America**.

Boston: Little Brown, 1993.

〈未所蔵〉

441. ロナルド・タカキ著, 宮田虎男監訳『多文化社会アメリカの歴史 別の鏡に映して』明石書店, 1995 (440. A Different Mirror. の翻訳) 〈EC131-G2〉
442. Dinnerstein, Leonard, et al. **Natives and Strangers: A Multicultural History of Americans.** New York and Oxford: Oxford Univ. Pr., 1996. (Selected Bibliography: pp. 345-358) 〈EC131-A88〉

(3) 資料集・叢書

近年, 移民研究における基本資料の復刻が顕著である(詳しくは, 注³⁾参照)。ここでは, 主題別資料集以外の, 邦語文献として2種の重要な「通史的」資料集と, その先駆けとなった「叢書」及び読み物的なアンソロジーを, さらに英文資料の復刻シリーズについて収録する⁶⁴⁾。

【復刻資料集・叢書】

278. 阪田安雄監修『日系移民資料集 北米編』全18巻, 日本図書センター, 1991, 1994(複製) 〈DC812-E118〉

日系移民史研究に不可欠な基礎資料21点を覆刻・収録。収録資料についての解題が第18巻『解説・資料編』(pp. 50-73)にある。以下各巻収録書目を掲げ, 国立国会図書館で原本を所蔵するものについては, その請求記号を()内に付す。

第1巻 [北米移民史①] 藤賀興一編著『日米関係在米国日本人発展史要』Oakland, 米国聖書協会日本人部, 昭2 (〈山本-37〉)

第2巻 [北米移民史②] 藤岡紫朗『米国中央日本人会史』ロスアンゼルス, 米国中央日本人会, 昭15 (前掲365 〈DC812-141〉)

第3巻 [出稼・移住奨励論①] 恒屋盛服『海外殖民論』博聞本社, 明24 (〈YDM41425〉, なお明治27年に訂二版 〈YDM41426〉が出版されている。)／安部磯雄『北米之新日本』博文館, 明38 (〈YDM41361〉)

第4巻 [出稼・移住奨励論②] 高橋作衛『日米之新関係』清水書店, 明43 (〈YDM29568〉)

第5巻 [渡米案内①] 赤峰瀬一郎『米国今不審議』実学会英学校, 明19 (〈YDM26885〉)／周遊散人著, 石田隈治郎編『来れ日本人 一名・桑港旅案内』川上芳途, 開新堂 (発売), 明20 (〈YDM26892〉)／片山潜『渡米案内』労働新聞社, 明34 (国立国会図書館の目録では, 発行者・発行年それぞれ, 渡米協会, 労働新聞社・明34, 35 2冊 (79p, 続編88p) となっている。〈YDM26915〉⁶⁵⁾)

第6巻 [渡米案内②] 吉村大次郎『渡米成業の手引』岡島書店, 明36 (〈YDM41516〉)／貴鳥兵太夫『最新正確・渡米案内大全』中庸堂, 明34 (〈YDM26917〉)⁶⁶⁾

第7巻 [渡米案内③] 清水鶴三郎『米国労働便覧』秀英舎, 明36 (国立国会図書館では, 清水鶴三郎 (曲川子)『米国労働便覧併英語会話』松田甚三郎,

明35 <YDM41618> を所蔵。)

- 第8巻 [渡米案内④] 飯島栄太郎『米国渡航案内』博文館, 明35 (<YDM26950>)
- 第9巻 [在米日本人史①] 丸山道治(千曲)編『亜都同胞大勢一覽』オークラ
ンド, 新世界新聞王府支社, 明41 (<YDM41406>) / 鈴木六彦他編『イン
ターマウンテン同胞發達史』デンバー, 伝馬新報社, 明43 (<YDM41415>)
- 第10巻 [在米日本人史②] 中山訊四郎『加奈陀之宝库』(第一編-第十三編),
中山訊四郎, 昭4
- 第11巻 [在米日本人史③] 中山訊四郎『加奈陀之宝库』(第十四編-第二十九編),
中山訊四郎, 昭4 (国立国会図書館では, ジャパンタイムス社, 大正11年
刊 <398-63> を所蔵。)
- 第12巻 [在米日本人史④] 絡機時報社編『山中部と日本人』Salt Lake City,
絡機時報社, 1925 (前掲84 <DC812-138>)
- 第13巻 [在米日本人史⑤] 木原隆吉編著『布哇日本人史』文成社, 昭10 (前掲
315 <334.476-Ki138h> <山本-224>)
- 第14巻 [在米日本人史⑥] 坂久五郎『サンタマリア平原日本人史』ガダグループ
日本人会, 昭11
- 第15巻 [在米県人史①] 竹田順一『在米広島県人史』ロスアンゼルス, 在米広
島県人史発行所, 昭4 (<594-62>)
- 第16巻 [在米県人史②] 迎田勝馬・中村正敏『在米の肥後人』ロスアンゼルス,
南加熊本海外協会, 昭6
- 第17巻 [在米県人史③] 廣畑恒五郎『在米福岡県人ト事業』ロスアンゼルス,
在米福岡県人ト事業編纂事務所, 昭11
- 第18巻 [解説・資料編] 阪田安雄「移民研究の歴史的考察とその課題」(本号,
pp. 22-23参照)

443. 佐々木敏二編『カナダ移民史資料』全5巻, 不二出版, 1995 (複製)

<DC812-E216>

ブリティッシュ・コロンビア大学図書館及び編者所蔵本等から, 戦前期カナダ
移民に関する必須資料を復刻。第1巻に, 佐々木敏二『『カナダ移民史料』解説・
解説』(pp. 1-20)があり, 所収資料の解説の他, 「戦前のカナダの邦字新聞」「今
回收録しなかった戦前発行された資料について」「戦後に刊行された主な日系カ
ナダ人関係書・論文」「外務省外交史料館所蔵・カナダ移民関係資料」等の解説が
あり, カナダ移民資料の道標となっている。

第1巻 大陸日報社編『加奈陀同胞發展史』バンクーバー, 大陸日報社, 明42,
大6, 大13 (国立国会図書館では, 第2, 第3 <418-28> を所蔵。第1
はフォトコピー <移-7> で所蔵。)

第2巻 中山訊四郎編『加奈陀同胞發展大鑑 附録』上, 中山訊四郎, 大11

第3巻 中山訊四郎編『加奈陀同胞發展大鑑 附録』下, 中山訊四郎, 大11

第4巻 小林貞二『須知武士道漁者慈善団体三十五年史』昭10

第5巻 山崎寧翁伝記編纂会編著『足跡』山崎寧翁伝記編纂会, 昭17 (<289-Y48ウ>)

444. 『日本人海外発展史叢書』全11巻, PMC出版

明治から昭和にかけて海外で刊行され、「後世、優れた記録と評されるに至った史料の復刻版」及び移民研究者によるドキュメント等を「従来なかった視点のもとに」「厳選収録」したシリーズ(本叢書宣伝文等による)。

伊藤一男『明治海外ニッポン人』1984(付(7p):座談会「あめりか花嫁の詩」)
<DC812-204>

紐育日本人会[水谷涉三]編『紐育日本人発展史』1-2, 1984(前掲360. 紐育日本人会, 大正10年刊<398-3>の複製)
<DC812-213>

在米日本人会事蹟保存部編『在米日本人史』1-3, 1984(前掲364. 在米日本人会, 昭和15年刊<334.45-Z11z>の複製)
<未所蔵>

伊藤一男『北米百年桜』『続・北米百年桜』1-4, 1984(付(16p):対談「北米百年桜と遙かなニッポンの間」)(前掲374. 日貿出版社, 1973年刊<DC812-195>の複製)
<DC812-241>

日本人移民史研究会編『日本人海外発展論の系譜』
<未刊>

【アンソロジー】

445. 田村紀雄編著『海外ヘユートピアを求めて 亡命と国外根拠地』社会評論社, 1989(思想の海へ[解放と変革]26)(ブックガイド:pp. 307-309)

<DC812-E85>

「移民・避難・亡命・私費留学」者達の, 祖国日本への「逆照射の橋頭堡」としての国外拠点という観点で, 28篇のドキュメント(抄)を収録するアンソロジー。編著者田村の解説「科学的、社会主義から「空想的、社会主義へ」が収録ドキュメントの時代背景を整理する。各ドキュメントのタイトル及び底本の書誌等を収載するには些か煩瑣であるので, 因みに, 北米関係ドキュメントにキーワードを付すにとどめる。

*新島襄 *若松コロニー *自由民権結社(サンフランシスコ) *片山潜
*当山久三 *日系新聞(不敬・筆禍) *赤羽巖穴 *岡繁樹 *大和コロニー
*我孫子久太郎 *日系カナダ兵(第一次大戦) *鈴木悦 *永井ゑい子
*市川房枝 *田村俊子 *キャンプ・ミル労組 *ジャック・白井 *芳賀武
*藤井周而 *日系カナダ人(生活水準)

446. 日本ペンクラブ編『海を渡った日本人』福竹書店, 1993(福竹文庫)

<DC812-E152>

漂流者をはじめ「海を渡って, そのまま帰って来なかった日本人」に関する著作(抄)13編を収録。ハワイ・北米関係ドキュメントの, 底本・書誌事項・国立国会図書館請求記号は, 以下のとおりである(底本としたものを最初に掲げる)。

*春名 徹『につぼん音吉漂流記』晶文社, 1979 <GK158-38>/中央公論社, 1988(中公文庫)
<GK158-E10>

* 川合彦彦『日本人漂流記』社会思想社, 1967 (現代教養文庫)

<683.21-Ka777n>

* 牛島秀彦『行こかメリケン、帰ろかジャパン ハワイ移民の100年』サイマル出版会, 1978 <未所蔵>/講談社, 1989 (講談社文庫) <DC812-E66> (前掲326参照)

* 工藤美代子『カナダ遊妓楼に降る雪は』集英社, 1989 (参考文献: p. 228) (集英社文庫) <ED47-E8>/晶文社, 1983 (参考文献: pp. 236-237) <ED47-43>

【英文資料集】

447. Pozzetta, George E., ed. **American Immigration & Ethnicity**. 20v, New York: Garland, 1991. (reprint)

歴史学・政治学・社会学等の学術雑誌から、移民及びエスニシティに関する重要論文をテーマ別に復刻・収録したもの。全20巻のタイトル、及び日本人移民・日系人を内容とする収録論文(*印)は、以下のとおりである⁸⁷⁾。原論文掲載誌の書誌事項を()内に記した。

1. **Themes in Immigration History**. <DC821-A179>

2. **Emigration and Immigration: The Old World Confronts the New**. <DC821-A178>

3. **Ethnic Communities: Formation and Transformation**. <EC131-A53>

4. **Immigrants on the Land: Agriculture, Rural Life, and Small Towns**. <DC821-A177>

* Higgs, Robert. "Landless by Law: Japanese Immigrants in California Agriculture to 1941.", pp. 59-79. (Journal of Economic History, 38(1): 1978. 3, pp. 205-225. <Z51-A165>)

5. **Immigrant Institutions: The Organization of Immigrant Life**. <EC131-A52>

* Ichioka, Yuji, "Japanese Associations and the Japanese Government: A Special Relationship, 1909-1926.", pp. 45-73. (Pacific Historical Review, 46(3): 1977. 8, pp. 409-437. <Z52-B277>)

* Ichioka, Yuji. "Japanese Immigrant Labor Contractors and the Northern Pacific and the Great Northern Railroad Companies, 1898-1907.", pp. 75-100. (Labor History, 21(3): Sum 1980, pp. 325-350. <Z51-H273>)

6. **The Work Experience: Labor, Class, and Immigrant Enterprise**. <EL75-A99>

* Bonacich, Edna. "Small Business and Japanese American Ethnic Solidarity.", pp. 110-126. (Amerasia Journal, 3: Sum 1975, pp. 96-112. 国立国会図書館では14(1): 1988~所蔵 <Z52-E79>)

* Modell, John. "Tradition and Opportunity: The Japanese Immigrant in

America.”, pp. 401-420. (Pacific Historical Review, 40(2) : 1971. 5, pp. 163-182. <Z52-B277>)

- # 7. **Unions and Immigrants : Organization and Struggle.** <EL221-A85>
- # 8. **Politics and the Immigrant.** <EC131-A51>
- # 9. **Immigrant Radicals : The View from the Left.** <EC131-A50>
- # 10. **Education and the Immigrant.** <FB82-A74>
- # 11. **Immigrant Family Patterns : Demography, Fertility, Housing, Kinship, and Urban Life.** <EC84-A46>
- *Modell, John. “The Japanese American Family : A Perspective for Future Investigations.”, pp. 227-241. (Pacific Historical Review, 37(1) : 1968. 2, pp. 67-81. <Z52-B277>)
- # 12. **Ethnicity and Gender : The Immigrant Women.** <DC821-A176>
- *Ichioka, Yuji. “Amerika Nadeshiko : Japanese Immigrant Women in the United States, 1900-1924.”, pp. 97-115. (Pacific Historical Review, 49(2) : 1980. 5, pp. 339-357. <Z52-B277>)
- # 13. **Assimilation, Acculturation, and Social Mobility.** <EC131-A49>
- *Feagin, Joc R. and Fujitaki, Nancy. “On the Assimilation of Japanese Americans.”, pp. 51-68. (Amerasia Journal, 1(4) : 1972. 2, pp. 13-30. 国立国会図書館では14(1) : 1988~所蔵 <Z52-E79>)
- # 14. **Americanization, Social Control, and Philanthropy.** <EC131-A48>
- # 15. **Nativism, Discrimination, and Images of Immigrants.** <EC132-A20>
- *Shankman, Arnold. “‘Asiatic Ogre’ or ‘Desirable Citizen’ ? The Image of Japanese Americans in the Afro-American Press, 1867-1933.”, pp. 437-457. (Pacific Historical Review, 46(4) : 1977. 11, pp. 567-587. <Z52-B277>)
- # 16. **Ethnicity, Ethnic Identity, and Language Maintenance.** <EC131-A47>
- # 17. **Law, Crime, Justice : Naturalization and Citizenship.** <AU-741-A91>
- 本巻には、Yuji Ichiokaの次の2論文が収録される予定だったが、出版の段階で、著者の要請により削除された。
- *Ichioka, Yuji. “The Early Japanese Immigrant Quest for Citizenship : The Background of the 1922 Ozawa Case.” (Amerasia Journal, 4(2) : 1977, pp. 1-22. 国立国会図書館では14(1) : 1988~所蔵 <Z52-E79>)
- *Ichioka, Yuji. “Ameyūki-san : Japanese Prostitutes in Nineteenth-Century America.” (Amerasia Journal, 4(1) : 1977, pp. 1-21. 国立国会図書館

では14(1) : 1988~所蔵 <Z52-E79>

- # 18. **Folklore, Culture, and the Immigrant Mind.** <G185-A56>
19. **The Immigrant Religious Experience.** <HP77-A26>
20. **Contemporary Immigration and American Society.** <DC821-A175>

VI. 注

1) 資料抽出に利用した主な文献目録は、以下のとおりである。また各文献目録の複製版については、前掲「IV. 文献・史資料目録」注1) (『参考書誌研究』No. 48, pp. 36-37) を参照されたい。

- 天野敬太郎編『法政経済社会論文総覧』刀江書院, 1927, 同『追篇』1928
- 黒正巖・菊田太郎『経済地理学文献総覧』叢文閣, 1937
- 「人口問題文献(続)」上田貞次郎編『日本人口問題研究』第3輯, 協調会, 1937
- 総理府統計局図書館編『邦文人口関係文献並資料改題 附: 人口関係論文目録』総理府統計局図書館, 1951
- 英修道編『日本外交史関係文献目録』慶應義塾大学法学研究会, 1961

2) 『日本の移民研究 動向と目録』p. 12

3) 移民研究にとってこの5年間は、「日本移民学会」の設立(「日本移民学会」第1回大会並びに設立総会開催, 1991年10月)と学会誌『移民研究年報』の刊行(1995年3月), 「移民研究会」による『日本の移民研究 動向と目録』の刊行(1994年9月), また『日系移民資料集』等基本文献の復刻等, 極めて重要な基盤整備がなされた時期であった。この時期以降復刻・刊行された主な資料(集)は、以下のとおりである。(各資料の内容については、其々の収載箇所にて記述する。)

- 『日系人強制収容所新聞「トパーズ・タイムズ」』全10巻・別巻1, 日本図書センター, 1990 <Z99-882>
- 『日系人強制収容所資料集 日系人強制収容所白書』全2巻, 日本図書センター, 1991 (War Relocation Authority Quarterly and Semiannual Reports.) <GA82-A209>
- 『日系移民資料集 北米編』全18巻, 日本図書センター, 1991, 1994 <DC812-E118> (本号278)
- 『復刻「ユタ日報」 1940-1945』五月書房, 1992 <YP21-97>
- 『日系移民人名辞典 北米編』全3巻・別巻1, 日本図書センター, 1993 <D4-E422> (前掲75)
- 『米国西北部日本移民史』全2巻, 雄松堂出版, 1994 <DC812-E185> (本号362)
- 『カナダ移民史資料』全5巻, 不二出版, 1995 <DC812-E216> (本号443)
- 『ニューヨーク日米新聞 1945-1952』五月書房, 1996 <UC151-G2>
- 『日系アメリカ文学雑誌集成』全22巻・別冊1: 『日系アメリカ文学雑誌研究—日本語雑誌を中心に』, 不二出版, 1997-98 <Z13-B779ほか>
- 外務省通商局編『通商公報』全149巻(解説・総索引全4巻), 不二出版, 1997~(刊行中) <Z79-B51> (『参考書誌研究』No. 47: pp. 6-7参照)
- 外務省通商局編『移民地事情』全10巻・別冊1, 不二出版, 1999~(刊行中) <未所蔵>

原本は、378-270ほか

- 4) 日系カナダ人の研究史については、収録した270. 飯野の「文献解題」が現在のところ唯一の纏ったものであるが、文献目録としては、一連の『カナダ関係邦語文献目録』(前掲205-207, 『参考書誌研究』No.48, p. 31参照)及び、日本カナダ学会関西地区編『カナダ関係欧文文献目録』1981等がある。資料概観という点では、吉田健正「日本におけるカナダ研究の歩み」ジョン・シュルツ, 三輪公忠編『カナダと日本—21世紀への架橋—』彩流社, 1991, pp. 383-403も有用。最近の英語文献では、Gobbett, Brian & Irwin, Robert. *Introducing Canada: An Annotated Bibliography of Canadian History in English*. Magill Bibliographies, Lanham: Scarecrow Pr.,; Pasadena: Salem Pr., 1988. がある。本号443. 佐々木敏二「『カナダ移民史資料』解題・解説」『カナダ移民史資料』第1巻, pp. 1-20は、日系カナダ移民史研究上不可避なパイロットであるし、406. 佐々木敏二『日本人カナダ移民史』「序章 私と日本人カナダ移民史」(pp. 5-8)及び各章の資料解説も、限られた範囲ではあるが有用である。
- 5) 出移民に関する、社会地理学的、その他社会学的・経済学的諸研究について詳しくは、『日本の移民研究 動向と目録』pp. 22-30, 母国・母村への影響について同書pp. 38-40, 沖縄県における移民史研究について同書pp. 44-49を参照。また、「日本移民学会」第7回大会シンポジウムにおける石川友紀の報告は、報告者作成「移民母村関連文献目録(1986~1997年)」所収主要論文を紹介する(「移民研究の現状と課題—移民送出側の視点から—」『移民研究年報』5: 1998. 12, pp. 53-67)。
- 6) 太田勇「アメリカ少数派民族新聞の二つの動向」G. H. カキウチ先生退官記念会編『アメリカ・カナダの自然と社会』大明堂, 1990, pp. 309-331 <GH131-E60>も参照のこと。日系新聞に関する文献については、前掲211. 山田晴通「北米日系新聞関係日本語文献表(第1稿)」が「日系新聞研究会」(後述)の研究成果を含め網羅的である。山田は、同稿発表以降の加筆修正・文献追加を、「北米以外の日系新聞関係」「関係機関所在地」を補足し、インターネット上で試みている (<http://camp.ff.tku.ac.jp/TOOL-BOX/NAJP.html>)。但し、2000年2月末現在、1996年7月3日が最終更新日である。
- 7) 英語文献に関する研究史・文献整理については、前掲215. Chan, “Asian Americans: A Selected Bibliography of Writings Published Since 1960s.”, 257. Miller, *A Handbook of American Minorities*. (本書は、初学者向けのアメリカのマイノリティ・グループについての歴史的概観及び重要文献案内であり、Miller, Wayne C., et al. *A Comprehensive Bibliography for the Study of American Minorities*. 2v, New York: New York Univ. Pr., 1976. を基にしたものである。)等も参照のこと。竹沢泰子は、「日本移民学会」第7回大会シンポジウム報告において、“Social Science Index”における項目及びサブ項目の変化を一つの指標として、移民研究の動向を提示する(「グローバル化と移民研究」『移民研究年報』5: 1998. 12, pp. 68-81)。
- 8) *A Buried Past*. 収録(～1972年)以降、1973-98年までに‘UCLA・JARPコレクション’に収蔵された日本語文献・個人文書等の目録として、Ichioka, Yuji, and Azuma, Eiichiro, comp. *A Buried Past II: A Sequel to the Annotated Bibliography of the Japanese American Research Project Collection, 1973-1998*. Los Angeles: UCLA Asian American Studies Center Pr., 1999. が刊行されている。本稿執筆時未見であるので、詳細については次稿以降の関係箇所でも記載する予定である。

- 9) Spickardは、日本語文献の案内として、Yuji Ichioka. "Recent Japanese Scholarship on the Origins and Causes of Japanese Immigration." *Immigration History Newsletter*, 15(2): 1983. 11, pp. 2-5. (国立国会図書館では23(1): 1991. 6~所蔵 <Z51-P808>) をあげている (Spickard, pp. 199-200).
- 10) 移民研究において、「政策レベルの検討はまだほとんど手につけられていない段階」だと言われているが(『日本の移民研究 動向と目録』p. 17), 【移民政策・移植民論】に関する文献の詳細については、前掲IV. 文献・史料目録 [1] 各機関所蔵目録-154, 155. 押本の「解題目録」中「移・植民政策論」; VI. 概説書 [1] 研究史整理-196, 265等木村の一連の論稿中「移民政策」の整理、及び『日本の移民研究 動向と目録』pp. 16-17 (「移民政策」), pp. 35-38 (「移民思想・教育」)等を参照のこと。若槻泰雄「移民政策百年史」『歴史公論』5(1): 1979. 1 (「近代百年と移民」特集) pp. 48-54は、政府移民政策の簡単な纏めと問題提起。新渡部稲造・福沢諭吉・志賀重昂等個人の「移植民論」及びそれに関する研究論文については、後掲の予定である。278『日系移民資料集 北米編』には、[出稼・移住奨励論]として3点、[渡米案内]として7点の資料が覆刻・収録されており、未収録資料も含め阪田による解説(第18巻, pp. 56-67)が有用である(本号pp. 22-23参照)。387. 糸井『外国人をめぐる社会史 近代アメリカと日本人移民』pp. 26-39は、「移植民論」「渡米論」を概観する。渡米案内の他に、ハワイ移民のための【渡布案内】書として、以下のようなものがある。
- 小西直治郎編『布哇国風土略記 附・移住民之心得』兌晶堂, 明17 <YDM26939>
 - 桂馨五郎立案, 福井太喜弥編『布国渡航者必携』福井太喜弥, 明23 <YDM41355>
 - 渡辺四郎『ハワイアメリカ出稼出世の宝』渡辺四郎, 明34 <YDM41351>
 - 山岸幹 [等]『米国布哇渡航問答』宝文館, 明35 <YDM26951>
 - 木村芳五郎・井上胤文『最新正確布哇渡航案内』博文館, 明37 <YDM26940>
- 【渡米熱—渡米案内—渡米奨励機関—渡米雑誌】について、今井(糸井)輝子「明治期における渡米熱と渡米案内書および渡米雑誌」『津田塾大学紀要』16: 1984. 3, pp. 305-342が通観する。立川健治「明治後半期の渡米熱—アメリカの流行」『史林』69(3): 1986. 5, pp. 383-417は、対米イメージを軸に排斥・黄禍論の台頭へと論を進める。今井、立川の論稿は、それぞれ直接手にした渡米案内書を基に、年代順にリスト化して便利。立川健治「明治前半期の渡米熱(1) —時事新報」『富山大学教養部紀要』人文・社会科学篇23(2): 1990, pp. 1-30, Alan T. Moriyama. "To-Bei Annai: An Introduction to Emigration Guides to America 1885-1905." 『エコノミア』94: 1987. 9, pp. 53-64, 岡林伸夫「『渡米雑誌』の出版—山根吾一の活動」『同志社法学』47(6): 1996. 3, pp. 1776-1823, 「『渡米雑誌』から『亜米利加』へ」『同志社法学』48(2): 1996. 7, pp. 463-512も参照のこと。渡米熱の背景にある「成功」願望につき、糸井輝子「日米両国の成功雑誌に関する一考察」『アメリカ研究』21: 1987, pp. 92-109, 雨田英一「近代日本の「成功」・学歴—雑誌『成功』の「記者と読者」欄の世界」『学習院大学文学部研究年報』35: 1988, pp. 259-321を参照のこと。また、これらの時代的・社会的基調をなす「立身出世主義」については、上掲今井の注(90)及び糸井の注(5)所収の文献、並びに、竹内洋『立身出世主義—近代日本のロマンスと欲望』日本放送出版協会, 1997 (NHKライブラリー) (『NHK人間大学 立身出世と日本人』テキスト, 1996に加筆・増補したもの。)等を参照のこと。また、「立身出世主義」という時代背景を顕著に現す社会風俗として、「出世双六」がある(『絵すごろく—遊びの中のあこがれ』(同展図録, 於: 東京都江戸東京博物館, 1998年2月10日—3月22日)「2 立身出世を夢見て」pp. 57-

99 <KD958-G295> 参照)。

「移民」と「植民」との差異・関係については、266。木村「近代日本の移殖民研究における諸論点」が、石川(268)・佐々木(269)の論争まで踏まえ、研究史における「移殖民の用語について」纏めている(pp. 8-11)。天沼香「移民史への視座—近代日本における移民の位相の認識のために—」『東海女子大学紀要』4:1985.3, pp. 17-31は、各種辞典・研究書の「移民」規定を踏まえ、その概念規定を試みる。石井陽一「移民と移住者の概念—用語の変遷とその歴史的背景」『人文研究』60:1974.11, pp. 79-110も参照のこと。「近代日本の『移民』を問いなおす〈特集〉」『歴史評論』513:1993.1は、上掲木村の論稿をはじめ、浅田喬二「戦前日本における植民政策研究の二大潮流について—矢内原忠雄と細川嘉六の植民理論—」(pp. 16-31)、広瀬玲子「国粋主義者の移民論・植民論覚え書き」(pp. 32-41, p31)等関連論文を取録する。また、黒田謙一『日本植民思想史』弘文堂、昭17や小野一郎「日本帝国主義と移民論—日露戦争後の移民論—」『世界経済と帝国主義』有斐閣、1973, pp. 314-348、木村健二「近代日本の移民・植民論活動と中間層(1990年度歴史学研究会大会報告—歴史認識における〈境界〉—近代史部会—近代世界における移殖民と国民統合)」『歴史学研究』613:1990.11, pp. 135-143、及び以下の最近の論稿も参照のこと。『岩波講座 近代日本と植民地 4 統合と支配の論理』岩波書店、1993、『III 植民政策学とアジア研究』所収 北岡伸一「新渡部稲造における帝国主義と国際主義」(pp. 179-203)、村上勝彦「矢内原忠雄における植民論と植民政策」(pp. 205-237)、金子文夫編「戦後日本植民地研究史」(pp. 289-317)。キム・チョンミ「国民国家日本と日本人『移民』」『岩波講座 現代社会学 15 差別と共生の社会学』岩波書店、1996, pp. 109-132

11) 【長澤別天】(本名、説) 1868(慶應4・明治元) -1899(明32) について詳しくは、本文掲出各全集の年譜・解説等を参照されたい(『日本現代文学全集』: 作品解説/稲垣達朗, 明治思想家入門/長谷川泉, 年譜, 参考文献, 『明治文学全集』: 解説/松本三之介, 年譜/佐藤能丸編, 参考文献/佐藤能丸編, 政教社文学年表/佐藤能丸編)。「政教社」についての最近の研究に、「民友社と政教社〈特集〉」『季刊日本思想史』30:1988.8, 中野目徹『政教社の研究』思文閣出版、1993、及び佐藤能丸『明治ナショナリズムの研究 政教社の成立とその周辺』芙蓉書房、1998等がある。長澤別天は、エドガー・アラン・ポーの詩を日本に紹介した先駆者の一人であり、また、スタンフォード大学留学中社会主義に傾倒し、サンフランシスコで雑誌『遠征』の編集に関わったりもした(1891年、明24「遠征社」入社。有山輝雄「雑誌『遠征』の言論活動—八九〇年代サンフランシスコにおける『有志』の軌跡—」田村・白水編『米国初期の日本語新聞』(前掲144) p. 262参照)。ハワイ革命の折、ピストル一挺と『パイロン詩集』を携えてハワイ王宮に赴いたというエピソードが、何よりも別天の人物を物語っているだろうか。別天の著作について、山田博光「長沢別天著作目録」『日本近代文学研究所所報』3:1960.5, pp. 36-39があるが、阪田278『資料集 解説・資料編』〈巻末資料〉は、主要雑誌ごとに移民関係記事をリストアップしており、『亞細亞』『日本人』に掲載された別天の移民関係記事が一覧できる。

12) 【奥宮健之】(おくのみや けんし、けんのと読む説も) 1857(安政4) -1911(明44) は、明治初期の平民的自由民権運動の活動家。後に社会主義に傾倒し片山潜らの普通選挙運動にも参画したが、大逆事件に連座して死刑となる。自由民権・社会主義と移民に関する文献は、主題別主要文献(後掲)に収録の予定である。奥宮健之については、絲屋寿雄「奥宮健之 自由民権から社会主義へ」紀国屋書店、1972(紀国屋新書)(参考文献: pp. 191-193, 年

譜：pp. 195-201)〈GK114-6〉、同『自由民権の先駆者 奥宮健之の数奇な生涯』大月書店、1981(史料と参考文献・奥宮健之略年譜：pp. 223-229)(上掲書に加筆、改訂増補したもの。)〈GK114-42〉が纏った評伝。阿部恒久編『奥宮健之全集』上・下、弘隆社、1988(奥宮健之年譜：下巻pp. 535-553)〈A22-E6〉は、上巻に著書・論稿、書翰、下巻に翻訳・関係文書を収め、編者による改題を付す。上・下巻それぞれに解説、富田伸男「青年期・奥宮健之の政治思想」、塩田庄兵衛「奥宮健之の後半生と『大逆事件』」があり、本全集により奥宮の全貌が明らかになった。「奥宮健之〈特集〉」『仿書月刊』2(2)：1986. 2, pp. 2-13は、全集刊行の前宣伝的なものだが、本邦初の試み。国立国会図書館憲政資料室所蔵「河野広中文書」中に、奥宮が北海道樺戸集治監から河野に宛てた獄中書簡があり、本全集下巻に九通が再録されている。奥宮は、1902年(明35)、民権の同志を頼って渡米、シアトルで移民事業や新聞『新日本』(山岡音高主宰、明治34年創刊)に関係したと言われている。この数か月の滞米経験の所産が『北米移民論』である(上掲絲屋『自由民権の先駆者』pp. 124-129参照)。また、この渡米に先立つ1900年(明33)、パリ万国博覧会に参加した新橋烏森芸妓一行に、帰国するフランスの風刺画家ジョルジュ・ピゴーとともに、通訳として同行した(「海外旅券下付表」目的欄に「岩間くに一行通弁として」とある。下掲倉田『海外公演事始』p. 162)ことも、しばしば引用されるエピソードである(篠田敏造『明治百話』四条書房 昭6、岩波文庫 1996、塩田庄兵衛「奥宮健之覚書」『経済と経済学』10・11：1963. 2, pp. 267-285、宮岡謙二『異国遍路 旅芸人始末書』修道社、1959、私家版 1954、改訂版 1971、中公文庫 1978、倉田喜弘『海外公演事始』東京書籍、1994(東書選書 137)、横田順彌『明治不可思議堂』筑摩書房 1995、ちくま文庫 1998等参照。この件に関し、「巴里大博を当込み 東京芸妓洋行」という新聞記事(『大阪朝日新聞』明33. 2. 18付)があるが、篠田『明治百話』が、実話の蒐集編纂という方針で「共私烏森芸者の一行が……」と一人称で記していることから、篠田本がエピソードの出典になっているものと思われる。)。奥宮と烏森芸妓との関係について、絲屋は「烏森の一廓は自由党院外団の本陣であったから、そんなところから奥宮が乗り出したのでは、としている(上掲『自由民権の先駆者』pp. 123-124)。

13) 大河平隆光及び東郷実は、ともに新渡戸稲造門下生。新渡戸稲造全集編集委員会編『新渡戸稲造全集』別巻、教文館、1987〈US21-3〉は、新渡戸の排日時のエピソードを交えた、東郷の追憶文「新渡部先生を憶ふ」(pp. 120-143)を収録する。新渡部は1904年(明37)京都帝国大学に、1909年(明42)に東京帝国大学に植民政策講座を新設した。東京帝国大学における大正初期の講義内容が、その頃学生だった矢内原忠雄によって(大5-6の矢内原の講義ノートを基幹とし、大正元-2は大内兵衛及び大3-4を高木八尺のノートで整理・補充)、関連論文を加え、『新渡戸博士植民政策講義及論文集』岩波書店、1943〈334.7-N862n-Yほか〉(『新渡戸稲造全集』第四巻、1969に再録)として纏められている。矢内原は、1920年(大9)から東京帝国大学で植民政策講座を担当、『植民及植民政策』有斐閣、1926〈334.7-Y545s〉(揚井克己他編『矢内原忠雄全集』第一巻、岩波書店、1963〈081.8-Y545y〉)に再録。底本は、改訂第四版、1933〈530-260イ〉)が、植民政策に関する体系的著者。新渡戸・矢内原らの「移植民論」及び関連研究論文については後掲の予定であるが、マーク・ピーター著、浅野豊美訳『植民地-帝国50年の興亡』読売新聞社、1996(20世紀の日本 4)〈GB411-G28〉が、東郷・新渡戸・矢内原の植民地論を纏めている(「第四章 日本の植民地思想 理念と矛盾」pp. 120-161)。

14) 「通史・概説・研究」書の類について、単行図書の他に、例えば「講座」「論文集」等に

収録されるものがある（実際は、通史・概説というよりも、「講座」各巻の主題に特化した主題別論稿というべきものが多い。）。重要だと思われる論稿及び個人著作の該当「章」（論文）については主題別主要文献に後掲の予定であるが、以下、検索が必ずしも容易ではない「講座・論文集」等に含まれる主な関係論稿を、主題に分かたず刊行年順に掲げる。（アメリカ・カナダ移民一般及びアジア系アメリカ人については、本号pp. 59-61【アメリカ・カナダ移民一般／アジア系アメリカ人】において後掲する。）（学術図書に収録された論文を検索するトータルとして、『論文集内容細目総覧』全3巻：①記念論文集②一般論文集③シンポジウム・講演集、日外アソシエーツ、1993-94〈UP52-E4〉、及び『同 1993-1998』日外アソシエーツ、1999～（刊行中）〈未所蔵〉がある。）

- 一又正雄「日米移民問題と『国内問題』—国際法における国内問題理論出現の端緒—」植田捷雄等編『近代日本外交史の研究 神川先生還暦記念』有斐閣、1956、pp. 423-439 〈319.1-U246k〉
- 佳知晃子「在米日系人—その歴史と文化」加藤秀俊編『講座 アメリカの文化 第4 多様の中の統一 地域と人種』南雲堂、1970、pp. 287-327 〈GH82-1〉
- 鹿島守之助『日本外交史 8 第二回日英同盟とその時代』鹿島研究所出版会、1970、pp. 229-276（「第五章 日米協商の成立と移民問題」）〈A99-Z-8〉
- 鹿島守之助『日本外交史 9 第三回日英同盟とその時代』鹿島研究所出版会、1970、pp. 79-102（「第二章 明治末期の条約改正」—「第三節 アメリカとの条約改正交渉」）〈A99-Z-8〉
- 鹿島守之助『日本外交史 13 ワシントン会議及び移民問題』鹿島研究所出版会、1971、pp. 258-427（「第四章 アメリカにおける日本移民問題」「第五章 カナダにおける日本移民問題」）〈A99-Z-8〉
- 斎藤 真「日本におけるアメリカ像とアメリカ研究 [I] 戦前日本」斎藤真他編『講座 アメリカの文化 別巻2 世界におけるアメリカ像—研究と展望』南雲堂、1972、pp. 11-35 〈GH82-1〉
- 隅谷三喜男「日本の社会運動とアメリカ」斎藤真他編『日本とアメリカ—比較文化論 2 デモクラシーと日米関係』南雲堂、1973、pp. 47-82 〈EC211-27〉
- 麻田貞雄「日米関係と移民問題」斎藤真他編『日本とアメリカ—比較文化論 2 デモクラシーと日米関係』南雲堂、1973、pp. 161-210 〈EC211-27〉
- 三輪公忠「徳富蘇峰の歴史像と日米戦争の原理的開始—大正十三年七月一日、排日移民法の実施をめぐって—」芳賀徹他編『講座比較文学 5 西洋の衝撃と日本』東京大学出版会、1973、pp. 183-210 〈KE181-13〉（三輪公忠『隠されたペリーの「白旗」日米関係のイメージ論的精神史的研究』Sophia Univ. Pr., 1999に「第六章 皇室中心主義と生物学的決定論による日米戦争—徳富蘇峰の場合—」として加筆・再録。）
- 若槻泰雄「日系人—このおだやかなアメリカ人」猿谷要編『総合研究アメリカ 1 人口と人種』研究社出版、1976、pp. 147-181 〈GH81-17〉
- 三輪公忠「日米関係の特徴—相互イメージを中心として」本間長世編『総合研究アメリカ 7 アメリカと世界』研究社出版、1976、pp. 97-121 〈GH81-17〉
- 亀井俊介編『アメリカ古典文庫 23 日本人のアメリカ論』研究社出版、1977〈GH81-14〉
- 飯野正子・馬場伸也「移民問題をめぐる日・米・加関係」細谷千博編『太平洋・アジア圏の国際経済紛争史 一九二二—一九四五』東京大学出版会、1983、pp. 85-112 〈DE6-

- 三輪公忠「一九二四年排日移民法の成立と米貨ボイコット—神戸市の場合を中心として」細谷千博編『太平洋・アジア圏の国際経済紛争史 一九二二—一九四五』東京大学出版会, 1983, pp. 143-179 <DE6-113> (三輪公忠『隠されたペリーの「白旗」日米関係のイメージ論的精神史的研究』に「第四章『排日』移民法に日中の提携と米貨ボイコットで応じた日本人』として加筆・再録。)
- 有賀 貞「排日問題と日米関係—『埴原書簡』を中心に」入江昭・有賀貞編『戦間期の日本外交』東京大学出版会, 1984, pp. 65-96 <A99-Z-185>
- 飯野正子「日英通商航海条約とカナダの日本人移民問題」日本国際政治学会編『日本・カナダ関係の史的展開』日本国際政治学会, 1985(国際政治 79号), pp. 1-18 <A99-ZC3-2>
- 若槻泰雄「海を渡る『出稼ぎ』」『海外視点・日本の歴史 13 和魂洋才の日々』ぎょうせい, 1986, pp. 152-163 <GB73-44>
- 永井 和「太平洋問題調査会の人々 新渡戸稲造とその弟子たち」『海外視点・日本の歴史 14 富国強兵の光と影』ぎょうせい, 1986, pp. 86-96 <GB73-44>
- 飯野正子「日系人の太平洋戦争」『海外視点・日本の歴史 14 富国強兵の光と影』ぎょうせい, 1986, pp. 152-161 <GB73-44>
- 岩野一郎「移民の帰化と人種による差別—日系移民を中心に」本間長世他編『現代アメリカ像の再構築—政治と文化の現代史』東京大学出版会, 1990, pp. 19-34 <GH118-E53>
- 佳知晃子「アメリカ社会における日系移民」細谷千博・本間長世編『日米関係史摩擦と協調の一四〇年』新版, 有斐閣, 1991, pp. 198-222 (有斐閣選書) <A99-ZU-E55>
- バトリシア・ロイ著, 飯野正子訳「誰もが歓迎されるわけではなかった—移民問題に悩むカナダ—(日加関係における移民の問題I) ジョン・シュルツ, 三輪公忠編『カナダと日本—21世紀への架橋—』彩流社, 1991, pp. 15-42 <A99-ZC3-E1>
- 鶴見和子「『ステプストン』の日系カナダ人—戦中・戦後の体験がどのように人生経路を変えたか—(日加関係における移民の問題II) ジョン・シュルツ, 三輪公忠編『カナダと日本—21世紀への架橋—』彩流社, 1991, pp. 43-66 <A99-ZC3-E1>
- 阪田安雄「移民史から見た日米関係—もつれ合う『自負心』と『強がり』—」上山和雄・阪田安雄編『対立と妥協 1930年代の日米通商関係』第一法規出版, 1994, pp. 373-404 <DE281-E18>
- 有賀 貞「日米外交史における移民問題」『日米関係におけるエスニシティーの要素』総合研究開発機構, 1995 (NIRA研究報告書 No. 940052) pp. 31-50 <DC821-E30>
- キム チョンミ「国民国家日本と日本人『移民』」『岩波講座 現代社会学 15 差別と共生の社会学』岩波書店, 1996, pp. 109-132 <EC1-G14>
- 村川庸子「忠誠を問うこと・問われること」帰米二世のナショナル・アイデンティティ」伊藤谷登士翁他編『講座外国人定住問題 1 日本社会と移民』明石書店, 1996, pp. 165-200 <DC812-G8>
- 竹沢泰子「『白人』と『黒人』の間で—日系アメリカ人の自己と他者—」青木保他編『岩波講座 文化人類学 7 移動の民族誌』岩波書店, 1996, pp. 263-292 <G121-G19>
- なお, 伊藤隆『日本の内と外 (仮題)』中央公論新社 (日本の近代 16) が近刊予定である。
- 15) 後年, 横山の関心は, 下層・労働階級の研究から資本家階級・殖民問題へと広がってい

った。移殖民関係書として『南米渡航案内』成功雑誌社、明41〈YDM26932ほか〉、『南米ブラジル案内』南半球社、大2〈348-99〉等のほか、北米在留日本人実業家や移民会社に関する「経済的人物評論」を所収する『明治富豪史』易風社、明43〈未所蔵〉（『明治文藝全集 第96 明治記録文學集』筑摩書房、1967〈918, 6-M4482〉）及び『明治富豪史』社会思想社、1989（現代教養文庫）〈EC171-E4〉に再録。各稿初出につき、現代教養文庫版、立花雄一「解説」pp. 218-219参照）がある。木村毅編『横山源之助全集』第3巻、1974、明治文献〈US21-43〉所収『明治富豪史』には、該当部分（「第三 海外の人」）が収録されていない。第1巻（隅谷三喜男編）が「日本の下層社会」と題して労働関係を、第3巻が「人物論」と題して各種人物評論を所収しているが、第2巻が未刊であり、『内地雑居後之日本』『海外活動の日本人』等、他の主要著作とともに第2巻に所収される予定だったと思われる。立花雄一『評伝 横山源之助一底辺社会・文学・労働運動』創樹社、1979〈GK162-25〉が経まった伝記。「八章 後期作品管見」は、横山の殖民問題関係論稿（主に南米）のリスト及び略述を含む（pp. 262-264, 272-273）。

- 16) 入江寅次は、全五巻からなる『日本人海外進出史』の刊行を期していたが、校了となったその第一巻『明治前期の海外日本人』の組版は戦災で焼失、第二巻の原稿も散逸してしまった。戦争で貴重な資料は焼かれ「それと同時に、入江氏をそのような仕事に強く駆りたてていたバトスも消えてしまった」という。矢野暢『「南進」の系譜』中央公論社、1975（中公新書）、pp. 27-29、及び109『邦人海外発展史』下巻、原書房版、巻末pp. 3-4（矢野暢「解説」参照）。
- 17) 『日本人の海外活動に関する歴史的調査』については、1973年、龍溪書舎が復刻刊行を企画したが、大蔵省が「報告書は（旧）著作権法11条1号にいう官公文書には該当せず、国に著作権がある」として、出版差し止めを求める仮処分を東京地裁に申請した。龍溪書舎側は「国民の知る権利の侵害であり、著作権の濫用である」と主張したが、結局1984年、最高裁で上告が棄却された。この一年後、韓国において復刻版（海賊版）が出版されたのである（『朝日新聞』1996. 2. 7付 参照）。憲法・著作権法をはじめ「情報公開」等々多くの問題を孕んでいる、いわゆる「龍溪書舎問題」については、『日本人の海外活動に関する歴史的調査』復刻刊行中止仮処分執行事件資料集『日本人の海外活動に関する歴史的調査』の刊行を促進する会事務局、1974〈AZ-615-15〉が、裁判関係資料・資料案内を収録する基本文献である。『日本人の海外活動に関する歴史的調査』復刻刊行差し止め』図書館の自由に関する調査委員会編『図書館の自由に関する事例 33選』日本図書館協会、1997（図書館と自由 14集）、pp. 12-15〈UL11-G22〉は、「図書館の自由」の観点から本事件を纏める。
- 18) 本書については、先に『参考書誌研究』No. 47において、資料番号50として収録し（〔1〕統計、p. 29）、同号別箇所でも資料番号110と二重に付与している（〔3〕年表、p. 43）。更に『参考書誌研究』No. 48、p. 19でも110を付与してしまった。また出版年にも乱れが生じていたので、他の文献も参考にして〔1971〕に統一した。このような資料番号の二重付与の訂正及び書誌上の訂正・補記等については、連載最終稿に一括して収載する予定である。
- 19) しかし例えば、村川庸子「書評」『歴史学研究』661:1994. 8, pp. 54-56は、手放しの評価に終わらず、児玉の方法論に少しく疑問を呈している。
- 20) 本書についての書評で、伊藤一男は、「国別の移民史だけでは日本人移民の実態は追いつけない……こうなると単なる移民史ではなく……「複合移民史、ないし「総合現代史」に拡大発展するだろう。……原本は光の当て方次第では全く別の世界が展開する。それが著者、

研究者それぞれの「移民史観」なのではあるまいか。……移民史は生乾きの歴史などだけで見方次第ではまるで万華鏡のように千変万化する」と、移民史研究観を述べている（『週刊読書人』1993. 1. 18）。

- 21) 「県史」「県人海外発展史」については、前述したが（『参考書誌研究』No. 47, pp. 18-22）、『広島県移住史』同様、包括的で、日本人移民史としても有用なものとして、以下のものも参照のこと。
- 三重県人北米発展史編纂委員会編『三重県人北米発展史』三重県海外協会、1966〈未所蔵〉
 - 和歌山県編『和歌山県移民史』和歌山県、1957〈334.4-W38w〉
 - 兵庫県海外発展史編集委員会編『兵庫県海外発展史』兵庫県、1970〈DC812-63〉
- 22) 【河上清】1879（明12）-1949（昭24）は山形県生まれ。若い頃はカール・マルクスに倣ってカールという英語名をつけたほどの社会主義者であり、阿部磯雄・片山潜らとともに、日本最初の社会主義政党「社会民主党」（1901年（明34）5月結成、即日禁止・解散）の創設に参画した。1901年渡米し、アイオワ大学で政治学を学び修士号を取得した。その後は、社会主義思想から離れ、ジャーナリストとして活躍。1914年から1920年までは、日本政府が設立した「太平洋通信社 Pacific Press Bureau」のディレクターとして日本及び日本人移民の擁護に指導的役割を果たした。詳しくは、本号398. Ichioka, The Issei. pp. 190-193. (邦訳399『一世』pp. 211-215)を参照のこと。本書のほか、日本人移民問題に関するものに、The Japanese Question: A Symposium. San Francisco: Japanese-American News, [19-]. <325.73-K22j>, The Real Japanese Question. New York: Macmillan, 1921. 〈未所蔵〉, New York: Arno Pr., 1978. (The Asian Experience in North America: Chinese and Japanese) (reprint of the 1921 ed.)〈DC812-23〉がある。その他の主要著作リストも含め、前掲153. Japanese American History: An A-to-Z Reference from 1868 to the Present. pp. 197-198. も参照のこと。Jokichi Takamine: A Record of His American Achievement. New York: William Edwin Rudge, 1928. は、高峰譲吉の滞米時代の伝記。『米ソ戦わば？ 祖国日本に訴う』日米通信社、1949〈a302-76ほか〉（『祖国日本に訴う』時事通信社、1966〈319.04-Ka815s〉は1949年刊の複製）は、第二次大戦後の国際政治に関する著作であるが、渡米の動機、初期の政治思想など自伝的な叙述を含む。
- 23) 【市橋倭】1878（明11）-1965（昭40）は愛知県の旧士族の出。16歳で渡米し、スタンフォード大学で修士、ハーヴァード大学で博士号を取得し、1913年から1943年までスタンフォード大学で「日本研究」の講座を担当した。市橋は、日本人移民の「同化可能説」支持者であり、本書に先行するJapanese Immigration: Its Status in California. San Francisco: Japanese Association of America, 1913. (国立国会図書館では、1915年増補・再版されたMarshall Pr. 版を所蔵〈Ba-652ほか〉)にもその立場が反映されている。詳しくは、Yuji Ichioka. "'Attorney for the Defense': Yamato Ichihashi and Japanese Immigration." Pacific Historical Review, 55(2): 1986.5, pp. 192-225, 本号398. Ichioka, The Issei. pp. 193-195. (邦訳399『一世』pp. 215-217), 及び前掲153. Japanese American History: A-to-Z Reference from 1868 to the Present. p.169. を参照のこと。
- 24) 瀬川善信「日布移民問題(1, 2・完)」『国際法外交雑誌』66(1): 1967.6 pp. 67-96, 66(3): 1967. 10 pp. 264-292は、「日本外交文書」「公文備考」等を典拠として、ヴァンリード、「元年者」から「移民上陸拒絶事件」に至る日布移民問題を略述。その他、日布移民問題に関する

る文献につき詳しくは、『日本の移民研究 動向と目録』pp. 84-95 (『II 日系人一受け入れと定着に関する諸問題—2 ハワイ』), 同pp. 153-155 (『III 国際関係の中の移民—3 日布関係』)を参照のこと。また、1960年代までのハワイ日系移民資料については、前掲177, 及び178. Matsuda文献目録 (『参考書誌研究』No. 48, p. 24)も参照のこと。

日本からハワイへの移民に先立つ1830年(天保元)には、20名のハワイ人が、5名の欧米人とともに、小笠原群島父島に入植している。当時の小笠原は、捕鯨の拠点として注目されており、ペリー来航の目的の一つが捕鯨船の避難・補給港の獲得にあったことは周知のとおりである。例えば、専ら開国と米国捕鯨業との関係を考察したものとして、桑田透一『鯨族開国論 ベルリは断じて開国日本の恩人にあらず』書物展望社、昭15 (210.593-Ku974g)がある。また、最新のものとして、『日米交流のあけぼの—黒船きたる—』(同展図録、於：東京都江戸東京博物館、1999年9月28日-12月12日)「第4章 太平洋の捕鯨をめぐる」pp. 93-114 (K16-G507), 及び同展関連図書である、小林淳一『海を渡った生き人形 ペリー 以前以後の日米交流』朝日新聞社、1999 (朝日選書 633), pp. 87-89 (GB383-G25)がこの件に言及する。川澄哲夫「漂流民と鯨捕りの物語」『英語教育』48(1): 1999. 4~(連載中) (Z12-54)は、日本の開国と近代化の原動力としての漂流民及びアメリカの捕鯨業をヴィジュアルに描く。太平洋に出漁するアメリカの捕鯨船はサンドウィッチ諸島(ハワイ)のホノルルやラハイナを中継港としており、この入植の一団もホノルルで結成された。入植10年後の島の様子は「日常生活全体がハワイ風で、いわばトル・ハワイとでもいふべき雰囲気があった」という(田中弘之『幕末の小笠原』中央公論社、1997 (中公新書) pp. 41-50, 70-73 (GC72-G8))。ハワイからの対日接触について、後掲332. 渡辺『ハワイの日本人・日系人の歴史』上巻, pp. 62-67も参照のこと。

- 25) 山口県周防大島は、「第1回官約移民の1/3を占めるほどの全国屈指のハワイ移民の先進地」。他の瀬戸内地域や沖縄県及び「アメリカ村」と称される地域(広島県佐伯郡旧地御前村、滋賀県八坂、和歌山県日高郡三尾等)同様、出移民の卓越地域であり、移民母村としての研究が顕著である。出移民母村についての研究史につき、本号注5)参照。周防大島からの移民について、石川友紀「山口県大島郡久賀村初期ハワイ契約移民の社会地理学的考察」『地理科学』7: 1967. 6, pp. 25-38, 及び石川友紀「山口県大島郡東和町における出移民の歴史地理学的考察」『琉球大学法文学部紀要 史学・地理学篇』34: 1991. 3, pp. 1-21が実証的な研究。これらは何れも加筆・再構成のうえ、前掲271. 石川『日本移民の地理学的考察—沖縄・広島・山口—』に纏められている(「各論 [I] 契約及び自由・契約移民時代、特に契約移民送出の中心地域(瀬戸内)からの移民」—「第7章 島嶼村: 山口県周防大島からの移民」pp. 281-310)。
- 26) 財団法人「ハワイ移民資料保存館」は、「ハワイ日本人移民百年祭」(1968年)を契機に、「日本万国博覧会記念協会」からの建設補助金・ハワイでの募金等を基金とし、「移民資料保存会」と「ピシヨップ博物館」の共同事業として、同博物館敷地内に1976年10月26日落成、開館した。その業務内容は、主に「日本人移民資料の収集・保存」「日本人移民に関する学術研究と出版」等であり、「日本人移民並びにハワイ王朝あるいは両者の関連を示す一切の記録類」「生活道具類」等を収集してきた。しかしその後、ピシヨップ博物館の経営方針の変更により、「ハワイ移民資料保存館」は閉鎖、今日に至っている。『ハワイ移民資料保存館開設趣意書』〈移(四)-ハワイ-2-2-2〉及び『ハワイ報知』1976. 10. 27, 1976. 12. 2)ほか (Z98-2) 参照。

- 27) バーバラ・カワカミ (Barbara F. Kawakami, 川上房子) は、1921年熊本県生まれ、生後3ヶ月で両親と共に渡布、以後ハワイ在住。Japanese Immigrant Clothing in Hawaii, 1885-1941. Univ. of Hawaii Pr., 1993. <DC812-A55> (邦訳: 香月洋一郎訳『ハワイ日系移民の服飾史 紐からバラカへ』平凡社, 1998 (神奈川大学日本常民文化叢書) <GD64-G19>) (後掲) の著書がある。大久保清は、ヒロで36年間邦字新聞『ヒロタイムス』(1990年休刊) を発行し続けた、日系最後のジャーナリスト。「ハワイ島日本人移民資料保存館」長でもあり、『ハワイ島日本人移民史』(前掲91) ほかの編著書がある。大久保及び「ハワイ島日本人移民資料保存館」について詳しくは後述する。児玉正昭は現在、鈴峯女子短期大学(広島県) 教授。『日本移民史研究序説』(本号305) をはじめ、移民母村・出移民史について多数の実証的研究がある。第一回官約移民(1885年)としてハワイに渡り、契約満了後、ハワイ日系社会の草創期に雑貨商を営んだのが「後藤潤^{かつ}」。商店が繁盛したことで白人の妬みをかい、1889年リンチの犠牲となった。後藤潤は嘉屋の伯父(養父の兄)にあたる。嘉屋文子著編『後藤潤のこと』溪水社, 1986 <DC812-E23> (後掲) が事件の経緯を伝える。
- 28) 「ベイオネット憲法」(武力による強制憲法、の意)をめぐり動静につき、後掲353. Kuykendall, The Hawaiian Kingdom 3, pp. 366-372, 354. Fuchs, Hawaii Pono. pp.29-31, 355. Daws, Shoal of Time. pp. 251-254, 及び126. 中島『ハワイ・さまよえる楽園』pp. 76-80 も参照のこと。
- 29) 「……この本はハワイにおける日系人の体験を扱った本の中でもっとも完全なものである。」後掲395. 邦訳『ジャパニーズ・アメリカン』p.165
- 30) 【ロナルド・タカキ】は、1939年ハワイ生まれの日系アメリカ人三世。地元の高校を卒業後ウースター大学(オハイオ州)に入学、公民権運動の洗礼を受け、アメリカにおける少数民族問題に開眼したという。1962年、カリフォルニア大学バークレー校大学院に進学。1967年、アフリカ奴隷貿易に関する論文“A Pro-Slavery Crusade: The Movement to Reopen the African Slave Trade.”で博士号を取得した。その後、カリフォルニア大学ロサンゼルス校の講師を経て、1972年、バークレー校に新設された民族研究学部に移り、アジア系アメリカ人研究科の教授として現在に至っている。
- タカキの数多い著作に通底する特色は、「文学作品からの引用や隠喩をふんだんに使って、読者に明確で豊かなイメージを提供する、その手際のすばらしさにある」と言われている(下掲富田「タカキ(ロナルド)」p. 400)。タカキの主要著作が‘The American Award’をはじめ数々の賞に輝き、日本でも翻訳出版されていることから、その評価の高さがうかがえる。ロナルド・タカキについて詳しくは、後掲439. ロナルド・タカキ著、阿部紀子・石松久幸訳『もう一つのアメリカン・ドリーム アジア系アメリカ人の挑戦』岩波書店, 1996 (438. Strangers from a Different Shore, 1989 ed. の翻訳) pp. 353-361「訳者あとがき」(石松久幸), 441. ロナルド・タカキ著、富田虎男監訳『多文化社会アメリカの歴史 別の鏡に映して』明石書店, 1995 (440. A Different Mirror. の翻訳) pp. 717-720「訳者あとがき」、及び主要著作の解説(『パウ・ハナ』『もう一つのアメリカン・ドリーム』『多文化社会アメリカの歴史』ほか)を含んだ評伝、富田虎男「タカキ(ロナルド)」尾形勇他編『20世紀の歴史家たち 3 (世界編上)』刀水書房, pp. 395-410 <G22-G4> 等を参照。

1995年、戦後50年記念事業として計画された、国立スミソニアン航空宇宙博物館での原爆展をめぐって激論が交わされた。タカキはこの時期、トルーマン大統領の性格分析から原爆投下の経緯を明らかにした、Hiroshima: Why America Dropped the Atomic Bomb.

Little Brown, 1995 <AU-651-A257> (邦訳: 山岡洋一訳『アメリカはなぜ日本に原爆を投下したのか』草思社, 1995 <GH113-E16>) を著している。本書の中でタカキは、太平洋戦争・原爆投下を、アメリカに根ざす人種の偏見が行き着いたところ、だとしている。いわゆる「拒絶された原爆展」については、日米両国で実に多くの書物が刊行されているが、例えば以下のものを参照のこと。Lifton, Robert J. & Mitchell, Greg. Hiroshima in America: Fifty Years of Denial. Putnam's Sons, 1995. (邦訳: 大塚隆訳『アメリカの中のヒロシマ』上・下, 岩波書店, 1995), 由井大三郎『日米戦争観の相剋 摩擦の深層心理』岩波書店, 1995, 斎藤道雄『原爆神話の五〇年 すれ違う日本とアメリカ』中央公論社, 1995(中公新書), Bird, Kai & Lifschultz, Lawrence, eds. Hiroshima's Shadow: Writings on the Denial of History and the Smithsonian Controversy. Pamphleteer's, 1996., Harwit, M. An Exhibit Denied Lobbying the History of Enola Gay. Springer, 1996. (邦訳: 山岡清二監訳『拒絶された原爆展 歴史のなかの「エノラ・ゲイ」』みすず書房, 1997 [著者マーティン・ハーウィットは当時のスミソニアン航空宇宙博物館長。1987年8月就任後, 「エノラ・ゲイ」を単なる技術進歩の印としてではなく, 「原爆投下と終戦」「原子力時代と冷戦の幕開け」の象徴として展示する「原爆展」を企画し準備を進めてきた。しかし, 議会を巻き込んでの大論争の末, 1995年1月同展中止決定後, 同年5月に館長を辞任し, これまでの経緯を詳述した本書を公にした。ハーウィットは1997年8月, 広島で開かれた「世界平和連帯都市市長会議」に参加のため来日, 各地で「原爆展拒否の真相」について講演を行っている。] 本書について, 佐々木力「ハーウィット博士とヒロシマ・ナガサキ」『出版ダイジェスト』1650: 1997. 6を参照。), NHK取材班『アメリカの中の原爆論争 戦後50年スミソニアン展示の波紋』ダイヤモンド社, 1996 (NHKスペシャル), 平岡敬『希望のヒロシマ—市長はうったえる』岩波書店, 1996 (岩波新書), Linenthal, Edward Tabor & Engelhardt, Tom ed. History Wars: The Enola Gay and other Battles for the American Past. Metropolitan Books, 1996. (邦訳: 島田三蔵訳『戦争と正義 エノラ・ゲイ展論争から』朝日新聞社, 1998 (朝日選書 607))

- 31) タイトルにある1865(年)は、ハワイ国外相ワイリー (Robert Crichton Wyllie) が、日本人移民要請の書簡をヴァン・リード宛て出した年である (1865年3月10日付)。前掲153. Japanese American History: An A-to-Z Reference from 1868 to the Present., “Chronology of Japanese American History” は、本書Cane Fires. をこの件の典拠としている。しかし、Cane Fires. 該当頁 (p. 19) は、Marumoto, Masaji. “‘First Year’ Immigrants to Hawaii and Eugene Van Reed.” in East Across the Pacific: Historical and Sociological Studies of Japanese Immigration and Assimilation. (本号276) からの引用であり、適切とは思われない。なおこの件に関し、本号332. 渡辺『ハワイの日本人・日系人の歴史』上巻が、関係資料を検証し詳細である (「第二節 『元年者』とその前後の模様」 pp. 68-118)。
- 32) ‘William Carlsson Smith (WCS) Papers.’ は、オレゴン大学の社会学者スミスが、1926-27年にハワイの公立高校・ハワイ大学等の生徒・学生に書かせた、ライフ・ヒストリーのコレクション。オリジナルはオレゴン大学図書館、ハワイ大学ハミルトン図書館ではマイクロフィルム (19巻) で所蔵。本書と同じ観点で「多文化社会における民族集団の社会・文化変容の位相を明らかにしたものに、沖田行司『ハワイ日系移民の教育史—日米文化、その出会いと相克—』ミネルヴァ書房, 1997 (Minerva21世紀ライブラリー 35) <FB14-G37>, 沖田行司編『ハワイ日系社会の文化とその変容—一九二〇年代のマウイ島の事例—』ナカニ

- シヤ出版, 1998 (同志社大学人文科学研究所研究叢書 XXIX) <DC812-G74> (何れも後掲) がある。本書 (346) は, 歴史的所産として重要であるのみならず, 移民とアファーマティブ・アクション (affirmative action) に関する最近の論争についても重要な示唆を与えるものである。'book review' by David Yoo, *Amerasia Journal*. 25 (2) : 1999, pp. 193 (-195).
- 33) 【ハワイ史】について, 以下のものも参照のこと。山中速人『イメージの〈樂園〉 観光ハワイの文化史』筑摩書房, 1992 (ちくまライブラリー 74), 山中速人『ハワイ』岩波書店, 1993 (岩波新書), ハロラン英美子『ホノルルからの手紙 世界をハワイから見る』中央公論社, 1995 (中公新書), Liliuokalani. *Hawaii's Story by Hawaii's Queen*. Honolulu: Mutual Publishing, 1990. (reprint of 1898 ed.), Wisniewski, Richard A., comp., ed. *The Rise and Fall of the Hawaiian Kingdom*. Honolulu: Pacific Basin Enterprises, 1979., Wisniewski, Richard A., comp., ed. *Hawaii: The Territorial Years, 1900-1959*. Honolulu: Pacific Basin Enterprises, 1984., Budnick, Rich. *Stolen Kingdom: An American Conspiracy*. Honolulu: Alohapr., 1992. また, 『歴史地理教育』580: 1998. 7は, 「ハワイ併合100年」を特集している。
- ハワイに関するガイドブックにおいても, 外国で出版されたものでは, かなりの頁がハワイ史やハワイにおけるエスニック集団について割かれている。例えば, Bisignani, J. D. *Hawaii Handbook*. Chico, CA: Moon Publications, 1991, 3rd ed. では, History: pp. 22-42, The People: pp. 55-67, Booklist: pp. 846-852, またLueras, Leonard, ed. *Hawaii*. HK: APA Publications, 1992 (Insight Guides), 9th ed. では, History: pp. 4-65, People: pp. 68-97, Further Reading: pp. 378-380 (1981年に日本語版刊行) という具合である。最近では日本でも, グレンダ・ベンデュレ, ネット・フレリー共著, 五島武生訳『ロンリー・プラネットのハワイ—オアフ編』マガジンハウス, 1992 (『旅立つ前のハワイ物語 歴史』pp. 12-23) やハワイの多民族社会の理解を基調とした, CG編集室編『ハワイ 島・ひと・暮らしのものと奥へ』トラベルジャーナル社, 1999のようなガイドブックが発行されるようになったし, 『裏ハワイ読本 絶対保存版』宝島社, 1993 (別冊宝島 EX) (ハワイ史・日系移民関係記事: pp. 173-216), 『ハワイ [極楽] 読本』宝島社, 1997 (別冊宝島 WT 15) (ハワイ史・日系移民関係記事: 「イオラニ宮殿が語るハワイ王朝史」「日系二世たちの『午餐会』」「ワシはジャパン・ボーンのマクレジャ」「路上探検!? ハワイ宗教建築巡礼記」) のようなハワイ関係書も目立つようになった。池澤夏樹『ハワイ紀行』新潮社, 1996, 津田道夫『ハワイ 太平洋の自然と文化の交差点』社会評論社, 1998 (『ハワイ—太平洋の自然と文化の交差点』石塚正英編『世界史の十字路口・離島』社会評論社, 1998 (社会思想史の窓 119), pp. 79-123は, 冒頭部分の先行的掲載。) 等は, ハワイ史を踏まえた一般書。
- 34) この顛末については, 本号305. 児玉『日本移民史研究序説』(『日本人移民の参政権獲得運動』pp. 237-241), 今井輝子「米布併合をめぐる日米関係」『国際関係学研究』(津田塾大学) 6 (1979年): 1980. 3, pp. 49-65等を参照。「ハワイ革命」に際し, 日本政府も, 在布日本人の保護を名目に, 東郷平八郎指揮する巡洋艦「浪速」を派遣した。「浪速」には山階宮定麿親王が乗艦していたので, その後様々な憶測を生むことになった (注36) も参照のこと)。これ以後, 日清戦争の期間を除き, 「ハワイ併合」までほぼ一年ごとに, 帝国海軍艦艇のハワイ派遣が続けられた (本号314, 320ほか日布関係書に付されている「帝國軍艦ホノルル寄港年表」参照)。【愛国 (有志) 同盟】は, 菅原伝・石阪公歴ら自由民権運動弾圧からの政治的亡命者によって, 1888年1月, サンフランシスコ・チャイナタウンのはずれオファレ

ル街に設立された。日本の内治改良を目的とし、機関紙『第十九世紀』を発行して日本国内の同志に送付、連帯を図ったが、度重なる日本政府の弾圧にあい、発禁と改題の馳ごっこが続いた。「愛国同盟」の活動について以下のものを参照のこと。本号398. The Issei. pp. 19-20, 49-51ほか(邦訳399『一世』pp. 21-22, 58-60ほか)、新井勝彦・田村紀雄「自由民権期における桑港湾岸地区の活動(在米日系新聞の発達史研究 5)『東京経済大学人文自然科学論集』65:1983. 12, pp. 75-136(「4. 愛国同盟活動史」pp. 100-115)〈Z22-394〉、田村紀雄『アメリカの日本語新聞』新潮社, 1991(新潮選書), pp. 63-90, 91-119, 121-144〈UC151-E5〉(後掲)、色川大吉『自由民権』岩波書店, 1981(岩波新書)(「第六章 亡命民権家の戦い」pp. 185-214)〈GB431-103〉。「愛国同盟」の機関紙の変遷について、前掲143. 蛭原『海外邦字新聞雑誌史』(「第五章桑港日本人愛国同盟の機関紙」pp. 105-136)〈UC123-7〉も参照のこと。「愛国同盟」に関する他の文献は、自由民権・社会主義と移民に関する主題別主要文献(後掲)に収録の予定である。

35) ハワイをめぐる日米関係については、以下のものも参照のこと。野崎圭介『日米戦の土俵布哇と比律賓』二松堂書店, 昭7<587-365〉、奥村多喜衛編『布哇に於ける日米問題解決運動』ホノルル, 奥村多喜衛, 昭7<524-343イほか〉、上原敬二『日米の楔点ハワイ』先進社, 昭7<587-266〉〈山本-22〉、黒羽茂『日米外交の系譜—太平洋戦争への抗争史的展開』共同出版, 1974〈A99-ZU-27〉、今井輝子「米布併合をめぐる日米関係」『国際関係学研究』(津田塾大学)6(1979年):1980. 3, pp. 49-65, 福本保信「アメリカのハワイ併合—1—」『西南学院大学国際文化論集』1(1):1986. 7, pp. 1-25。

36) 【カラカウア王訪日】に関する外交史料については前述した(『参考書誌研究』No. 47, p. 13)。石井研堂『明治事物起原』は、カラカウア王(カメハメハ第七世と記す)の来日をもって「外国元首来朝の始めとなす」としている(『明治事物起原』3『筑摩書房, 1997(ちくま学芸文庫) p. 155 第三編 国際部「布哇国元首の来朝」——『明治事物起原』各版につき、佐藤洋一「『明治事物起原』の各版について」(ちくま学芸文庫)版1, pp. 377-393, 坪内祐三「『明治事物起原』のアクチュアリティ—」(ちくま学芸文庫)版3, pp. 409-419を参照のこと)。本号332. 渡辺『ハワイの日本人・日系人の歴史』上巻は、本号352, 353ほかの基本資料の綿密な比較考証のもとに、「カラカウア王の日本訪問」について詳細に纏めている(pp. 405-468)。カラカウア王は訪日に際し、「アジア諸国同盟」「山階宮定麿親王(後の東伏見宮依仁親王)・カイウラニ王女婚約」「条約改正」「移民招致」「日本・ハワイ間海底電線敷設」の五提案をしたが、結局は日本側が丁重に断り、訪日の結果として、日本の基本的政策が変わることはなかった(外務省記録「布哇国国王宛 明治天皇御親翰関係一件」)。この件に関しては、ハワイ史・日布移民関係書では一応言及されており、小説の題材にもなっているが、以下のものも参照のこと。宮内省臨時帝室編修局編修『明治天皇紀』第五(明治十三年一月—明治十五年十二月)吉川弘文館, 1971, pp. 290-299, 志賀重昂「隠れたる日本布哇史(日本某親王請嫁の内奏)」『続世界山水図説』pp. 226-230(志賀富士男編『志賀重昂全集』第六巻, 志賀重昂全集刊行会, 昭3及び、日本図書センター, 1995(昭3刊の複製)に再録。), 小笠原長生[等編]『依仁親王』東伏見宮家, 昭2, pp. 539-540, 河村一夫「明治十四年のハワイ皇帝来朝について」『外交時報』1109:1973. 9, pp. 42-45, 川口宏「幻のロイヤルウェディング—日本皇室とハワイ王室を結ぶ秘められた逸話」『裏ハワイ読本 絶対保存版』宝島社, 1993(別冊宝島 EX), pp. 214-216, Kuykendall, Ralph S. Hawaiian Kingdom 3. ('Chapter 9 King Around the World', pp. 227-245), Ogawa, Dennis M. Jan

- Ken Po: *The World of Hawaii's Japanese Americans*. Honolulu: Japanese American Research Center, 1973, (2nd ed., Honolulu: Univ. of Hawaii Pr., 1978, pp.82-108)。カラカウア王、及びカイウラニ王女につき、前掲Liliuokalani. *Hawaii's Story by Hawaii's Queen*. Zambucka, Kristin. *Kalakaua: Hawaii's Last King*. Mana-Marvin/Richard, 1983., Zambucka, Kristin. *Princess Kaiulani: The Last Hope of Hawaii's Monarchy*. Honolulu: Mana Publishing, 1982 (new ed., 1984) (*A Cry of Peacocks. A Green Glass*, 1993. としてビデオ化)等を参照のこと。
- 37) ハワイ史を踏まえた現在のハワイの社会・文化状況につき、Kent, Noel J. *Hawaii: Islands Under the Influence*. New York: Monthly Review Pr., 1983. (1993, Univ. of Hawaii Pr. ed.), Buck, Elizabeth. *Paradise Remade: The Politics of Culture and History in Hawai'i*. Philadelphia: Temple Univ. Pr., 1993. を参照。また、ハワイの「主権回復運動」について、次のものも参照のこと。Dudley, Michael Kioni. *Hawaiian Nation: Man, Gods, and Nature*. Honolulu: Nā Kāne O Ka Malo Pr., 1990., Dudley, Michael Kioni & Agard, Keoni Kealoha. *Hawaiian Nation: A Call for Hawaiian Sovereignty*. Honolulu: Nā Kāne O Ka Malo Pr., 1990., DeFries, Eleanora M., ed. *Light Upon the Mist: A Reflection of Wisdom for the Future Generations of Native Hawaiians, Akaiko Akana 1884-1933*. Kailua-Kona, HI: Mahina Productions, 1992., Trask, Haunani-kay. *From a Native Daughter: Colonialism and Sovereignty in Hawai'i*. Monroe, ME: Common Courage Pr., 1993.
- 38) 『周航随日記』は、カラカウア王に対し礼を失している箇所が多く、それで王の没後に刊行されたと言われている。アームストロング自身が本書のなかで「この作品はしわを隠さない肖像画であり、いますぐにはなく、王の死後に刊行するつもりだ。というのも素直にありのまま書いてあるからである」と述べている(荒俣訳, p. 19)。カラカウア王の周航目的に関し、渡辺『ハワイの日本人・日系人の歴史』上巻(本号332)は、アームストロングが、随所で「カラカウア王をこきおろしたり、皮肉ったりしているので、必ずしも、その説を、そのまま信用」できないとし、Kuykendall(本号353)もアームストロングの著作に批判的であり、正確な資料として、ハワイ州立公文書館所蔵の書簡及び文書類をあげている、ことを指摘している(渡辺書, p. 408, 456, Kuykendall, *Hawaiian Kingdom* 3, p. 687)。これに対し荒俣は、「齒に衣着せぬアームストロングの筆のおかげで、カラカウア王の陽気さや無邪気さ……が、かえって印象ぶかく描きだされたともいえる。」としている(荒俣訳, p. 19)。
- 39) 三部作のうち、v. 1は1957年、v. 2は1953年に刊行されているが、v. 3が、Kuykendallの死(1963年)の後、1967年に刊行されるに至った経緯について、v. 3, 'Publisher's Note'(pp. v-vi) 及び 'Preface' by Charles H. Hunter (pp. vii-viii) を参照。
- 40) 日米移民問題に関する文献については、主題別主要文献において後掲するが、瀬川善信「日米移民問題と外務省」『埼玉大学紀要 社会科学篇』15 (1967年): 1968. 3, pp. 1-17は、日米移民問題を米国における排日問題とし、米国移民法及び各排日事件における、明治中期から大正末期までの日本外務省の対応を纏めている。『日本の移民研究 動向と目録』pp. 51-83 (『II 日系人—受け入れと定着に関する諸問題—1 アメリカ合衆国本土』), 同pp. 155-160 (『III 国際関係の中の移民—3 日米関係』)は、1992年9月までの文献を集大成する。また、北米における「地方日本人史」「在米県人史」について詳しくは、阪田278『資料集 解

説・資料編』pp. 68-73を参照のこと。「在米日本人史」を含めこれら資料の問題点指摘 (pp. 9-20)は傾聴に値する。‘UCLA・JARPコレクション’収蔵に限られるが、前掲183. Ichioaka, A Buried Past. (『参考書誌研究』No. 48, pp. 26-27)は北米日系移民資料に関する基本的文献目録である(「在米日本人史」は12タイトル、「地方日本人史」はハワイを含む30タイトル、「在米県人史」については18タイトルを収録・解題する)。pp. 71-82. A Buried Past II.につき、本号注8)参照。また、奥泉栄三郎『『米国西北部日本移民史』解説』(本号362『米国西北部日本移民史』下巻、雄松堂、1994)は、「在米日本人関係史籍および発展史一覧表(戦前の部)」(pp. 解説六-八)を纏めている。

初期の日本人移民から、排日、太平洋戦争を経て、「モデル・マイノリティ」としての日系アメリカ人へ、アメリカにおける日本人移民・日系アメリカ人の立場の変化をとおして、19世紀後半から最近までの日米関係史を描く、飯野正子『もう一つの日米関係史 紛争と協調のなかの日系アメリカ人(仮題)』有斐閣、が近刊予定である。

アメリカ各州レベルでの日本との関係を概観するもの、及び日本の各都道府県側から米国との交流を調査したものとして、次の資料がある。構成は各州・各都道府の交流の度合いにより多様であるが、各地域における、日本人及び日系人の歴史及び現状の把握にも資するものである。

○国際交流基金日米センター編『米国の地域レベルの日本関連活動 調査報告』v. 1, v. 2, 国際交流基金日米センター, 1993, 1994 <UA81-E133>

○Japan Foundation, Center for Global Partnership ed., The Survey Reports on Japan-Related Regional Activities in the U. S. v. 1, v. 2, Japan Foundation, Center for Global Partnership, 1993, 1994. <UA81-A25>

○国際交流基金日米センター編『日本の地域レベルの国際化と米国との交流活動調査報告』v. 1, v. 2, 国際交流基金日米センター, 1994, 1996 <UA81-E160>

○Japan Foundation, Center for Global Partnership ed., The Survey Reports on Regional Internationalization and U. S.-Related Exchange Activities in Japan. v. 1, v. 2, Japan Foundation, Center for Global Partnership, 1994, 1996. <UA81-A38>

- 41) 新井領一郎(1855-1939)は、高峰譲吉と並ぶ、戦前のニューヨーク日本人社会の「重鎮」で、1870年代から1880年代にかけて日本産生糸の「直輸」(direct trade)に大きな貢献をなし、その後の日米貿易の礎を築いた。下掲『絹と武士』(邦訳)の著者ハル・マツカタ・ライシャワー(エドウィン・O. ライシャワー夫人)は、松方正義の子正熊と結婚した、新井の娘ミヨの子「春子」である。新井につき、前掲153. Japanese American History: A-to-Z Reference from 1868 to the Present. p.105., T. Scott Miyakawa. "Early New York Issei: Founders of Japanese American Trade." in Conroy and Miyakawa, eds. East Across the Pacific. 1972. pp. 156-186. (前掲276), 及びHaru Matsukata Reischauer. Samurai and Silk: A Japanese and American Heritage. Cambridge: Belknap Pr. of Harvard Univ. Pr., 1986. <GK81-A5> ほか(邦訳: 広中和歌子訳『絹と武士』文藝春秋, 1987 <GK81-E3> ほか)を参照のこと。また、阪田安雄『明治日米貿易事始一直輸の志士・新井領一郎とその時代』東京堂出版, 1996(豊明選書) <DE281-G3>(後掲)は、UCLA図書館所蔵「新井領一郎文書」等に基づいた詳細な考察。

42) 「在米県人史」につき、注40) 参照。

43) 本書が「在米日本人史」であるにも拘わらず、内容がカリフォルニア州中心となってい

- るのは「在留邦人の大多数が加州に居住して居り、邦人の發展が殆ど此處に端を發してゐるため……」だとしている(本書、「凡例」)。また本書が、在米日本人史並びにこれまでの記念刊行物等を総括するものとして、貴重であるとしながらも、「『事実』と『物語』が混ざ織られている織物である」という指摘は、この時期の同種の「在米日本人史」に関する注意としても重要である(阪田278『資料集 解説・資料編』pp. 11-13, 16-19)。本書の編纂過程において「蒐集」した膨大かつ貴重な資料の消失につき、阪田同書、pp. 34-35を参照のこと。
- 44) 在米「日本人会」に関する実証的研究は少ない。消失等による資料自体の少なさがその大きな原因であると言われている(阪田278『資料集 解説・資料編』p. 55)。その意味で、「中央日本人会」の議事録等に依拠した本書は、基礎資料として重要である。初期「日本人会」の概略につき、398. Ichioka, *The Issei*. pp. 156-164. (邦訳399『一世』pp. 175-182)、関係資料につき、183. Ichioka, *A Buried Past*. pp. 117-123. を参照のこと。
- 45) 本書には、藤岡の長年にわたるジャーナリストとしての経験から、他の文献に含まれない記述が多く含まれ貴重である。当初、278『日系移民資料集 北米編』にも覆刻・収録の予定であったが、刊行が戦後であることから収録の対象から外された(阪田278『資料集 解説・資料編』pp. 54-55)。なお、林かおり『日系ジャーナリスト物語』信山社、1997(「アメリカ西海岸の日本人指導者藤岡紫朗一彼にとっての祖国日本」pp. 129-176) <UC151-G4> (後掲)が、「忠誠登録」というサブプロットを持たせ、藤岡の軌跡を辿る。'UCLA・JARPコレクション'に、『羅府新報』連載時の取材資料が収蔵されている('FUJIOKA PAPERS. 1954-1959.').
- 46) 『米国日系人百年史』の刊行事情及びその「資料」としての留意点につき、阪田278『資料集 解説・資料編』p. 19, p. 55を参照のこと。
- 47) 編者藤井は『シカゴ新報』(1945年創刊)の創刊者で、本書執筆時は編集長の職にあった。急進的な北米邦字紙のなかでもとりわけ「『シカゴ新報』は、赤狩りとマッカーシズムを系統的にとりあげ、告発していた」(陸井三郎『ハリウッドとマッカーシズム』筑摩書房 1990, 社会思想社 1996 (現代教養文庫)「あとがき」)。『シカゴ新報』及び藤井寮一につき、田村紀雄『アメリカの日本語新聞』新潮社、1991 (新潮選書) pp. 219-225 <UC151-E5> (後掲)、田村紀雄「『シカゴ新報』の成立と日本人左翼の役割」内川芳美・森泉章編『法とジャーナリズム 清水英夫教授還暦記念論集』日本評論社、1983, pp. 217-234, 小塩和人「『暗い過去』から『輝かしい現在』へ—シカゴの日系人再定住がエスニック・コミュニティ再建に果たした歴史的役割」『移住研究』25 : 1988. 3, pp. 46-56 <Z3-854>を参照のこと。
- 48) アメリカ西部及び西北部における初期日本人移民の労働事情については、本号386. 村山裕三『アメリカに生きた日本人移民』(「第3章 就労」「第4章 労働請負人の盛衰」「第5章 賃金差別の解消」)、同「日系人に対する賃金差別の消滅—米国西北部を中心に—」『アメリカ研究』18 : 1984. 3, pp. 157-176 <Z8-43>, 及び本号398. Ichioka, *The Issei*, 'Chap. III Labor-Contracting System' 'Chap. IV Labor Organizing and Organized American Labor' (邦訳399『一世』, 「第二章 人夫請負制」「第三章 労働組織とアメリカの組織労働」)等の研究があるが、「西部開拓史」における位置づけという視点が斬新であろうか。西部開拓と日本人との関わりについて、鶴谷壽『アメリカ西部開拓博物誌』PMC出版、1987 <GH82-45>, 『同』増補版、1990 <GH82-E12> も参照のこと。
- 49) 本書は、1970年代以降に展開したいわゆる「新しい社会史」研究に位置するものである。「社会史」研究の意義及びその業績について、後掲417. 阿部亨・五十嵐武士編『アメリカ研

- 究案内』東京大学出版会, 1998, pp. 67-85 <GH81-G8> を参照のこと。また本書の評価につき、『アメリカ研究案内』pp. 75-76, 及び伊藤一男(『週刊読書人』1995. 11. 10), 米山裕(『東京大学アメリカン・スタディーズ』1: 1996. 4, pp. 121-125) による書評を参考のこと。
- 50) 阪田安雄「脱亜の志士と閉ざされた白哲人の楽園—民権派書生と米国に於ける黄色人種排斥」(『II シナ人排斥と民権派書生—2 在米民権家書生と黄色人種排斥問題』)pp. 109-110 ほか) 田村・白水編『米国初期の日本語新聞』<UC151-9> (前掲144), 前掲143, 蛭原『海外邦字新聞雑誌史』pp. 149-156ほか等参照。尺魔はまた, 自ら創刊した滑稽雑誌『臆はづ誌(臆答誌)』(1895, 明28年創刊, 1898年33号で廃刊)に, 桑港福音会サンフランシスコに関係のある英国婦人を誹謗する戯画を掲載したことで, 誹謗罪に問われ, 在米日本人筆禍の最初としても知られている。蛭原『海外邦字新聞雑誌史』「第十章 取締と筆禍」—「三, 雑誌筆禍実例」pp. 297-305参照。
- 51) 合衆国「移民法」の概略については前述したが(『参考書誌研究』No. 47, p. 12, p. 15注13), 「排日土地法」「排日移民法」等を含め関連文献については, 主題別主要文献において後掲する。
- 52) 'UCLA・JARPコレクション'については, 後述するが, 「全米日系市民協会(JACL)」と「日系人研究プロジェクト(JARP)」(当初は'Issei History Project')の関係につき, 本書邦訳395『ジャパニーズ・アメリカン』巻頭pp. 4-13「まえがき」(シゲオ・ワカマツ), 本号393『バンブー・ピープル』巻頭pp. 12-14「すべての一世代のために—まえがき」, 及びHosokawa, Bill. JACL in Quest of Justice: The History of the Japanese American Citizens League. William Morrow, 1982, pp. 312-316. <DC812-A31> <移(四)-Y24> (邦訳: 飯野正子他訳『120%の忠誠 日系二世・この勇気ある人びとの記録』有斐閣, 1984 (有斐閣選書R 20) <DC812-199>) (後掲)を参照のこと。なお, 「全米日系市民協会」の活動・参考文献につき, 前掲153. Japanese American History: An A-to-Z Reference from 1868 to the Present. pp. 182-184, 前掲250. The Asian American Encyclopedia. vol. 3, pp. 712-715. を参照。Hosokawa, JACL in Quest of Justice. は, JACLの詳細な正史。「日系人研究プロジェクト」では当初, アメリカにおける日系人についての「総合的な」歴史書の刊行を計画したが, 結局, 次のような「分野別」史の刊行となった。
- 〔通 史〕本書394. Wilson & Hosokawa, East to America. 1980. (邦訳: 395)
- 〔社会史〕Hosokawa, Bill. Nisei: The Quiet Americans. William Morrow, 1969. <EC136-7> <岸-274> (邦訳: 井上勇訳『二世 このおとなしいアメリカ人』時事通信社, 1971 <DC812-20> <岸-1497>) (後掲)
- 〔法律史〕本号392. Chuman, The Bamboo People. 1976. (邦訳: 393)
- 〔農業史〕Iwata, Masakazu. Planted in Good Soil: A History of the Issei in the United States Agriculture. 2v, Peter Lang, 1992. <DC812-A54> (後掲)
- 53) 本書邦訳395『ジャパニーズ・アメリカン』p. 375「監訳者あとがき」(猿谷要)。
- 54) 日加移民問題に関する主題別主要文献については後掲するが, 詳しくは, 『日本の移民研究 動向と目録』pp. 96-101 (『II 日系人—受け入れと定着に関する諸問題—3 カナダ』), 同pp. 160-162 (『III 国際関係の中の移民—5 日加関係』), 及び本号270飯野『日系カナダ人の歴史』「文献解題」(巻末pp. 7-20)並びに本号注4) 所収文献等を参照のこと。
- 55) 「全加日系市民協会(NJCCA)」は, 1980年, 「全加日系人協会(NAJC) National Association of Japanese Canadians」と改称された。

- 56) カナダ漁民及びスティヴストンについて、例えば以下のものも参照のこと（書誌事項等につき詳しくは、主題別主要文献において後掲する）。小林貞二『須知武士道漁者慈善団体三十五年史』（後掲443『カナダ移民史資料』第4巻〈DC812-E216〉所収）、蒲生正男編『海を渡った日本の村』中央公論社、1962〈334.451-G15u〉、鶴見和子『ステブストン物語 世界の中の日本人』中央公論社、1962〈334.451-Tu763s〉（『コレクション 鶴見和子曼陀羅 2人』の巻-日本人のライフ・ヒストリー-藤原書店、1998〈US21-G27〉に再録。）、林林太郎『黒潮の涯に』〔Steveston, 林林太郎〕、1974〈DC812-E59〉、山形孝夫『失われた風景 日系カナダ漁民の記録から』未来社、1996〈DC812-G36〉、Rolf Knight. A Man of Our Times: The Life-History of a Japanese-Canadian Fisherman. Vancouver: New Star Books, 1976. 〈DC812-A64〉
- 57) 日系移民第一号「永野万蔵」について、森研三・高見弘人『カナダの万蔵物語』尾鈴山書房、1977〈GK89-29〉を参照のこと。
- 1907年9月7日、ヴァンクーヴァー市の日本人街及び中国人街が暴徒に襲撃された「晩香坡暴動」が発生した。この暴動は、翌1908年1月の、日本人移民の「数量的制限」に関する「紳士協約」いわゆる「ルミュー協約」の発端となったものとして、日系カナダ人史において極めて重要な意味を持っている。本書では、この件に関し、「この暴動の詳細については、飯野正子・馬場伸也の『移民問題をめぐる日・米・加関係』という優れた研究が上梓されているので、ここでは繰り返さない。」として記述を省略している（本書、p. 57）。しかし、飯野・馬場論文（本号注14）所収）は、日本人移民問題における「カナダの政策決定に与えるアメリカの影響力」について述べたものであり、「晩香坡暴動」に関しても、かかる文脈のなかで触れられているに過ぎない。本暴動に関しては、むしろ、飯野・馬場論文（注）に引用されている論稿、飯野正子・高村宏子「ヴァンクーヴァー暴動に関する一考察」『津田塾大学紀要』13：1981. 3, pp. 1-32, 及び同「ヴァンクーヴァー暴動からルミュー協約へ一日加間の交渉とアメリカ政府の働きかけ」『津田塾大学紀要』14(2)：1982. pp. 41-72等を引き合いに出すのが適切であったかも知れない。
- 58) 梶田孝道「書評」『學鑑』96(1)：1999. 1, pp. 54-57は、米加関係に即して、本書を鋭く分析している。また佐々木敏二「書評」『カナダ研究年報』18：1998. 9, pp. 66-68は、方法論の違いを前提として、各章にわたり感想を述べている。
- 59) 戦時下、東洋人の生活水準引上に関する『ニューカナディアン』紙掲載記事について、後掲445『海外ヘユートピアを求めて』pp. 264-268（『ニューカナディアン』記事〔戦時下、日系人への差別を憂う〕）を参照。
- 60) 今井輝子「書評」『カナダ研究年報』1：1979, pp. 87-89は、各章内容を要約し、諸々不十分な点はあるものの、「日系カナダ人が直面したカナダ民主主義に内在する問題をみごとに提示して」おり、一般カナダ人の「啓発」という目的を十分に果たしている、としている。
- 61) 収録両書（A Dream of Riches. 〈DC812-49〉、『千金の夢』〈DC812-184〉）は同一のものであるが、書誌事項（出版社・出版者・出版年）に齟齬がある。本号書誌事項の記述にあたっては、両書を確認のうえ（奥付等かかる書誌事項を確認できる記載は一切ない）、洋図書分類〈DC812-49〉書誌事項は、『国立国会図書館蔵書目録 洋書編 昭和23年-昭和61年8月』及び「Library of Congress Online Catalog」、和図書分類〈DC812-184〉書誌事項は、『国立国会図書館蔵書目録 昭和52-60年』（前掲206『カナダ関係邦語文献目録 II』も同記述）に拠った。

- 62) 本号270. 飯野『日系カナダ人の歴史』の第一章(「移民の始まり」)から第五章(「再定住」)まで各章頭の掲載写真は、すべて本書Nikkei Legacy. からの転載である。移民初期から再定住期までの日系カナダ人及び日系社会の写真に関して、まず参照されるべきものであろう。
- 63) 例えば「黒人」との関連で、日系人強制収容に対する補償運動への「黒人革命」の影響が指摘されているし(猿谷要『歴史物語 アフリカ系アメリカ人』朝日新聞社, 2000(朝日選書 641) pp. 332-335), 町村敬志『越境者たちのロスアンジェルス』平凡社, 1999(平凡社選書 190)は、「越境者」と「エスニック」という概念を手懸かりに、ロスアンジェルスという舞台空間での、黒人と日系人との共存関係を描き出している(「第3章 交錯する場所, 重層する記憶—アフリカ系アメリカ人と日系アメリカ人」)。
- 64) 英語文献の復刻では、例えば、Arno Press (New York)から『*The American Immigration Collection*』シリーズとして、第一期41巻(1969年)・第二期33巻(1970年)の基本資料が刊行されている(本号309. Ichihashi, Japanese in the United States. 等)。また、1978-79年には、政府刊行物を含む、日系・中国系移民に関する重要文献の復刻シリーズ『*The Asian Experience in North America: Chinese and Japanese*』が同じくArno Pr. から刊行されている。同シリーズ中、国立国会図書館で所蔵する日系移民関係のタイトルは以下のとおり。(著者名アルファベット順, < > 内は複製版請求記号, 原本のみ所蔵の場合に限り, 原本請求記号である旨注記した。)
- Bell, Reginald. Public School Education of Second-Generation Japanese in California. 1935. <FB82-163>
 - California State Board of Control. California and the Oriental: Japanese, Chinese, and Hindus. 1922. <DC812-28>
 - Canada, Dept. of Labour. Two Reports on Japanese Canadians in World War II. 2 vols. in 1. 1944 1947. <GA82-200>
 - Canada, Royal Commission on Chinese and Japanese Immigration. Report of the Royal Commission on Chinese and Japanese Immigration. 1902. <DC812-34>
 - Coman, Katharine. The History of Contact Labor in the Hawaiian Islands. 1903. and Andrew W. Lind. Hawaii's Japanese. 1946. 2vols. in 1. <EL53-81>
 - Conroy, Hilary. The Japanese Frontier in Hawaii, 1868-1898. 1953. <DC812-26> (本号335)
 - Daniels, Roger. ed. Three Short Works on Japanese Americans. 1979. <DC812-35>
 - Daniels, Roger. ed. Two Monographs on Japanese Canadians. 1979. <DC812-31> <DC812-A66> (本号411)
 - Flowers, Montaville. The Japanese Conquest of American Opinion. 1917. <DC812-24>
 - Gulick, Sidney L. American Democracy and Asiatic Citizenship. 1918. 原本: <325-G972a>
 - Hata, Donald Teruo, Jr. "Undesirables," Early Immigrants and the Anti-Japanese Movement in San Francisco, 1892-1893. 1979. <DC812-33>
 - Japan, Consulate General. Documental History of Law Cases Affecting Japanese in the United States, 1916-1924. 2vols. in 1. 1925. <AU-631-54>

- Kachi, Teruko Okada. The Treaty of 1911 and the Immigration and Alien Land Law Issue Between the United States and Japan, 1911-1913. 1979. <DC812-29>
- Kawakami, Kiyoshi K. The Real Japanese Question. 1921. <DC812-23>
- LaViolette, Forrest E. Americans of Japanese Ancestry: A Study of Assimilation in the American Community. 1945. <DC812-37>
- Matsumoto, Toru. Beyond Prejudice: A Story of the Church and Japanese Americans. 1946 <GA82-199>
- McClatchy, Valentine S. Four Anti-Japanese Pamphlets. 1979. <DC812-38>
- Mears, Eliot Grinnell. Resident Orientals on the American Pacific Coast: Their Legal and Economic Status. 1928. 原本: <特9-0578>
- Millis, H. A. The Japanese Problem in the United States. 1915. <DC812-27>
- O'Brien, Robert W. The College Nisei. 1949. <FD25-280>
- Okubo, Mine. Citizen 13660. 1946. <GA87-39>
- Steiner, Jesse F. The Japanese Invasion: A Study in the Psychology of Inter-Racial Contacts. 1917. <DC812-36>
- Sugimoto, Howard Hiroshi. Japanese Immigration, the Vancouver Riots and Canadian Diplomacy. 1979 <DC812-39>
- Thompson, Richard Austin. The Yellow Peril, 1890-1924. 1979. <DC812-32>
- U. S. House of Representatives, Committee on Immigration and Naturalization. Japanese Immigration: Hearings. 1921. <BU-7-128>
- U. S. House of Representatives, Select Committee Investigating National Defense Migration. National Defense Migration: Hearings. <DC812-22>
- U. S. Dept. of State. Report of the Honorable Roland S. Morris on Japanese Immigration and Alleged Discriminatory Legislation Against Japanese Residents in the U. S. 1921. <DC812-25>
- U. S. Dept. of War. Final Report: Japanese Evacuation from the West Coast, 1942. 1943. 原本: <940.547273-Ua74f>
- Wong, Eugene. On Visual Media Racism: Asians in the American Motion Pictures. 1979. <EC136-29>
- Yatsushiro, Toshio. Politics and Cultural Values: The World War II Japanese Relocation Centers and the United States Government. 1979 <GA82-201>
- Young, Chales H., Helen R. Y. Reid and W. A. Carrothers. The Japanese Canadians. 1938. <DC812-30> <DC812-A23> (本号407)

65) 渡米奨励機関の研究は、榎本武揚が中心となった明治前半期の「殖民協会」(後述)・中期の片山潜「渡米協会」・島貫兵太夫(次注参照)の「力行会」に集中しているという(『日本の移民研究 動向と目録』p. 37)。片山・島貫の両者については、前掲桑井『外国人をめぐる社会史 近代アメリカと日本人移民』(pp. 33-39)及び今井(桑井)「明治期における渡米熱と渡米案内書および渡米雑誌」(pp. 320-328)が整理して便利である。

【片山潜】には、『渡米案内』(正統)の他に、『学生渡米案内』[労働新聞社]、明34<未所蔵>『新渡米』(正統)出版協会、明37, 38<YDM26907>(本書についても、片山編著だという説がある。)『渡米の秘訣』渡米協会、[明39]<YDM26923>等の渡米案内書がある。これら

渡米案内書の書誌事項(編著者・出版者・出版年)について、各引用者により些かの齟齬があるので、各種目録も参照し、「付表」(本注末)に纏めた。

片山の移民観・渡米奨励活動については、注8)所収【渡米熱……】関係論稿のほか、以下のものが参考になる。田村紀雄「若き片山潜—渡良瀬川の畔の一年—森鷗村との出会いから渡米まで」『現代の眼』21(9):1980.9, pp.200-205, 立川健治「片山潜」『史林』66(2):1983.3, pp.234-265, 立川健治「時代を吹きぬけた渡米論:片山潜の活動をめぐって」『汎』4:1987.3, pp.96-123, 菊川貞巳「片山潜とテキサス米作」『経済経営論叢』32(3):1997.12, pp.35-57, Orii, Kazuhiko, and Hilary Conroy. "Japanese Socialist in Texas: Sen Katayama." *Amerasia Journal*, 8(2):1981, pp.163-170. なお、本号396. The Japanese Texans. (邦訳397『テキサスの日系人』)のように、テキサスにおける米作経営に関し、片山への言及は不可避であるが、テキサスにおける米作に関する文献については後掲する。また、盟友であった山根吾一(『最近渡米案内』渡米雑誌社, 明39<YDM26897>)等の編著がある。)との関係で、岡林伸夫による一連の論稿も重要である。岡林伸夫「ある社会主義者の肖像—山根吾一覚書」『同志社法学』47(3):1995.9, pp.778-821, 「山根吾一と雑誌『社会主義』」『同志社法学』47(5):1996.1, pp.1343-1397, 前掲「『渡米雑誌』の発元—山根吾一の活動」『同志社法学』47(6), 「片山潜との訣別—山根吾一の活動・その後」『同志社法学』48(1):1996.5, pp.156-211, 前掲「『渡米雑誌』から『亜米利加』へ」『同志社法学』48(2), 「アメリカ排日問題と山根吾一」『同志社法学』48(4):1996.11, pp.1426-1475. 自伝としては、『自伝』改造社, 大正11<特103-226>(『改造』に大正9-10年に連載されたもの。1954年に岩波書店から復刻<289.1-Ka592z>, これを底本に『アメリカ古典文庫 23 日本人のアメリカ論』研究社, 1977<GH81-14>が抄録。), 「歩いてきた道」(片山潜生誕百年記念会編『片山潜著作集』全3巻, 片山潜生誕百年記念会, 1959-60<081.8-Ka592k>第1巻所収), 「わが回想」上・下, 徳間書店, 1967<289.1-Ka592w>等がある。著作目録については『片山潜著作集』第2巻, 第3巻にそれぞれ「著作目録」「目録補遺」があるが、隅谷三喜男『片山潜』東京大学出版会, 1960(近代日本の思想家 4)<289.1-Ka592Sk>「片山潜主要著作目録」(pp.241-258)は、『著作集』の「著作目録」に脱漏している雑誌・新聞論文も収録している。

- 66) 【島貫兵太夫】は、後に南米移民の中心となる「力行会」の創始者であり、他に『最近渡米策』日本力行会, 明治37<YDM26898>, 『実地渡米』日本力行会, 明治38<YDM26903>, 『新渡米法』博文館, 明治44<YDM26909>等の渡米案内書がある。島貫兵太夫『力行會とは何ぞや』警醒社, 明治44<YDM21430>は自伝。相沢源七『島貫兵太夫伝 日本力行会の創立者』教文館, 1986<GK128-109>, 立川健治「島貫兵太夫と力行会」『史林』72(1):1989.1, pp.106-132, 奥村直彦「島貫兵太夫の『力行教育』思想—その形成過程と移民事業への展開」『北米日本人キリスト教運動史』PMC出版, 1991, pp.497-549(前掲150)等が、その人と思想・活動を伝える。
- 67) 日本人移民・日系人に直接関わる論文の他に、他のマイソリティ集団との比較において日本人移民・日系人を扱っているものとして、例えば、次のような論文が収録されている。(原論文掲載誌の書誌事項省略)

* Daniels, Roger. "Chinese and Japanese in North America: The Canadian and American Experiences Compared." (v. 1, pp. 91-105)

* Saloutos, Theodore. "The Immigrant in Pacific Coast Agriculture, 1880-1940."

(v. 4, pp. 308-327)

- * Swierenga, Robert P. "Ethnicity and American Agriculture." (v. 4, pp. 349-370)
- * Masson, Jack and Guimary, Donald. "Asian Labor Contractors in the Alaskan Canned Salmon Industry, 1880-1937." (v. 5, pp. 159-179)
- * Takagi, Paul. "The Myth of 'Assimilation in American Life'." (v. 13, pp. 293-302)
- * Daniels, Roger. "Majority Images—Minority Realities: A Perspective on Anti—Orientalism in the United States." (v. 15, pp. 73-126)
- * Dinnerstein, Leonard. "The Supreme Court and the Rights of Aliens." (v. 17, pp. 65-75)

(じん しげじ 逐次刊行物部雑誌課)

出典—NDL目録：『国立国会図書館目録 明治期』／和歌山目録：『和歌山市民図書館所蔵移民資料目録 和文編1』／UCLA目録：A Buried Past／阪田安雄：『日系移民資料集 北米編 18 解説・資料編』／今井輝子：『明治期における渡米熱と渡米案内書および渡米雑誌』／立川健治：『明治後半期の渡米熱—アメリカの流行』／隅谷三喜男：『片山潜』

	『学生渡米案内』	『渡米案内』		『新渡米』		『渡米の秘訣』
		(正)	(続)	(正)	(続)	
NDL所蔵本 状 態 01/明34 02/明35 04/明37 05/明38 06/明39 07/明40	<未所蔵>	表紙なし/奥付 片山 潜 著 労働新聞社 発行 明34.8 (初版)	表紙なし/奥付 片山 潜 著 渡米協会 発行 明35.12 (初版)	表紙・奥付なし 出版協会 編 (第一章1頁) *友人宮本勘次郎 君一大抱負を以て 出版協会なるもの を興し、先づ『新 渡米』を出版すと (片山潜『新渡米』 序) * 明37.1.27 内交印	表紙/奥付 宮本勘次郎 編 出版協会 発行 明38.4 (初版)	表紙/奥付なし 片山 潜 著 渡米協会 [発行] [] *渡米案内を發行 して既に六年 (「北米事情」緒論)
NDL目録		片山潜 著 渡米協会、労働新聞社 発行 明34,35 (79,続編88p)		出版協会 編 出版協会 発行 明37,38 (120,続編140p)		片山 潜 著 渡米協会 発行 []
和歌山目録 (初版刊年)：目 録注記による			片山 潜 著 渡米協会 発行 7版/06.4 (1902.12)	出版協会 編 出版協会 発行 12版/06.10 (1904.1)	宮本勘次郎 編 出版協会 発行 5版/06.11 (1905.4)	
UCLA目録		片山 潜 著 労働新聞社 発行 1901	片山 潜 著 渡米協会 発行 1902	片山 潜 著 渡米協会 発行 1904		片山 潜 著 渡米協会 発行 1906(?)
阪田 安雄	(記述なし)	片山 潜 労働新聞社 発行 1901	片山 潜 渡米協会 発行 1902	片山 潜 労働新聞社 発行 1904	(記述なし)	片山 潜 渡米協会 発行 1906
今井 輝子	* 明34年8月に 『渡米案内』の初 版ともいふべき 『学生渡米案内』 を出版……その増 補版の『渡米案 内』(p.309)	片山 潜 労働新聞社 発行 明34	片山 潜 渡米協会 発行 明35	宮本勘次郎 出版協会 発行 明37	(記述なし)	片山 潜 渡米協会 発行 明40*「渡米案内 を發行して既に六 年」から推定(注 27)
立川 健治	1901.8.10『渡米 案内』(8.30の第 三版からその内容 にふさわしく『学 生渡米案内』とな る)を刊行(『汎』 4,p.98)	片山 潜 労働新聞社 発行 明34.8	片山 潜 渡米協会 発行 明35.12	宮本勘次郎 出版協会 発行 明37.1	宮本勘次郎 出版協会 発行 明38.4	片山 潜 出版協会 発行 明39.7
隅谷三喜男	片山 潜 著 労働新聞社 発行 1901	片山 潜 著 渡米協会 発行 1903 *『学生渡米案 内』の増補版(主 要著作目録備考)	片山 潜 著 渡米協会 発行 1903	(記載なし)	(記載なし)	片山 潜 著 出版協会 発行 1906

*ユウジ・イチオカは、片山潜は「一九〇一年、最初の渡米案内書を著わした。『学生渡米案内』と題する同書はたちまち成功を取め」としている。(『一世』p.115)

*岡林伸夫「片山潜との訣別—山根吾一の活動・その後」『同志社法学』48(1)は、片山と山根の確執を、『渡米雑誌』の動向を中心とした「渡米協会」の出版活動によって考察するが、「『渡米の秘訣』を刊行(七月、渡米協会発行)」(同論文、p.182)部分の注(44)を参考のために引用(抄)する。

—ただし、この『渡米の秘訣』(国立国会図書館所蔵)には奥付がないため、発行所については『光』……(1906年8月5日)……における紹介記事に基づき、刊行月はこの『光』の記事の掲載月日から推定した。なお『渡米の秘訣』の発行所はまもなく「出版協会」に移行されている……。これは片山が再度の渡米にあたって委託して行ったものであろう—「出版協会」は……宮本勘次郎……が経営する出版社で、片山の序文を付けた宮本自身の著書『新渡米』『続新渡米』を出版していた……。しかし……「宮本勘次郎、右の者一昨年三月限り解雇す目下関係なし、渡米協会」という告知が『渡米雑誌』……(1906年1月3日)……に掲示されている。—